清武町埋蔵文化財調査報告書 第26集

KIYOTAKE KAMINOHARU

清武上猪ノ原遺跡－2－

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2009

清武町教育委員会

巻頭カラー１　遺跡全景（北西上空より）

巻頭カラー2　土層断面

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成13・14年度事業区で実施した清武上猪ノ原遺跡（第2地区）の発掘調査報告書です。

本遺跡では、中世から近世のものと思われる溝状遺構や道路状遺構、また、縄文時代に燔製の食べ物を作っていた炉穴や蒸し焼き料理をしていた集石遺構など、旧石器時代から近世にかけての多種多様な遺構や遺物が数多く発見されています。

今後は、これら先人達の残した貴重な郷土の文化遺産を、学校や地域と十分な連携を図りながら授業や体験講座の教材として存分に活用し、21世紀を担う子供たちの豊かな知識と誠実な心の育成に繋げていきたいと考えております。また、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような現地見学や歴史講座などの生涯学習の機会も積極的に設け、原始の清武人の生活をより多くの方々に感じていただけるよう努めていく所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成21年３月

清武町教育委員会

教育長　神川　孝志

例　言

1．本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成13·14年度に実施された清武上猪ノ原遺跡（第2地区）の発掘調査報告書である。

2．調査における測量·実測については、井田篤、秋成雅博、冨田卓見及び実測補助員が行った。

（以上実測補助員）＊50音順　若杉知和（宮崎大学）　宮崎真琴、中村浩亮、高尾佳子（宮崎国際大学）

3．遺物·図面の整理及び報告書作成業務については、平成20年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した（概要報告書掲載分など一部については平成14年度に実施している）。

平成20年度　担　　当：井田、秋成、今村結記

整理作業員：

＊50音順

平成14年度　担　　当：井田、秋成、冨田

整理作業員：

若杉知和　　＊50音順

4．本書で使用した写真については、調査に関するものは井田、秋成、冨田が撮影し、報告書掲載遺物については井田、秋成が撮影した。又、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。

5．放射性炭素年代測定及び樹種同定については、㈱古環境研究所に委託した。分析結果については、本書P182からP186に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正^{14}C年代である。

6．石器実測及びトレースについては、一部を民間業者（岡三リビック・株式会社 九州文化財研究所）に委託した。なおこれらの委託業務の監修については秋成が行った。

7．本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版　標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。

8．本書では、磁北と座標北の２種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみG·Nと表示している）又、標高については海抜絶対高である。

9．本書に使用した記号は次のとおりである。

ＳＩ：集石遺構　ＳＣ：土坑（炉穴、陥し穴状遺構も含む）　ＳＺ：埋設土器　ＳＥ：溝状遺構　ＳＧ：道路状遺構

10．本書で使用した遺物番号については、次のとおりである。

第Ⅱ章　旧石器時代遺物包含層出土遺物No. 1～No.22

第Ⅲ章　縄文時代草創期遺物包含層出土遺物No. 1～No.24

第Ⅳ章　縄文時代早期遺物包含層出土遺物No. 1～No.412　遺構内出土遺物No.1～39

11．本書で使用した土層番号については、第3図基本土層図の番号を使用している。

12．本書の執筆と編集については井田、秋成が担当し、文責については本文目次に記している。

13．出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

第Ⅰ章　はじめに …… （文責）
第1節　調査に至る経緯と調査組織 …… 1　井田
1．調査に至る経緯 …… 1　〃
2．調査組織 …… 1　〃
第2節　遺跡の環境 …… 1　〃
1．地理的環境 …… 1　〃
2．歴史的環境 …… 1　〃
3．周辺遺跡 …… 4　〃
第3節　基本土層 …… 5　〃
第4節　調査の経過と方法 …… 6　〃
1．調査の経過 …… 6　〃
2．調査の方法 …… 6　〃
3．調査日誌抄 …… 6　〃
第Ⅱ章　旧石器時代の調査
第1節　調査区域の設定と遺構・遺物の検出状況について …… 9　秋成
第2節　遺構について …… 9　〃
第3節　遺物について …… 13　〃
第Ⅲ章　縄文時代草創期の調査
第1節　縄文時代草創期の遺構・遺物の検出状況について …… 19　〃
第2節　遺構について …… 19　〃
1．集石遺構 …… 19　〃
第3節　遺物について …… 19　〃
1．土器 …… 19　〃
2．石器 …… 19　〃
第Ⅳ章　縄文時代早期の調査
第1節　遺構 …… 27　井田
1．集石遺構 …… 27　〃
2．陥し穴状遺構 …… 49　〃
3．炉穴 …… 54　〃
4．土坑 …… 66　〃
5．埋設土器 …… 69　〃
6．遺構内出土遺物 …… 70　秋成・井田
第2節　遺物 …… 90
1．土器 …… 90　〃
2．石器 …… 121　秋成
第Ⅴ章　アカホヤ火山灰層上面における調査
第1節　溝状遺構 …… 167　井田
第2節　道路状遺構 …… 177　〃
第3節　土坑 …… 177　〃
第Ⅵ章　まとめ
草創期と早期の石鏃の分類作業について …… 181　秋成
清武上猪ノ原遺跡（第2地区）における自然科学分析 …… 182～185
調査抄録 …… 186

挿図目次

第1図　遺跡位置図（S＝1/25000）…… 2
第2図　遺跡周辺地形図（S＝1/2000）…… 3
第3図　基本土層図（S＝1/30）…… 5
第4図　削平状況図（S＝1/1000）…… 7
第5図　旧石器時代遺構・遺物分布図（S＝1/200）…… 10
第6図　旧石器時代土坑実測図（S＝1/30）…… 11
第7図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図①（S＝2/3）…… 12
第8図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図②（S＝2/3）…… 13
第9図　縄文時草創期遺構・主要遺物分布図（S＝1/600）…… 20
第10図　縄文時代草創期集石遺構実測図（S＝1/30）…… 21
第11図　縄文時代草創期遺物包含層出土土器実測図（S＝1/3）…… 22
第12図　縄文時代草創期遺物包含層出土石器実測図（S＝2/3）…… 23
第13図　縄文時代早期遺構配置図（S＝1/1000）…… 28
第14図　縄文時代早期集石遺構実測図①（S＝1/30）…… 36
第15図　縄文時代早期集石遺構実測図②（S＝1/30）…… 37
第16図　縄文時代早期集石遺構実測図③（S＝1/30）…… 38
第17図　縄文時代早期集石遺構実測図④（S＝1/30）…… 39
第18図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤（S＝1/30）…… 40
第19図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥（S＝1/30）…… 41
第20図　縄文時代早期集石遺構実測図⑦（S＝1/30）…… 42
第21図　縄文時代早期集石遺構実測図⑧（S＝1/30）…… 43
第22図　縄文時代早期集石遺構実測図⑨（S＝1/30）…… 44
第23図　縄文時代早期集石遺構実測図⑩（S＝1/30）…… 45
第24図　縄文時代早期集石遺構実測図⑪（S＝1/30）…… 46
第25図　縄文時代早期集石遺構実測図⑫（S＝1/30）…… 47
第26図　縄文時代早期集石遺構実測図⑬（S＝1/30）…… 48
第27図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図①（S＝1/40）…… 50
第28図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図②（S＝1/40）…… 51
第29図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図③（S＝1/40）…… 52
第30図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図④（S＝1/40）…… 53
第31図　縄文時代早期炉穴実測図①（S＝1/40）…… 57
第32図　縄文時代早期炉穴実測図②（S＝1/40）…… 58
第33図　縄文時代早期炉穴実測図③（S＝1/40）…… 59
第34図　縄文時代早期炉穴実測図④（S＝1/40）…… 60
第35図　縄文時代早期炉穴実測図⑤（S＝1/40）…… 61
第36図　縄文時代早期炉穴実測図⑥（S＝1/40）…… 62
第37図　縄文時代早期炉穴実測図⑦（S＝1/40）…… 63
第38図　縄文時代早期炉穴実測図⑧（S＝1/40）…… 64
第39図　縄文時代早期土坑実測図①（S＝1/40）…… 67
第40図　縄文時代早期土坑実測図②（S＝1/40）…… 68
第41図　縄文時代早期土坑実測図③（S＝1/40）…… 69
第42図　縄文時代早期埋設土器実測図（S＝1/3）…… 69
第43図　縄文時代早期埋設土器実測図（出土状況）（S＝1/5）…… 69
第44図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図①（土器：S＝1/3　石器：S＝1/2、2/3）…… 73
第45図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図②（土器：S＝1/3　石器：S＝1/2、2/3）…… 74
第46図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図③（土器：S＝1/3　石器：S＝1/2、2/3）…… 75
第47図　縄文時代早期遺物分布図（S＝1/1000）…… 89
第48図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図【形式別】（S＝1/1000）…… 91
第49図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S＝1/3）…… 94
第50図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S＝1/3）…… 95
第51図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S＝1/3）…… 96
第52図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S＝1/3）…… 97
第53図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤（S＝1/3）…… 98
第54図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S＝1/3）…… 99
第55図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦（S＝1/3）…… 100
第56図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧（S＝1/3）…… 101
第57図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑨（S＝1/3）…… 102
第58図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩（S＝1/3）…… 103
第59図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑪（S＝1/3）…… 104
第60図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫（S＝1/3）…… 105
第61図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬（S＝1/3）…… 106

第62図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑭（S＝1/3）…… 107
第63図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑮（S＝1/3）…… 108
第64図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑯（S＝1/3）…… 109
第65図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑰（S＝1/3）…… 110
第66図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑱（S＝1/3）…… 111
第67図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑲（S＝1/3）…… 112
第68図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑳（S＝1/3）…… 113
第69図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図【幹氣具】（S＝1/1000）…… 124
第70図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図【幹氣具以外】（S＝1/1000）…… 125
第71図　縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】（S＝1/1000）…… 126
第72図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S＝2/3）…… 127
第73図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S＝2/3）…… 128
第74図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③（S＝2/3）…… 129
第75図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④（S＝2/3）…… 130
第76図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤（S＝2/3）…… 131
第77図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥（S＝2/3）…… 132
第78図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦（S＝2/3）…… 133
第79図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧（S＝2/3）…… 134
第80図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨（S＝2/3）…… 135
第81図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩（S＝2/3）…… 136
第82図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪（S＝2/3）…… 137
第83図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑫（S＝2/3）…… 138
第84図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑬（S＝1/2）…… 139
第85図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑭（S＝1/2）…… 140
第86図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑮（S＝1/2）…… 141
第87図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑯（S＝1/2）…… 142
第88図　アカホヤ火山灰層上面検出遺構配置図（S＝1/1000）…… 168
第89図　溝状遺構実測図①（S＝1/250・〈土層図：S＝1/30〉）…… 169
第90図　溝状遺構実測図②（〈土層図：S＝1/30〉）…… 170
第91図　溝状遺構実測図③（S＝1/250・〈土層図：S＝1/30〉）…… 171
第92図　溝状遺構実測図④（S＝1/250・〈土層図：S＝1/30〉）…… 172
第93図　溝状遺構実測図⑤（〈土層図：S＝1/30〉）…… 173
第94図　溝状遺構実測図⑥（S＝1/250・〈土層図：S＝1/30〉）…… 174
第95図　溝状遺構実測図⑦（〈土層図：S＝1/30〉）…… 175
第96図　道路状遺構実測図（S＝1/50）…… 176
第97図　道路状遺構断面図（S＝1/20）…… 177
第98図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑実測図（S＝1/40）…… 177

写真図版目次

巻頭カラー1　遺跡全景（北西上空より）
巻頭カラー2　土層断面
写真図版1　調査風景 …… 8
写真図版2　旧石器時代遺構① …… 15
写真図版3　旧石器時代遺構② …… 16
写真図版4　旧石器時代遺構③ …… 17
写真図版5　旧石器時代遺構④ …… 18
写真図版6　旧石器時代遺物包含層出土石器 …… 18
写真図版7　縄文時代草創期遺構① …… 24
写真図版8　縄文時代草創期遺構② …… 25
写真図版9　縄文時代草創期遺物包含層出土石器 …… 25
写真図版10　縄文時代草創期遺物包含層出土土器 …… 26
写真図版11　縄文時代早期遺構① …… 76
写真図版12　縄文時代早期遺構② …… 77
写真図版13　縄文時代早期遺構③ …… 78
写真図版14　縄文時代早期遺構④ …… 79
写真図版15　縄文時代早期遺構⑤ …… 80
写真図版16　縄文時代早期遺構⑥ …… 81
写真図版17　縄文時代早期遺構⑦ …… 82
写真図版18　縄文時代早期遺構⑧ …… 83
写真図版19　縄文時代早期遺構⑨ …… 84
写真図版20　縄文時代早期遺構⑩ …… 85
写真図版21　縄文時代早期遺構内出土遺物① …… 86

写真図版22　縄文時代早期遺構内出土遺物② …… 87
写真図版23　縄文時代早期遺構内出土遺物③ …… 88
写真図版24　縄文時代早期遺物包含層出土土器① …… 147
写真図版25　縄文時代早期遺物包含層出土土器② …… 148
写真図版26　縄文時代早期遺物包含層出土土器③ …… 149
写真図版27　縄文時代早期遺物包含層出土土器④ …… 150
写真図版28　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤ …… 151
写真図版29　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥ …… 152
写真図版30　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦ …… 153
写真図版31　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧ …… 154
写真図版32　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨ …… 155
写真図版33　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩ …… 156
写真図版34　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑪ …… 157
写真図版35　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫ …… 158
写真図版36　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑬ …… 159
写真図版37　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑭ …… 160
写真図版38　縄文時代早期遺物包含層出土石器① …… 161
写真図版39　縄文時代早期遺物包含層出土石器② …… 162
写真図版40　縄文時代早期遺物包含層出土石器③ …… 163
写真図版41　縄文時代早期遺物包含層出土石器④ …… 164
写真図版42　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤ …… 165
写真図版43　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑥ …… 166
写真図版44　アカホヤ火山灰層上面検出遺構① …… 178
写真図版45　アカホヤ火山灰層上面検出遺構② …… 179
写真図版46　アカホヤ火山灰層上面検出遺構③ …… 180

表　目　次

第1表　近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会調査分） …… 4
第2表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表 …… 14
第3表　縄文時代草創期遺物包含層出土土器観察表 …… 23
第4表　縄文時代草創期遺物包含層出土石器計測分類表 …… 23
第5表　縄文時代早期集石遺構観察表 …… 33～35
第6表　縄文時代早期陥し穴状遺構観察表 …… 54
第7表　縄文時代早期炉穴観察表 …… 65
第8表　縄文時代早期遺構内出土遺物一覧 …… 71
第9表　縄文時代早期遺構内出土土器観察表 …… 72
第10表　縄文時代早期遺構内出土石器計測分類表 …… 72
第11表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表 …… 114～120
第12表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表 …… 143～146

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織

１．調査に至る経緯

平成７年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引地区）に伴い、事業区に清武上猪ノ原遺跡（第2地区）の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局からの委託を受けた清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

調査は平成13年10月23日から平成14年12月9日の２ヶ年度にわたって行われ、調査面積については15,200㎡であった。

２．調査組織

調査主体　清武町教育委員会

調　査（平成13･14年度）

事務局	
教育長	湯地　敏郎
教育次長	小城　員久
社会教育課長	川越　繁美
〃　課長補佐	岩切　繁明
〃　係長	伊東　但

調査員	
社会教育課主事	井田　篤
〃　主事	秋成　雅博
〃　嘱託	冨田　卓見

整理作業（平成20年度）

事務局	
教育長	神川　孝志
教育次長	児玉　秀樹
生涯学習課長	日高　貞幸
〃　係長	伊東　但

調査員	
生涯学習課主任	井田　篤
〃　主任	秋成　雅博

第２節　遺跡の環境

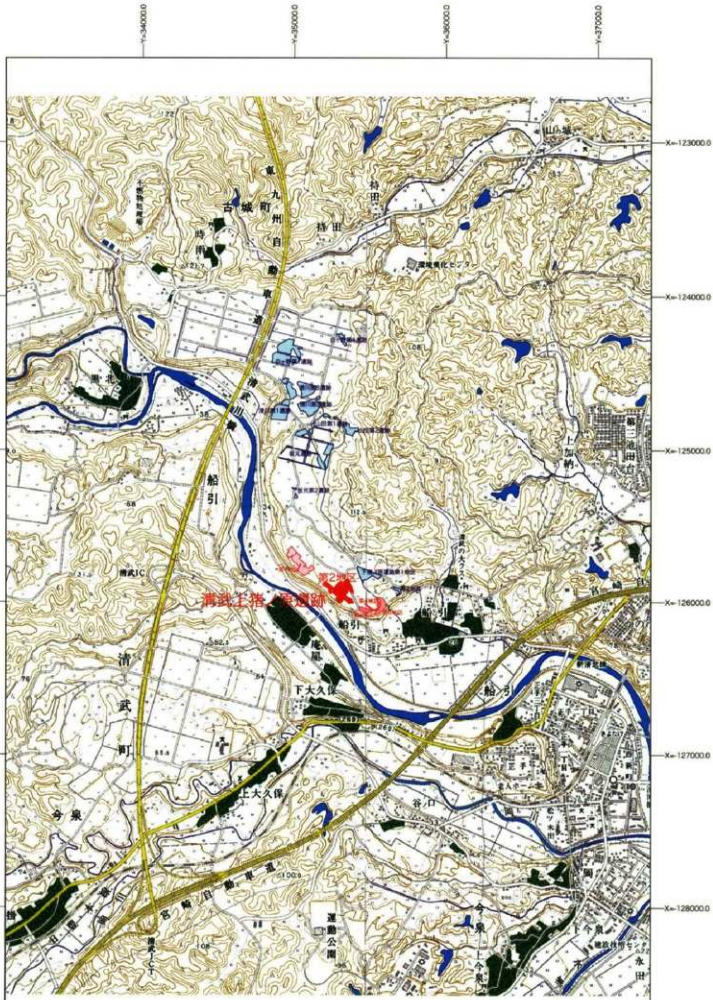
１．地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

清武上猪ノ原遺跡（第2地区）は、町内西方の標高約65m～68mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであったと考えられる。

２．歴史的環境

清武上猪ノ原遺跡（第2地区）は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてである。建久八（1197）年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、「船曳五十町、右宮崎郡内、弁済使法印、不知實名。」とあり、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在していたのではないかと推測される。



*旧日本測地系による

第１図　遺跡位置図（S＝1/25000）

第２図　遺跡周辺地形図（S＝1/2000）

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通じて飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだことになる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

3．周辺遺跡

清武上猪ノ原遺跡（第2地区）が立地する台地上では、平成３年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次ぎ、それに伴う発掘調査も宮崎県教育委員会や当教育委員会によって数多く実施されている。

第１表　近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会調査分）

No	遺跡名	調査期間	面積（㎡）	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査担当者
1	白ヶ野第１遺跡	H7.11.22 ～ H8.3.14 H8.7.22 ～ H8.12.28	17,200	縄文時代（早期～前期）・古代	集石遺構・土坑	縄文式土器・石器	伊東恒・井田篤
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第13集『白ヶ野第１・第４遺跡』						
2	白ヶ野第４遺跡	H8.7.22 ～ H8.11.10	1,900	縄文時代早期	集石遺構・土坑	縄文式土器・石器	井田篤
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第13集『白ヶ野第１・第４遺跡』						
3	滑川第１遺跡	H9.5.6 ～ H9.10.14 H10.5.6 ～ H11.3.31	17,620	縄文時代（早期～後期）・弥生・古墳・古代	集石遺構・炉穴・土坑・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器・土師器・須恵器	井田篤・松原一哉
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第21集『滑川第１遺跡』						
4	滑川第２遺跡	H9.8.1 ～ H10.3.31 H10.5.6 ～ H11.3.31	10,420	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	礫群・集石遺構・土坑・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器・土師器	井田篤・松原一哉
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第22集『滑川第２遺跡』						
5	滑川第３遺跡	H9.8.1 ～ H10.3.31	6,940	旧石器・縄文・弥生	礫群・集石遺構・陥し穴状遺構・土坑	石器・縄文式土器・弥生式土器	井田篤
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第23集『滑川第３遺跡』						
6	山田第１遺跡	H11.4.28 ～ H12.3.30 H12.7.10 ～ H12.8.4	7,700	旧石器・縄文・弥生・古墳	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器	井田篤・松原一哉
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第18集『山田第１遺跡』						
7	山田第２遺跡	H11.4.48 ～ H12.3.30	4,300	縄文・弥生・古代	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴	石器・縄文式土器	井田篤・松原一哉
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第20集『山田第２遺跡』						
8	坂元遺跡	H12.4.25 ～ H12.12.18	9,000	旧石器・縄文	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器	井田篤・松原一哉・安楽哲文
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第15集『坂元遺跡』						
9	坂元第２遺跡	H16.7.2 ～ H17.1.11	530	旧石器・縄文・中近世	溝状遺構	縄文式土器・石器	井田篤・若杉知和
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第16集『坂元第２遺跡』						
10	清武上猪ノ原遺跡（第１地区）	H12.12.11 ～ H13.11.16	14,000	縄文(草創期・早期)・弥生・古代	集石遺構・炉穴・陥し穴状遺構・土坑・竪穴式住居跡・掘立柱建物跡	縄文式土器・石器	井田篤・秋成雅博・冨田卓見
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第24集『清武上猪ノ原遺跡-1-』						
11	清武上猪ノ原遺跡（第３地区）	H13.10.23 ～ H14.12.9	15,200	旧石器・縄文・中近世	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・溝状遺構・土坑	縄文式土器・石器	井田篤・秋成雅博・冨田卓見
	《報告書名》清武町埋蔵文化財調査報告書第25集『清武上猪ノ原遺跡-3-』						
12	清武上猪ノ原遺跡（第４地区）	H15.9.22 ～ H16.7.23	1,300	旧石器・縄文・中世	掘立柱建物跡・集石遺構・陥し穴状遺構・堀設土壙	縄文式土器・石器	井田篤・冨田卓見・若杉知和
13	清武上猪ノ原遺跡（第５地区）	H17.7.26 ～ H20.5.30	3,700	旧石器・縄文・古墳・古代・中世	掘立柱建物跡・溝状遺構・竪穴住居跡・集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴	土師器・縄文土器・石器	秋成雅博・今村結記
14	下猪ノ原遺跡（第１地区）	H14.12.9 ～ H15.12.24	7,000	旧石器・縄文・弥生・中世	礫群・集石遺構・陥し穴状遺構・土壙墓・道路状遺構	石器・石製品・縄文式土器	秋成雅博
15	下猪ノ原遺跡（第２地区）	H16.4.26 ～ H17.2.17	1,200	旧石器・縄文・弥生・中近世	集石遺構・陥し穴状遺構・炉穴・堀設土壙	縄文式土器・石器	秋成雅博・草野喪舟
16	五反畑遺跡（A地区）	H19.6.1 ～ H19.10.18	1,370	縄文・弥生・古代・中近世	溝状遺構・掘立柱建物跡・土壙墓・土器集積遺構	土師器・須恵器・緑釉陶器・長沙銅官窯磁	今村結記
17	五反畑遺跡（B地区）	H19.11.21 ～ H20.5.29	1,110	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・近世	木棺墓・石棺墓・地下式横穴墓・竪穴式住居跡・集石遺構	縄文土器・弥生土器・石器・鉄器・骨製品	今村結記

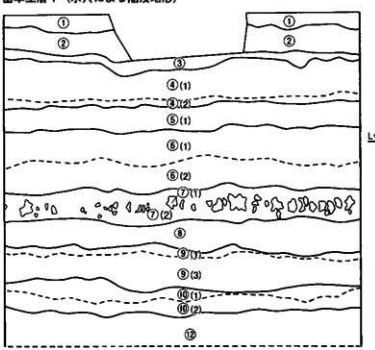
第３節　基本土層

土層の堆積状況については、当台地上の他の遺跡とほぼ同様である。しかし、この第２地区は15,200㎡と広大な面積であるため、異なる地形の３ヶ所で土層の確認作業を行った。

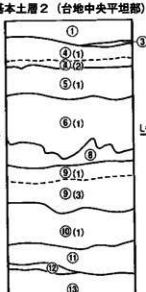
まず、水穴による陥没が確認された調査地での堆積状況（基本土層１）については、おおむね他の地形と同様の状況であったが、霧島・小林軽石層の上位において、当台地上で稀にみられるサツマ火山灰が確認された。この火山灰は白ヶ野第１遺跡でも確認されているが、窪んだ地形（窪んだ要因については様々）のみで堆積している傾向がみられる。次に、台地中央平坦部の調査地（基本土層２）であるが、ここでは当台地で最もよくみられる堆積状況が確認されている。最後に、台地端部の傾斜地での堆積状況については、その地形のためか他の調査地とはやや異なる様相であった。５・６層や10～12層といった遺物包含層の厚みがやや薄く、各火山灰層もやや２次的な堆積を想像させるように色調が若干薄めであった。以上が３ヶ所での土層確認状況であるが、詳細については第３図基本土層図のとおりである。＊巻頭カラー２を参照。

基本土層１（水穴による陥没地形）

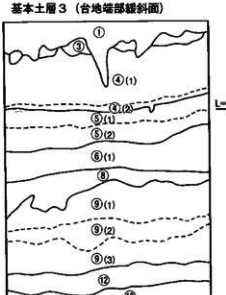
①耕作土
②黒色シルト層
③褐色（7.5YR4/4）シルト質ローム層
　28次堆積のアカホヤ火山灰層。
④(1)アカホヤ火山灰層　橙色（7.5YR6/8）
　(2)アカホヤ火山灰の軽石層
⑤(1)黒色（10YR1.7/1）シルト質ローム層
　やや硬質。全体に白色パミスを含む。
　(2)5(1)から6(1)への漸移層で、
　基本土層３のみ分層可能。
⑥(1)黒褐色（10YR2/2）シルト質ローム層
　黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ロームが
　20%程水混状に入る。
　(2)⑥(1)とほぼ同質だが、黄褐色シルト質
　ロームの割合が50%程である。向、基本
　基本土層１のみ分層可能。
⑦(1)サツマ火山灰ブロック
　(2)にぶ黄色（2.5Y6/4）ローム層
⑧暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質ローム層
　かなり硬質。風化した霧島・小林軽石を含んでいる。
⑨(1)霧島・小林軽石層　硬質。
　(2)　〃　　硬質。
　⑨(1)よりもやや軟質で、
　基本土層3のみで分層可能。
　(3)霧島・小林軽石層　きわめて硬質。
⑩(1)にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト質ローム層
　やや硬質。
　(2)⑩(1)から6(1)への漸移層。基本土層１のみ分層可能。
⑪明黄褐色（10YR6/6）シルト質ローム
　やや粘性を持ち、やわらかい。
⑫⑪層にシラスの小ブロックを含む。
⑬シラス



基本土層２（台地中央平坦部）



基本土層３（台地端部緩斜面）



第3図　基本土層図（S=1/30）　0　1m

第4節　調査の経過と方法

1．調査の経過

当調査区は、シラス台地の縁辺部に位置しており、元々は調査区の北東から南西にかけて緩やかに高くなる（屋際に向かってのぼっている）傾斜地であった。その緩やかな傾斜地を、昭和20年代に行った畑の造成の際にほぼ平らな地形にしていたため、表土下位は既に各層が露出している状況であった。

調査はまず、アカホヤ火山灰層上面での遺構の検出作業から行った。撹乱されている範囲も含めて精査したところ溝状遺構・道路状遺構・土坑などが検出された。

アカホヤ火山灰層降下後に構築されたであろう遺構の記録作業が全て終了した後、アカホヤ火山灰層を重機と人力により除去し、その後、当遺跡で最も密度の濃い文化層ともいえる縄文時代草創期・早期遺物包含層の掘り下げ作業に取り掛かった。この遺物包含層では、5層中位から6層下位にかけて様々な遺構が検出されるケースが多いため、包含層を薄く剥いでいく意識を徹底させながら掘り下げ作業を行い、加えて随時遺構の検出作業を行った。結果、この包含層では集石遺構や炉穴そして隔し穴状遺構や土坑が検出され、遺物の取り上げ作業と並行して遺構の記録作業も行った。

縄文時代草創期・早期の文化層についての調査終了後、旧石器時代の文化層を確認するためのトレンチ調査を実施した。結果、各種石器が出土したため、出土範囲については遺物包含層の掘り下げ作業を行った。

2．調査の方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。

遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

遺構実測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

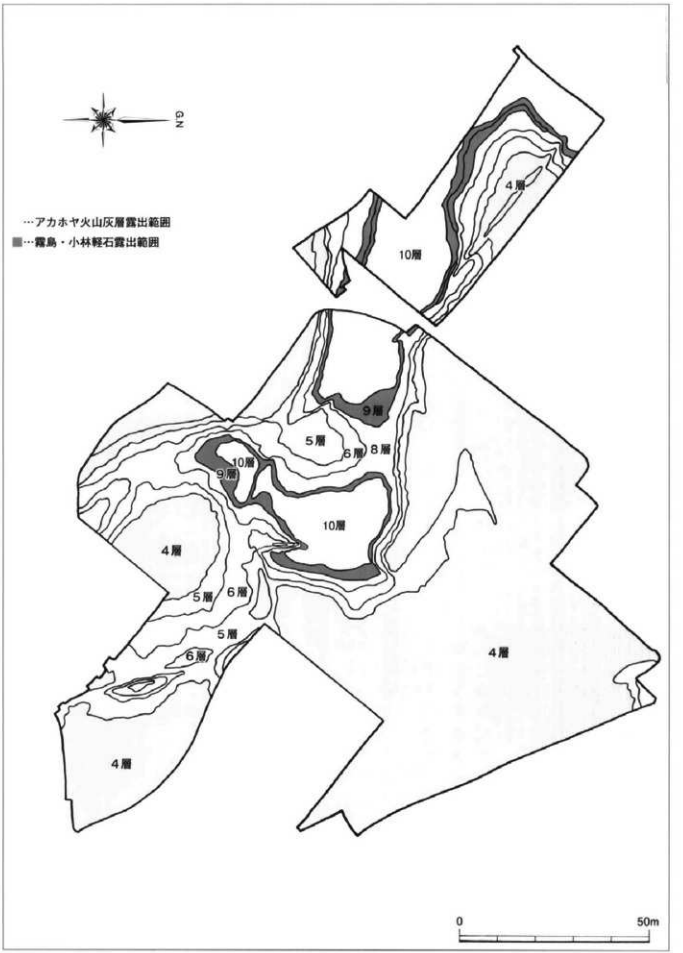
測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCADを利用してデジタルデータとして整理・管理した。

写真撮影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。

3．調査日誌抄

平成13年（2001）
- 10.19　プレハブの設置。　10.23　調査開始。〈調査区の設定及び表土剥ぎ取り作業の開始〉
- 10.26　遺構の検出作業開始。
- 11. 8　アカホヤ火山灰層上位黒色土の掘り下げ開始。⇒遺物はほとんど出土せず。
- 11.13　縄文時代草創期・早期遺物包含層の掘り下げ開始。
- 11.14　宮崎県立宮崎南高等学校の地域学習。　11.28　遺構の記録作業開始。

平成14年（2002）
- 1. 8　新に拡張した調査区（＝拡張部①）の表土剥ぎ取り開始。
- 1.24　拡張部①の記録作業開始。　1.17　プレハブの一部移転。
- 2.20　拡張部①の縄文時代草創期・早期包含層の掘り下げ作業開始。
- 2.26　関係各局参加の現場運営協議。
- 3. 7　関係各局参加の現場運営協議。　6. 7　スカイサーベイ
- 6.12　新に拡張した調査区（＝拡張部②）の表土剥ぎ取り開始。　6.14　拡張部②の記録作業開始。
- 6.19　拡張部②の縄文時代草創期・早期包含層の掘り下げ作業開始。
- 7.17　新に拡張した調査区（＝拡張部③）の表土剥ぎ取り開始。　7.23　拡張部③の記録作業開始。
- 10. 3　プレハブの移転。　10. 9　関係各局参加の現場運営協議。
- 10.24　旧石器文化層確認トレンチの掘り下げ開始。⇒確認後、旧石器包含層の掘り下げ。
- 12. 9　調査終了。



第4図　削平状況図（S＝1/1000）

写真図版１　調査風景

第Ⅱ章　旧石器時代の調査

第１節　調査区域の設定と遺構・遺物の検出状況について

旧石器時代の調査は、縄文時代早期の遺物包含層を掘り下げるときに設定したグリットの土層観察用のあぜに沿って幅1mのトレンチを人力によって掘り下げることから始めた。これらのトレンチからは遺物が出土しなかったため、調査区南西部の薩摩火山灰（基本層序7層）が確認された部分に約10m×約6mの旧石器時代の調査区を設定し、人力により掘り下げを行った。この調査区は薩摩火山灰の堆積が確認されており、薩摩火山灰層下位で遺物が出土した場合に、縄文早期と草創期の遺物の把握が層位的に分離できることも視野に入れて設定をおこなった。

掘り下げの結果、9層中より遺物が確認されたため、これらの遺物の広がりを把握するために、調査区を拡張しながら調査期間の期限日まで包含層の掘り下げを行った。最終的には旧石器時代の調査範囲は約380㎡となった。

旧石器時代の遺物は9層から11層にかけて出土した。12層まで掘り下げを行った場所も部分的にはあったが、12層中からは遺物は出土しなかった。調査期間の制限があり、設定した調査範囲すべてを12層まで掘り下げることはできなかった。9層から11層のかけての遺物の出土点数は9層が石器12点・礫28点、10層が石器28点・礫122点、11層が石器4点・礫17点となっている。平面的に遺物が集中する箇所が各層ともに同じであるという点、9層から11層まで無遺物層がなく遺物が出土するという点、9層の礫と10層・11層の礫が接合する点から判断して10層を中心とするひとつの石器群である可能性が高いと考えられる。

また、遺構については11層中において炭化物粒の分布が目立つところが2箇所、11層上面において不整形な平面プランの土坑が3基検出されている。後述するが、土坑については検出した面は11層であるが、10層中から掘り込まれていた可能性が高い。

本遺跡における旧石器時代の調査はこのようなトレンチ調査であり、調査区全面に及ぶものでない。本来は旧石器時代の遺物包含層が確認されたのであれば、設定された調査区の全域において旧石器時代の調査を試みるべきである。だが、船引地区遺跡群の発掘調査においては縄文早期の遺構・遺物の密度が非常に濃いことが多い。そのため縄文早期の調査に膨大な労力をつぎ込むこととなり、その結果として旧石器時代の調査に労力を割くことができなくなるということが実情である。この問題を解決するためには、基本的なことであるが、試掘調査結果に基づいた十分な調査期間の確保と旧石器時代の調査の効率化が必要である。

第２節　遺構について

礫群

設定された調査区の全域に直径5cm～拳大程度の礫が出土している。調査区の北側では散漫な状況であるが、遺物の集中する調査区の南側では遺物と共に礫も集中して出土している。拳大以上の礫がすきまなく密集して検出されることはなかったため、礫の出土状況の記録作業はトータルステーションで出土位置を記録するということにとどまった。

炭化物の分布

調査区の西側に炭化物粒の分布が目立つところが2箇所確認された。炭化物はなんとか耳かきで引き上げられる程度のものばかりで、それ以上の大きさのものは見られなかった。

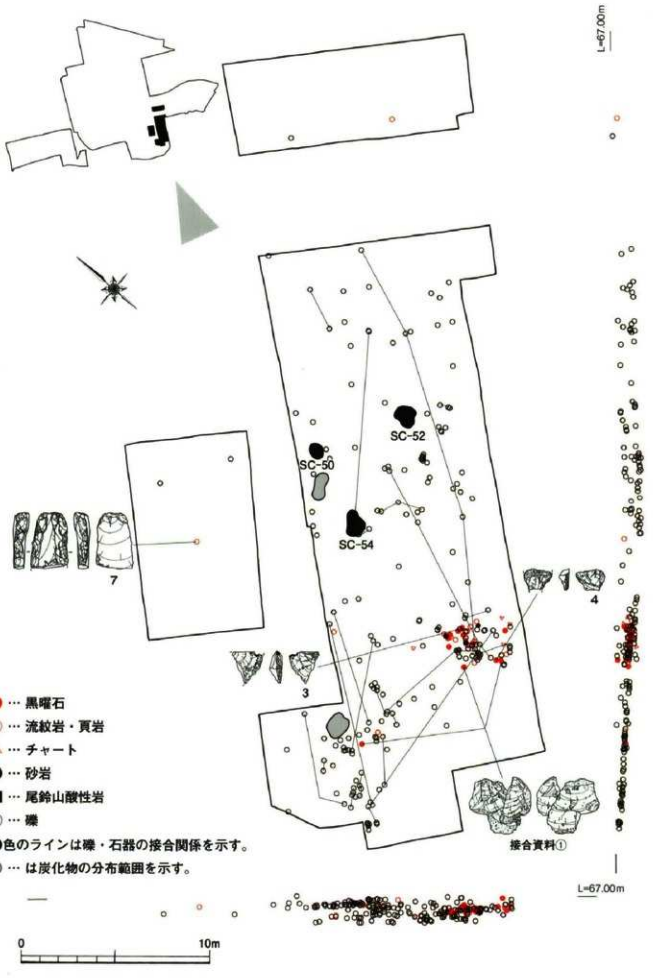
土坑

SC-50

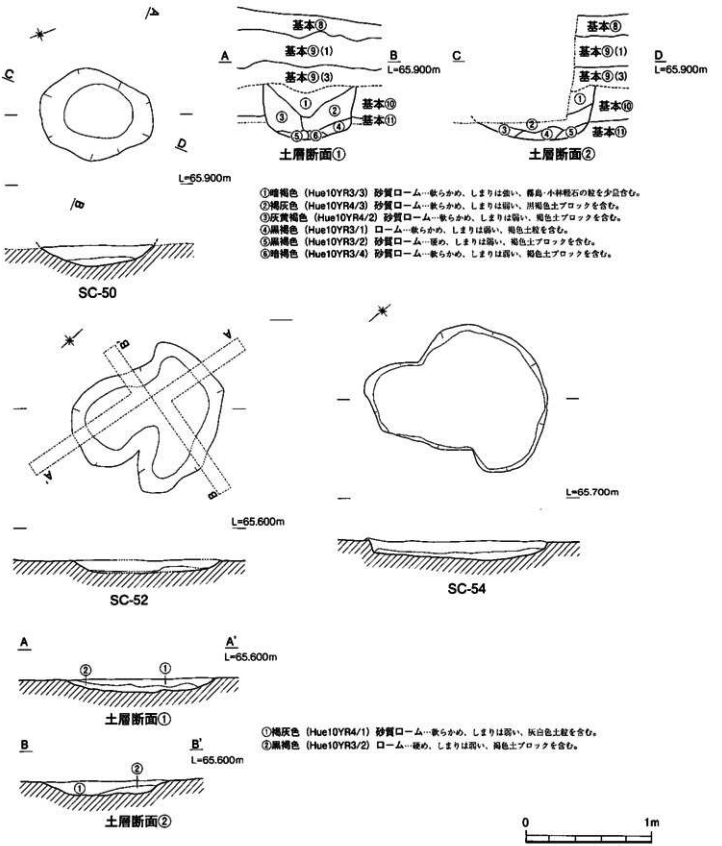
平面プランは11層上面で検出されたが、検出時に調査区の境界部分に引っかかっていたため、掘り込みの層位を土層断面で確認することができた。土層観察の結果、この遺構は基本層序の10層から掘り込まれていることが確認された。11層上面での平面プランは不整楕円形で長軸は0.91m、短軸は0.69m、深さは0.18mを測る。土層断面から本遺構の深さを計測すると、0.45mになる。

SC-52

平面プランは11層上面にて検出された。二股に分かれる不整形な平面形プランを呈する。平面プランが不整形だったのでトレンチを設定し、部分的な掘り下げを行い土層断面で遺構の立ち上がりが明瞭であるかを確認することとした。土層断面観察の結果、遺構の埋土と地山の境目が確認されたため、遺構として認識し、調査を進めることとなった。長軸は1.19m、短軸は1.03m、深さは0.11mを測る。



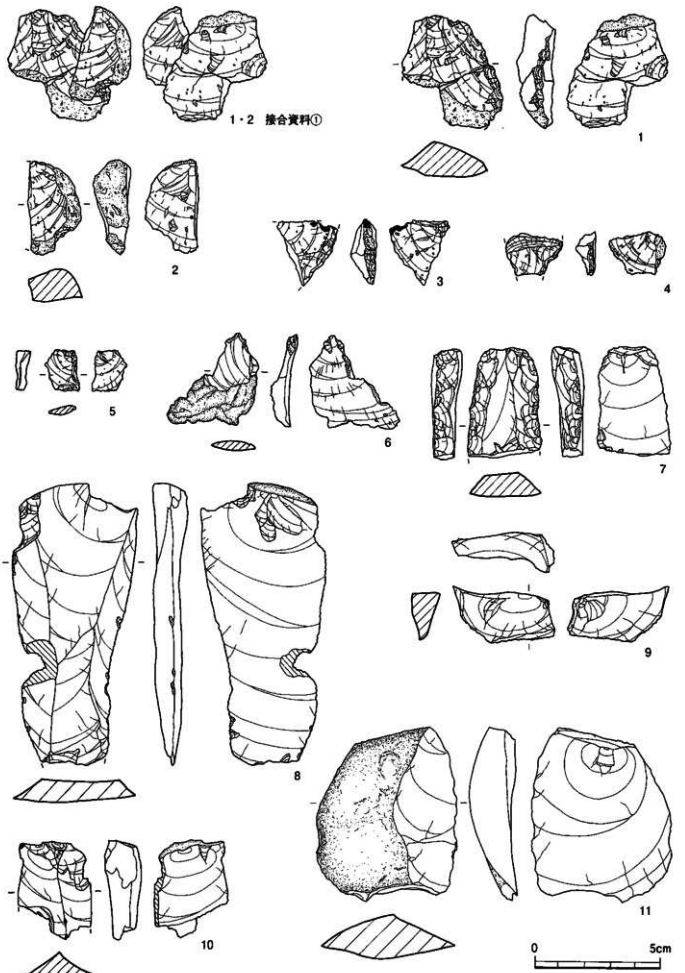
第5図　旧石器時代遺構・遺物分布図（S=1/200）



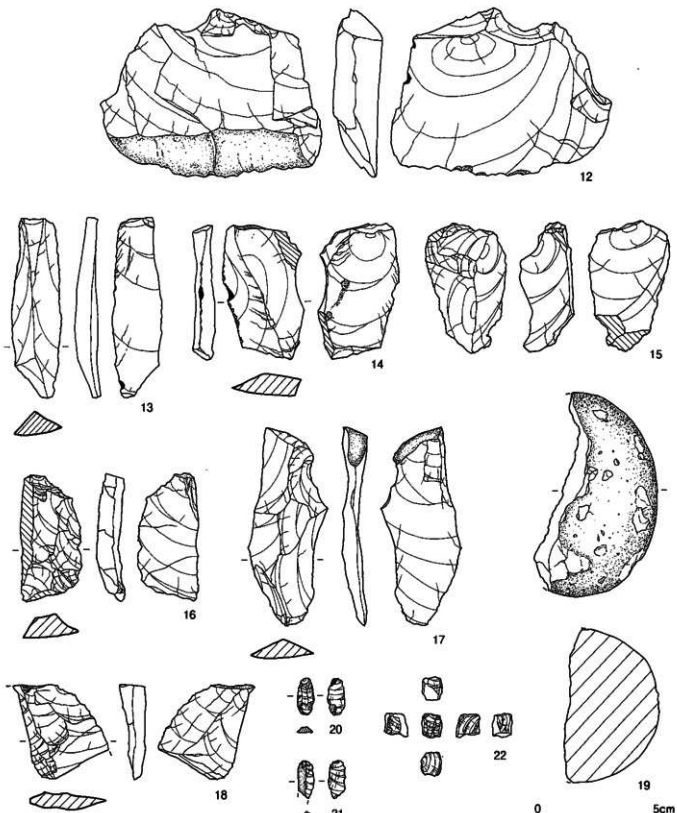
第6図　旧石器時代土坑実測図（S＝1/30）

SC-54

平面プランは11層上面にて検出された。南側が広がる不整形な平面形プランを呈する。平面プランが不整形だったが、地山と埋土の境目は明瞭だったので、遺構と認識して掘り下げ作業をおこなった。長軸1.47m、短軸1.17m、深さ0.15mを測る。



第7図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



第8図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図②（S＝2/3）

第3節　遺物について

旧石器時代の調査区域からは合計44点の石器と167点の礫が出土した。その内訳はナイフ形石器2点、スクレイパー2点、敲石1点、剥片・砕片39点である。そのうち黒曜石製の剥片1点とスクレイパー1点が接合している。石核が1点もないことが特徴として挙げられる。

礫についてはそのほとんどが砂岩製であり、礫の接合は27点確認された。また、旧石器時代の調査区からではないが、縄文時代早期～草創期の遺物包含層中より、細石刃核1点と細石刃2点が検出されている。

次に図化を行った22点の個別資料の解説をおこなう。

接合資料①

日東産黒曜石製の剥片1点（2）とスクレイパー1点（1）の接合資料である。2→1の順番で剥片剥離が行われている。両方とも寸詰まりの剥片である。

スクレイパー（1・7）

1は日東産黒曜石製の寸詰まりの剥片を素材としていて、背面右側縁部に主要剥離面側から刃部加工が施されている。左側縁から下端部については欠損している。7は流紋岩製で縦長剥片を素材としている。両側縁部に主要剥離面側から刃部加工が施されている。下部は欠損している。

ナイフ形石器（3・4）

両者とも日東産黒曜石製で破片資料である。背面右側縁部に刃潰し加工が施されているが、全体の形状を復元できるほど残存状況が良くない。

剥片類（2・5・6・8～18）

14点を図示している。様々な形態の剥片が出土している。8は大型の縦長剥片である。9は瀬戸内技法の影響を受けており、剥片の底面を取り込んでいる横長剥片である。

敲石（19）

尾鈴山酸性岩製の敲石である。赤化しており、左半部を欠損している。

細石刃（20・21）

両者共に桑ノ木津留産黒曜石製の細石刃である。21は自然面を有している。

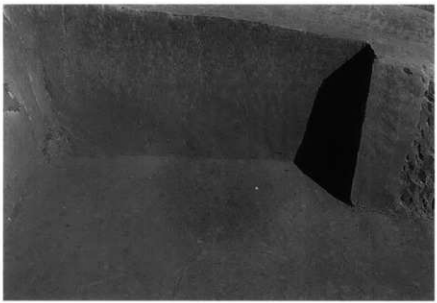
細石刃核（22）

桑ノ木津留産黒曜石製の細石刃核である。作業面は1面であり、下部は背面左方向からの加撃によって除去しているが、打面再生のためかもしれない。

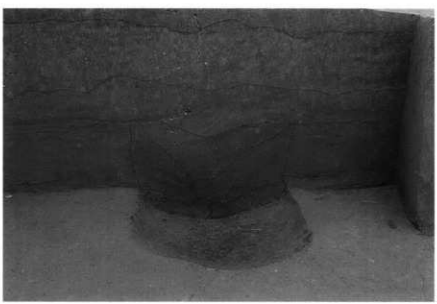
第2表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
1	737	スクレイパー	C12	Ⅸ	黒曜石（日東）	(4.35)	(4.0)	1.6	(16.5)	接合資料①・下部欠損
2	736	剥片	C12	Ⅹ	黒曜石（日東）	(3.7)	(2.1)	1.5	(9.3)	接合資料①・左半部欠損
3	725	ナイフ形石器	C12	Ⅸ	黒曜石（日東）	(2.5)	(2.4)	(1.0)	(3.6)	左半・先端部欠損
4	722	2次加工ある剥片	C12	Ⅹ	黒曜石（日東）	(1.6)	(2.2)	(0.8)	(2.1)	上・下部欠損
5	723	剥片	C12	Ⅹ	黒曜石（日東）	2.1	1.4	0.6	0.8	
6	729	剥片	C12	Ⅸ	黒曜石（桑ノ木津留）	3.6	3.6	1.0	4.8	
7	6	スクレイパー	C11	Ⅸ	流紋岩	(5.3)	(2.9)	(0.95)	(18.6)	下部欠損
8	735	剥片	C12	Ⅹ	流紋岩	(11.1)	5.0	1.3	(59.8)	下部欠損
9	724	横長剥片	C12	Ⅺ	流紋岩	2.2	4.0	1.6	7.0	
10	721	剥片	C12	Ⅹ	頁岩	(3.9)	2.9	1.4	(12.3)	下部欠損
11	10	縦長剥片	C12	Ⅹ	流紋岩	6.85	5.6	1.7	57.6	
12	31	横長剥片	C12	Ⅹ	砂岩	6.5	8.7	1.9	99.5	
13	8	縦長剥片		Ⅸ	頁岩	7.0	1.95	0.9	11.1	
14	43	縦長剥片	C12	Ⅸ	頁岩	5.3	3.2	0.9	17.3	
15	731	剥片	C11	Ⅸ	砂岩	5.0	3.2	2.2	25.5	
16	727	剥片	C12	Ⅹ	砂岩	5.0	2.4	1.2	11.5	
17	730	剥片	C12	Ⅺ	砂岩	7.8	3.2	1.0	14.9	
18	726	剥片	C12	Ⅹ	チャート	(3.7)	(3.8)	(1.1)	(9.4)	左半・下部欠損
19	734	礫	C12	Ⅹ	尾鈴山酸性岩	8.1	(4.8)	(6.0)	(236.9)	左半部欠損・敲石?
20	732	細石刃	C7	Ⅵ	黒曜石（西北九州）	1.9	0.6	0.2	0.1	
21	739	細石刃	C13	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.5)	(0.6)	0.3	(0.2)	下部折断
22	733	細石刃核	A5	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.9	0.8	1.0	0.8	

（ ）の値は残存値を示す



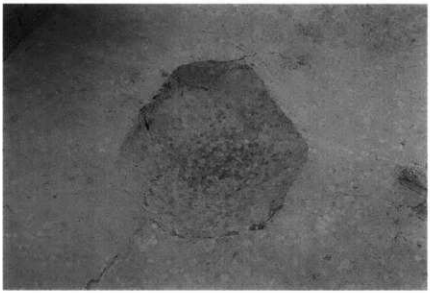
SC-50検出（南西から）



SC-50土層断面①（南西から）

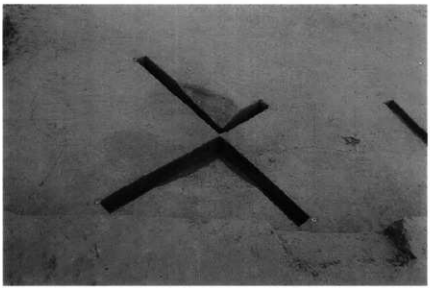
SC-50土層断面②（南から）

写真図版2　旧石器時代遺構①



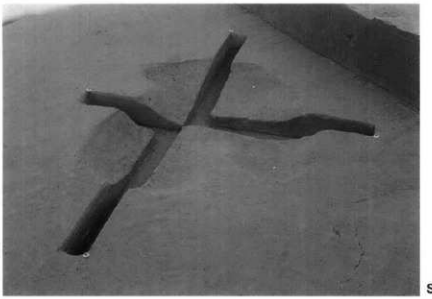
SC-50（南西から）

SC-52検出（南から）



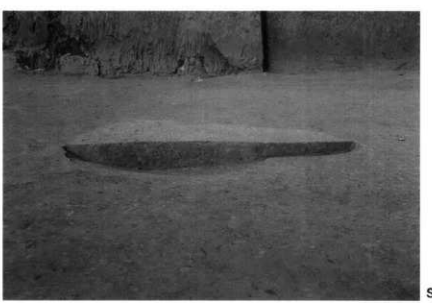
SC-52土層断面（北東から）

写真図版3　旧石器時代遺構②



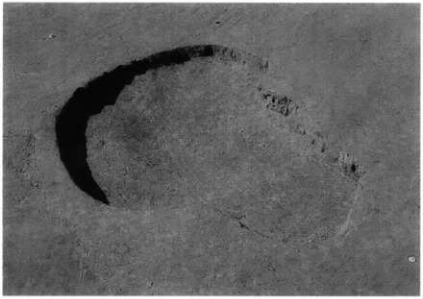
SC-52（南から）

SC-54検出（南東から）



SC-54土層断面（南東から）

写真図版4　旧石器時代遺構③



SC-54（東から）

写真図版5　旧石器時代遺構④

写真図版6　旧石器時代遺物包含層出土石器

第Ⅲ章　縄文時代草創期の調査

第１節　縄文時代草創期の遺構・遺物の検出状況について

縄文時代草創期の遺物は縄文早期の調査中に出土している。草創期と早期を層位的に分ける鍵層となる薩摩火山灰は調査区の一部にしか検出されなかったため、層位的に早期と草創期の資料を分類する根拠はなく、調査中において草創期の資料と確認できたものは少なかった。大半の資料が遺物の洗浄作業中に発見されたものである。

遺構については縄文早期の調査中において薩摩火山灰（基本層序第7層）の広がりが部分的に確認できるところがあり、その薩摩火山灰が検出された面と同じレベルで検出された集石遺構（SI-82）だけを草創期の遺構の可能性が高いと認識していた。その他に草創期のものと認識される遺構は検出できなかったが、一部の集石遺構から検出された炭化物を放射性炭素年代測定法によって測定を行った結果、11250±40BPという測定値を得たSI-45が確認されたため、この二基の集石遺構については本章で報告を行う。

第２節　遺構について

１．集石遺構

SI-82

調査区中央部の薩摩火山灰の広がりが確認された場所で検出された。礫の範囲は1.93m×1.63mで礫の総数及び総重量は203点で26kgを計測する。掘り込みは確認されず、検出された礫はほとんど水平に約15cm堆積しているような状況であった。礫の間から検出された炭化物を放射性炭素年代測定法で測定した結果、9070±50BPという数値を得たが、前述のとおり薩摩火山灰とほぼ同レベルで検出されたため、草創期に該当する資料であると判断した。

SI-45

前述のとおり放射性炭素年代測定法により草創期に該当する集石遺構と判断されたものである。SI-46とは切り合い関係にあったが、土層観察によってSI-46より古い集石遺構であることは判明している。平面プランが不整形な長楕円形（2.0m×1.5m）の掘り込みの中に、礫が入っていた。本遺構を検出した時はSI-46との切り合い関係を明確に把握できず、両遺構の実測を同時におこない礫を取り上げていたのでSI-45だけの礫の総数や重量を数えることができなかった。SI-46と合わせた礫の総数は920個で総重量は85.1kgを計測する。

第３節　遺物について

１．土器

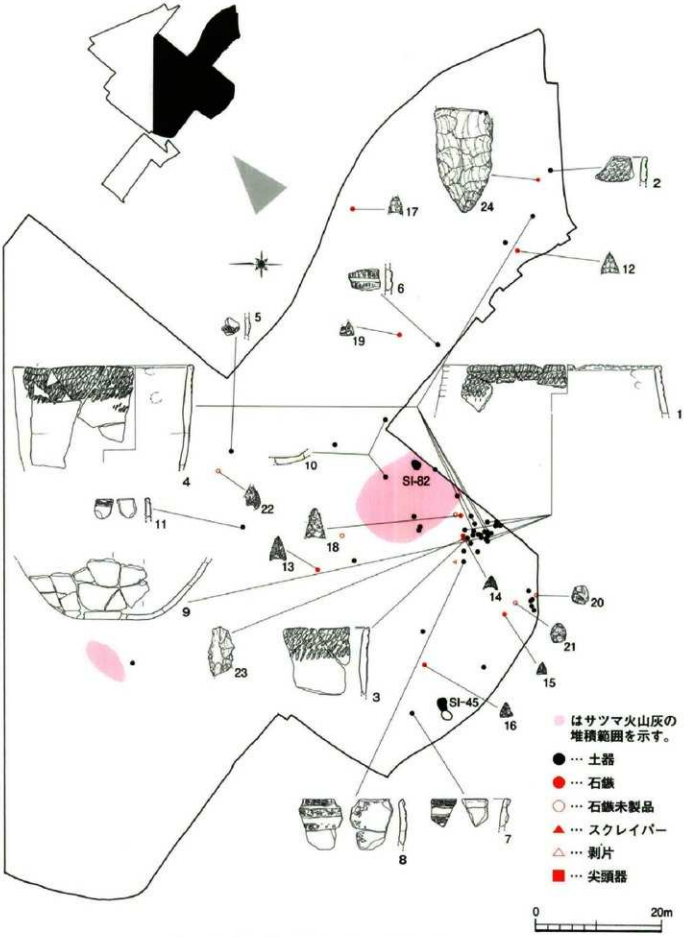
洗浄作業中に草創期に該当する隆帯文土器や爪形文土器の有文部の破片を選別し、無文の土器片については有文の草創期の胎土や色調を参考にして草創期に該当する資料を選別した。以下にその主な資料について報告を行う。

１～４は爪形文土器である。口縁部付近を肥厚させて斜位の爪形文を横方向に4～5条連続して刺突している。1は口唇部に隆帯を巡らせて工具で深い刻みを入れている。4には穿孔が確認される。５～８・11は隆帯文土器である。口縁部付近に隆帯を巡らせ、その隆帯上に5は貝殻押圧文、6～8は横方向の押引き文、11は斜位の爪形文を横方向に施している。9・10は底部片である。9は穿孔が確認される。

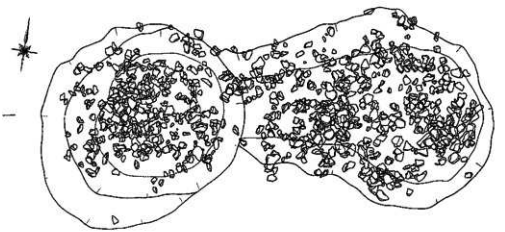
２．石器

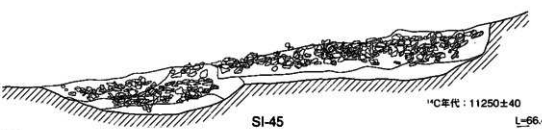
石器は土器と違い、時期の選定が難しい。そのため、ここで報告を行う資料の一部は早期の資料が混在している可能性も考えられる。今回の報告では草創期の土器の分布範囲に重なる石器資料の内、各資料の素材及び形状を検討し（詳細は後述する）、草創期に該当する資料と判断した。なお器種分類については早期の石器分類案を使用している。

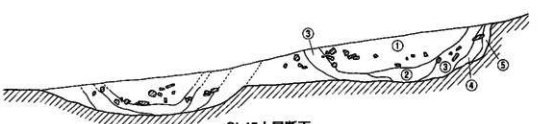
12～19は石鏃である。桑ノ木津留産の黒曜石の使用が目立っている。20・21は石鏃の未製品である。両者共に桑ノ木津留産の黒曜石を使用している。23は安山岩を使用したスクレイパーである。24は安山岩系の石材を使用した木葉形の槍先形尖頭器である。表面の色調は青灰色を呈しており、新しい割れ口は黒色である。上半部は欠損している。



第9図　縄文時代草創期遺構・主要遺物分布図（S＝1/600）

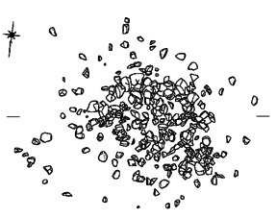




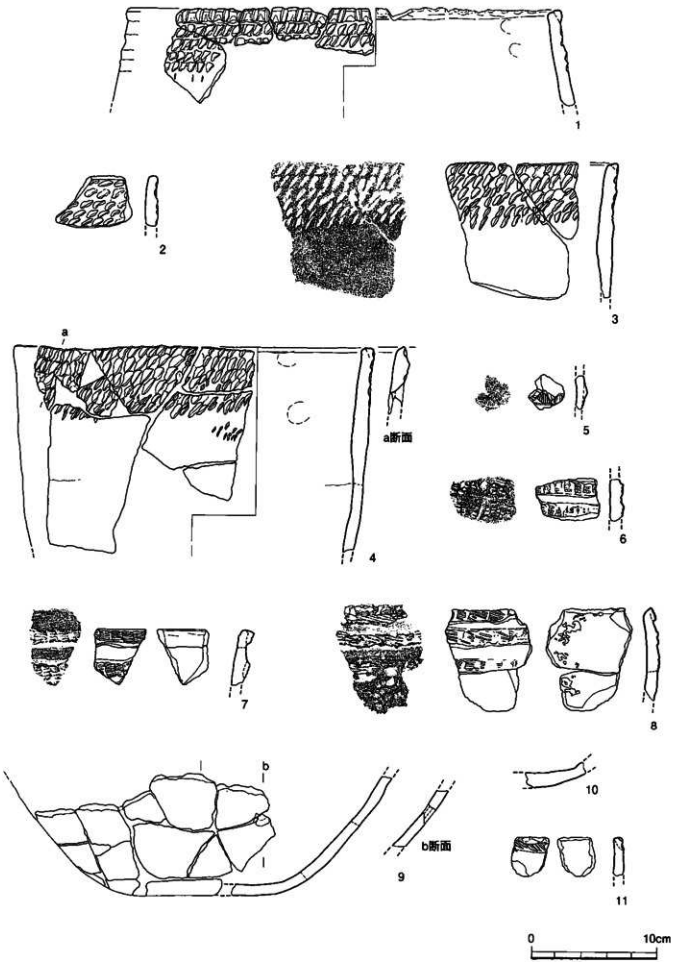


SI-45土層断面

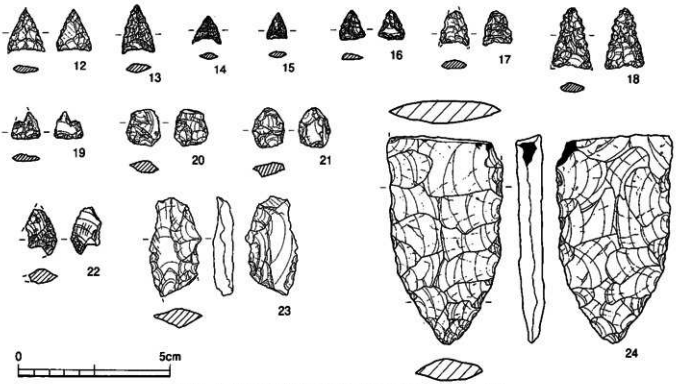
①黒色（Hue10YR1.7/1）シルト質ローム…炭化物を多量に含み、やや粘質。
②黒色（Hue10YR1.7/1）シルト質ローム…炭化物・白色パミス・橙色パミスを全体に含み、やや硬質。
③黒色（Hue10YR1.7/1）シルト質ローム…②より白色パミス・橙色パミスが多い。
④黒色（Hue10YR1.7/1）シルト質ローム…①より白色パミス・橙色パミスが多く、礫片・小林軽石が少量混じる。
⑤オリーブ褐色（Hue2.5YR 4/6）シルト質ローム…炭化物を含む。



第10図　縄文時代草創期集石遺構実測図（S＝1/30）



第11図　縄文時代草創期遺物包含層出土土器実測図（S＝1/3）



第12図　縄文時代草創期遺物包含層出土石器実測図（S＝2/3）

第3表　縄文時代草創期遺物包含層出土土器観察表

No	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		法量（cm）			胎土				備考	遺物整理No
				外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英長石	ウンモ	角閃石輝石	砂粒		
1	Ⅵ・Ⅶ	深鉢	口縁～胴部	棒状工具による連続刻み・肥厚させ爪形文・ナデ	横ナデ・指押え	10YR5/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	(33.8)			○		○	1mm以下	反転復元	680
2	Ⅵ	深鉢	口縁部	肥厚させ爪形文	ナデ	7.5YR5/3にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙				○		○	1mm以下		681
3	Ⅶ	深鉢	口縁～胴部	肥厚させ爪形文・ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙				○		○	3mm以下		679
4	Ⅵ・Ⅶ	深鉢	口縁～胴部	肥厚させ爪形文・ナデ・穿孔	ナデ・指押え	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/3にぶい黄橙	(28.4)			○		○	1mm以下	反転復元	678
5	Ⅵ	深鉢	胴部	貝殻押圧文・ナデ	ナデ	5YR4/2灰褐	2.5YR4/3にぶい赤褐				○			1mm以下		685
6	Ⅵ	深鉢	胴部	貼付突帯に貝殻腹縁による押引き文・ナデ	ナデ	7.5YR4/1褐灰	7.5YR5/2灰褐				○			1.5mm以下		683
7	Ⅵ	深鉢	口縁～胴部	貼付突帯に貝殻腹縁による押引き文・横ナデ	横ナデ	10YR4/2灰黄褐	7.5YR7/2明褐灰				○		○	1mm以下		684
8	Ⅵ	深鉢	口縁～胴部	貼付突帯に貝殻腹縁による押引き文・ナデ	横ナデ	7.5YR5/4にぶい褐	10YR7/1灰白				○		○	1mm以下	一部スス付着・丹塗り	682
9	Ⅵ	深鉢	胴～底部	横ナデ・穿孔	横ナデ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙		(10.2)		○		○	1mm以下	反転復元	34
10	Ⅵ・Ⅶ	深鉢	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙				○		○	1mm以下		720
11	Ⅵ	深鉢	口縁部	棒状工具による連続刻み・爪形文・横ナデ	ナデ	2.5Y4/1黄灰	7.5YR5/3にぶい褐				○		○	3mm以下		719

第4表　縄文時代草創期遺物包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土地点	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
12	145	打製石鏃	C16	Ⅵ	チャート	(1.6)	(1.4)	0.3	(0.5)	先端・基部欠損
13	72	打製石鏃	C7	Ⅵ	頁岩	1.85	1.3	0.35	0.6	
14	84	打製石鏃	C12	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.1)	(1.1)	0.25	(0.2)	脚部欠損
15	87	打製石鏃	C13	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.0	0.8	0.2	0.1	
16	128	打製石鏃	C8	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.15	1.05	0.3	0.2	
17	159	打製石鏃	C14	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.4)	(1.2)	0.4	(0.5)	先端・基部欠損
18	138	打製石鏃	C12	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	(2.4)	(1.5)	0.35	(1.0)	先端・基部欠損
19	149	打製石鏃	C14	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.1)	1.1	0.3	(0.3)	先端部欠損
20	166	打製石鏃未製品	C13	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.4	1.3	0.5	1.0	
21	165	打製石鏃未製品	C13	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	1.6	1.3	0.55	1.0	
22	740	打製石鏃未製品	C6	Ⅵ	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.8)	(1.2)	(0.5)	(0.7)	先端・下部欠損
23	197	スクレイパー	C12	Ⅵ	安山岩	(3.8)	(2.1)	(0.8)	(5.6)	下部欠損
24	5	槍先形尖頭器	D2	Ⅵ	安山岩	(8.15)	(4.6)	(1.0)	(42.7)	上部欠損

（　）の値は残存値を示す

SI-45・46（南東から）

SI-45アップ

SI-45・46完掘（南から）

写真図版7　縄文時代草創期遺構①

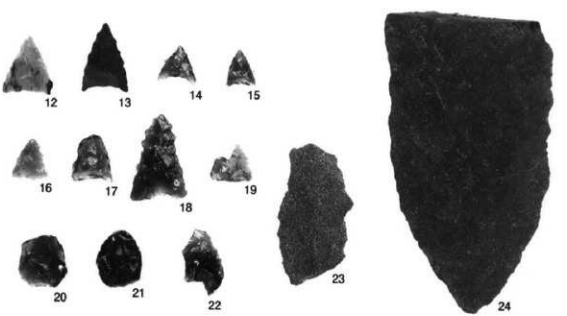
←アカホヤ火山灰

←周囲にはサツマ火山灰が見られる

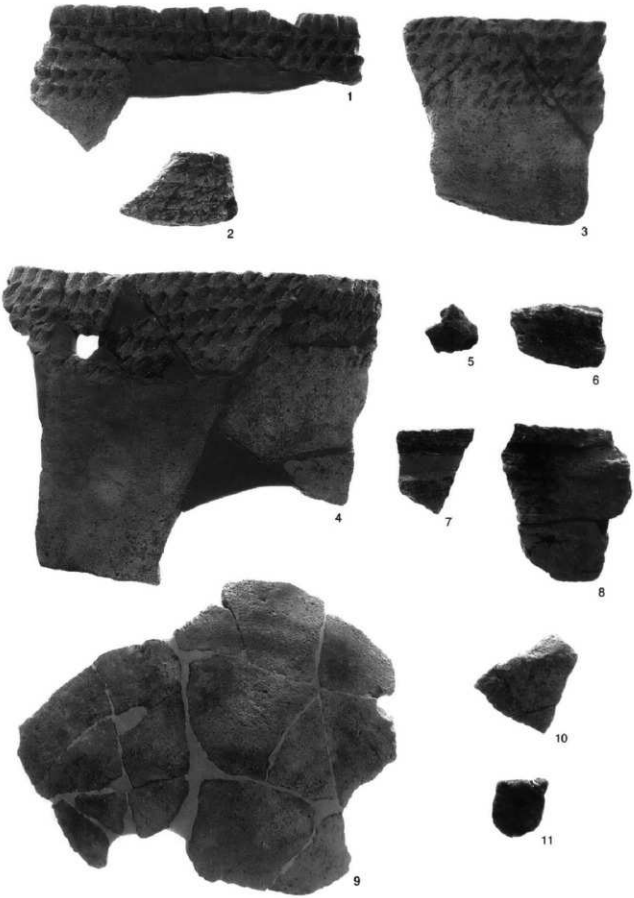
SI-82（基本層序とともに）

SI-82（北東から）

写真図版8　縄文時代草創期遺構②



写真図版9　縄文時代草創期遺物包含層出土石器



写真図版10　縄文時代草創期遺物包含層出土土器

第Ⅳ章　縄文時代早期の調査

第１節　遺　構

当遺跡において確認された縄文時代早期の遺構は、集石遺構が83基、炉穴が35基、陥し穴状遺構が８基、土坑が11基、埋設土器が２例であった。また、５・６層からは、約53,000個の礫が出土しており、ほとんどが焼けて赤変していた。これらの礫は集石遺構の構築や使用と大きな関りがあると推測される。

１．集石遺構

集石遺構は計83基確認され、その検出状況は次のとおりである。

《掘り込みを持つ集石遺構の場合》

①５層及び６層の掘り下げ作業を行ったところ、**焼礫が集中する範囲**が確認された。そこを丁寧に精査した結果、集石遺構であることが確認された。〔礫の集中が先に確認されたケース〕

②５層及び６層の掘り下げ作業を行ったところ、**黒いシミが円形に広がる範囲**が確認された。その黒い部分を丁寧に精査した結果、集石遺構であることが確認された。〔黒いシミが先に確認されたケース〕

③削平を受けた調査区において、遺構上部を一部破壊された状態で検出された。

《掘り込みを持たない集石遺構の場合》

５層及び６層の掘り下げ作業を行ったところ、多数出土する礫のなかでも特に集中する範囲が確認された。

自然科学分析を実施した集石遺構　＊いずれも掘り込みを有する

SI-37：SI-32と切り合った状態で、６層において検出された。両遺構の新旧関係については、現場での確認作業と自然科学分析の結果からSI-37の方が先に構築されていると判断した。

平面が円形で（一部破壊されているが）断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は密であった。また、掘り込み底部には長軸20cm程の扁平な礫が２個と、拳大の礫が10個ほと配置されていた。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、**《9790±40年BP》**という結果が得られている。

SI-16：６層で検出された。平面が円形（やや楕円）で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫がほとんどで、その充填状況は疎らであった。また、掘り込み底部には、長軸約25cmの扁平な礫１個が配置されていた。掘り込みの床面の段差、及び図化後の礫の状況からみて２基の集石遺構の可能性も否めないが、調査時の判断では１基の集石遺構として判断している。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、**《9700±40年BP》**というが結果が得られている。

SI-31：６層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は極めて密であった。また、掘り込み底部には、長軸10cm ～ 25cmの扁平な礫が10個ほど配置されていた。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、**《9600±40年BP》**というが結果が得られている。

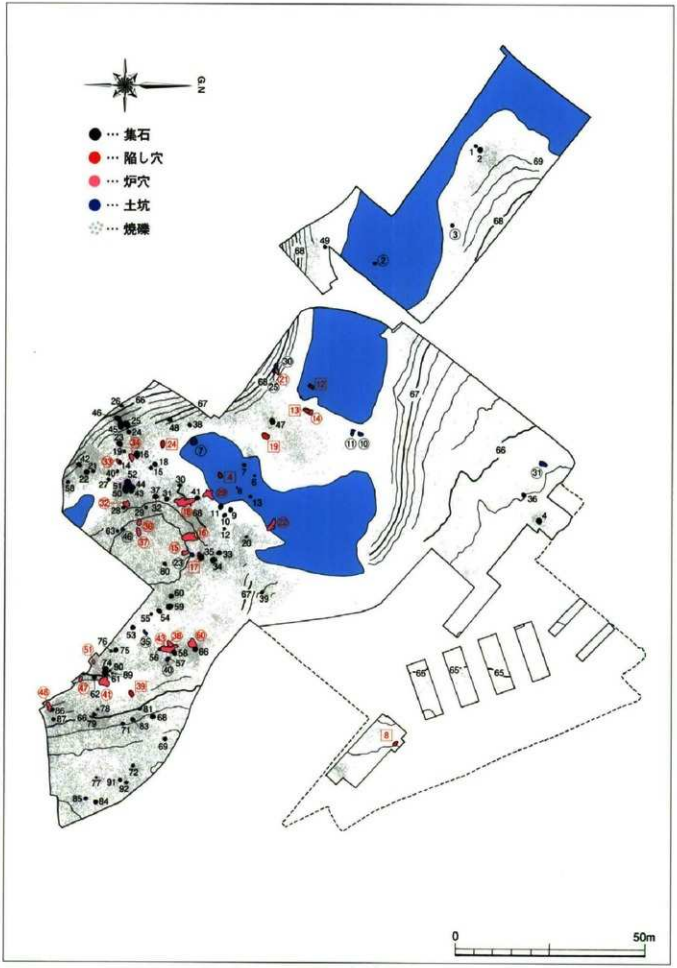
SI-23：６層で検出された。平面が円形（やや楕円）で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は極めて密であった。また、掘り込み底部には、長軸15cm ～ 30cmの扁平な礫が10個ほど配置され、その大型の礫の間には小型の礫もはめ込まれていた。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、**《9540±40年BP》**というが結果が得られている。

SI-32：SI-37と切り合った状態で、６層において検出された。両遺構の新旧関係については、SI-37で述べたとおりである。

平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫はSI-37のそれよりも小ぶりの角礫が多く、その充填状況はやや密であった。使用礫がSI-37と様相が異なるのは、互いの使用回数に違いがあるものと推測される。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、**《9430±40年BP》**という結果が得られている。

SI-25：６層で検出された。平面が円形（やや楕円）で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は極めて密であった。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、**《8360±40年BP》**というが結果が得られている。

SI-86：６層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多



第13図　縄文時代早期遺構配置図（S＝1/1000）

く、その充填状況はやや密であった。また、掘り込み底部には、長軸25cm程の扁平な礫が4個ほど配置されていた。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8310±40年BP》というが結果が得られている。

SI-22：6層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、充填状況はやや密であった。その充填状況の断面を確認したところ、北東側にかき上げられたような状況がみられたが、本遺構周辺との関連性は把握できなかった。また、掘り込み底部には、長軸10cm～30cmの扁平な礫が10個ほど配置されていた。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8280±40年BP》というが結果が得られている。

SI-59：6層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は極めて密であった。使用礫の総重量及び礫1個あたりの重量いずれも最大で、本遺跡で最も大規模な集石遺構といえよう。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8230±40年BP》というが結果が得られている。

SI-2：6層で検出された。平面が円形で断面がV字状の掘り込み（2段）を有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は密であった。また、掘り込み底部には、長軸15～25cm程の扁平な礫が3個ほど配置されていた。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8220±40年BP》というが結果が得られている。

SI-4：5層下位で検出された。当遺跡で確認された集石遺構のなかでは、最も上位で確認されたものといえる。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。尚、礫集中範囲の埋土に多く含まれていた炭化物で、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《7650±40年BP》というが結果が得られている。

掘り込みを有する集石遺構

SI-18：6層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は比較的大ぶりの亜円礫や角礫が多く、その充填状況は密であった。

SI-34：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は密であった。

SI-61：SI-74と切り合った状態で、6層において検出された。両遺構の新旧関係については、現場での確認作業からSI-61の方が後に構築されていると推測される。

平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-33：6層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況は密であった。

SI-66：6層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況はやや密であった。又、掘り込み端からは、長軸45cm程の石器が出土しているが、本遺構との関係については不明である。

SI-47：6層で検出された（一部トレンチにより破壊されている）。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は亜円礫や角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-24：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫はやや大ぶりの角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-52：SI-44とSI-51と切り合った状態で、6層において検出された。遺構の新旧関係については、土層断面などを注意深く観察したが、結論は導き出せなかった。

平面が楕円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。充填礫は東半分に集中しているが、これは切り合っている他の遺構に関係している可能性も考えられる。また、本遺構の西側で長軸15～30cmの扁平な砂岩が7個出土しているが、詳細は不明である。

SI-21：6層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。また、掘り込み底部には、長軸15cm程の扁平な礫が5個ほど配置されていた。

SI-60：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-26：6層で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-68：SI- 4とほぼ同様の5層下位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-58：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有しており、礫をかき上げるために掘ったような浅い掘り込みが隣接している。掘り込みの中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-42：6層で検出されたが、風倒木の影響で遺構が南側に引きずられている（＝礫も南側に集中）。よって掘り込みもやや不整形だが、現状からみて平面が円形で断面が皿状であったと推測される。使用礫については角礫が多く、その充填状況は不明であるが、おそらくやや疎らであったのではないだろうか。

SI-71：SI- 4とほぼ同様の5層下位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-87：SI- 4とほぼ同様の5層下位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI- 7：畑の段差により削平され、既に9層（霧島・小林軽石層）が露出していた場所で検出された。そのため、遺構の半分以上がすでに破壊されていて、遺構の全容は確認できない。ただし、予想される掘り込みの形状は、平面が円形で断面がボウル状のもので、使用礫については角礫が多く、その充填状況はやや密であったと推測される。

SI-15：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-48：緩斜面の6層下位で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-30：6層下位で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-69：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-51：SI-50とSI-52と切り合った状態で、8層上面において検出された。遺構の新旧関係については、土層断面などを注意深く観察したが、結論は導き出せなかった。

平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-53：6層下位で検出された（一部樹根による撹乱を受けている）。平面が円形で皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫がほとんどである。その充填状況についてはやや疎らであるが、遺構の西側半分に礫が集中している。

SI-62：5層下位で検出された。平面が円形で皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫がほとんどである。その充填状況についてはやや疎らであるが、遺構の北側半分に礫が集中している。

SI-84：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-43：SI-44と切り合った状態で、8層上面において検出された。遺構の新旧関係については、土層断面などを注意深く観察したが、結論は導き出せなかった。

平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は小ぶりな角礫が多く、その充填状況はやや密であった。

SI-75：6層下位で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫はやや小ぶりな角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-54：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有しており、礫をかき上げるために掘ったような浅い掘り込みも隣接している。掘り込みの中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-41：6層で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は小ぶりな角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった（掘り込みの中央に礫がやや集中）。

SI-50：SI-51と切り合った状態で、8層上面において検出された。遺構の新旧関係については、土層断面などを注意深く観察したが、結論は導き出せなかった。

平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は小ぶりな角礫が多く、その充填状況は

やや疎らであった。

SI-77：6層で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-76：6層下位で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-78：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-57：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-81：6層下位で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-55：8層上面で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は円礫や角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-83：6層で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-40：6層で検出されたが、水穴の陥没により遺構の一部破壊されている。予想される掘り込みは平面が円形で断面が皿状で、その中に充填される使用礫は角礫が多い。また、その充填状況は疎らであったと推測される。

SI-44：SI-43とSI-52と切り合った状態で、8層上面において検出された。遺構の新旧関係については、土層断面などを注意深く観察したが、結論は導き出せなかった。

平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は小ぶりな角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-63：5層下位で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫はやや小ぶりな角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-89：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-20：5層下位で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-80：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は小ぶりの角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-79：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は小ぶりの角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-92：6層下位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-28：6層で検出された（一部樹根による攪乱を受けている）。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-85：6層で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-74：SI-61と切り合った状態で、6層において検出された。両遺構の新旧関係については、土層断面などを注意深く観察したが不明である。

平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-14：6層で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-27：6層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況は疎らであった。

SI-19：5層下位で検出された。掘り込みについては確認が困難であったが、断面確認を行った結果、平面が円形で断面が浅皿状のものを有することが明らかになった。使用礫はほぼ水平に集積しており、角礫が多く、遺構の半分に集中している。

SI-11・6・5・12・10
：現代耕作により９層（霧島・小林軽石層）が既に露出して場所で検出された。そのため遺構の上部は破壊され、掘り込みの底付近のみが残存している状況であった。掘り込みについては、平面が円形で断面が皿状のものを有していたのではないかと推測されるが、使用礫の充填状況などは不明である。

SI-８：畑の段差により削平され、既に９層（霧島・小林軽石層）が露出していた場所で検出された。そのため、遺構の半分以上がすでに破壊されていて、遺構の全容は確認できない。掘り込みについては、平面が円形で断面が皿状のものを有していたのではないかと推測されるが、使用礫の充填状況などは不明である。

SI-49：６層下位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はかなり疎らであった。

SI-46：縄文時代草創期の集石遺構であるSI-45と切り合った状況で検出された。調査時には両遺構ほぼ同時期（縄文時代早期）のものであると判断していたため、自然科学分析をSI-45の炭化物のみで実施した。結果、SI-45は草創期のものであることが判明したが、このSI-46の使用時期については、SI-45との新旧関係も含めたうえでの充分な検証がなされておらず、詳細は不明である。そこで今回は、これまでの当台地で検出された他の集石遺構の様相と比較し、早期の集石遺構として紹介することとした。掘り込みについては、平面が円形で断面が皿状で、そこに充填されている使用礫のほとんどは角礫で、その充填状況はやや密である。

SI-１：６層で検出された。平面が円形で断面が浅皿状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-38：６層で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有し、その中に充填されている使用礫は角礫が多く、その充填状況はやや疎らであった。

SI-９：畑の段差により削平され、既に９層（霧島・小林軽石層）が露出していた場所で検出された。そのため、遺構の約１／３がすでに破壊されていた。予想される掘り込みの形状は、平面が円形で断面が皿状のもので、使用礫については角礫が多く、その充填状況はやや密であったと推測される。

SI-56：６層で検出された。角礫が円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

掘り込みが確認できなかった集石遺構

SI-36：６層下位で検出された。長軸20cmほどの円礫や拳大の角礫が楕円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

SI-72：５層下位で検出された。角礫が円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

SI-39：５層下位で検出された。亜円礫や角礫が半円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

SI-91：６層で検出された。角礫が円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

SI-90：６層で検出された。角礫が半円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

SI-88：６層で検出された。角礫が円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

SI-29：６層で検出された。角礫が半円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

SI-35：６層で検出された。角礫が半円状に集積しており、掘り込みについては確認されていない。

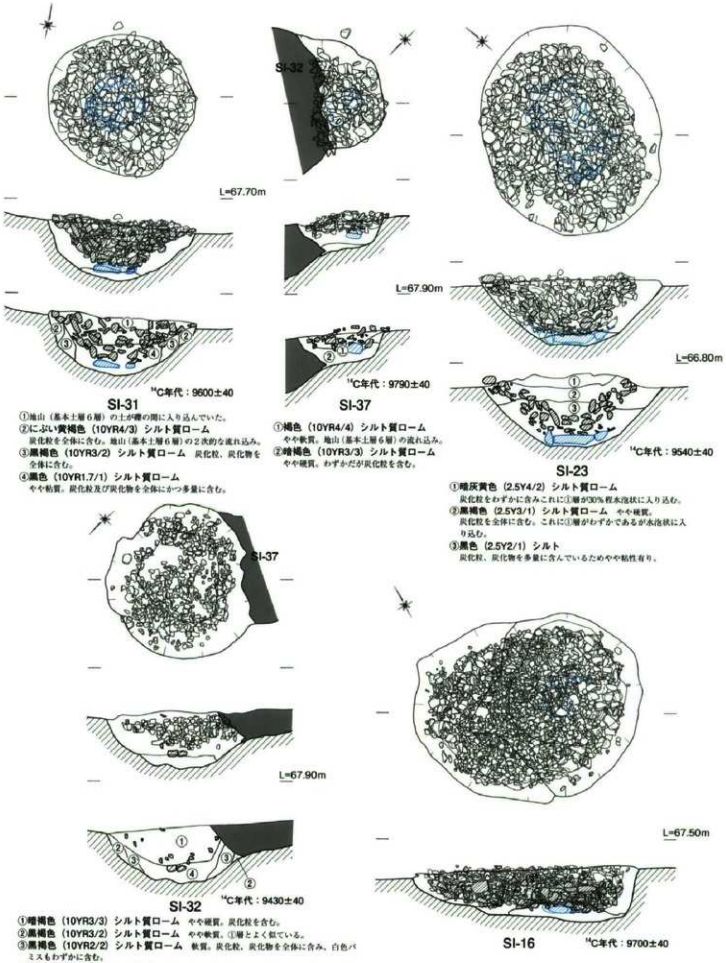
SI-13：現代耕作により９層（霧島・小林軽石層）が既に露出して場所で検出された。詳細は不明であるが、おそらく掘り込みを有する集石遺構の底が、かろうじて残った状況ではないかと推測される。

第5表　縄文時代早期集石遺構観察表

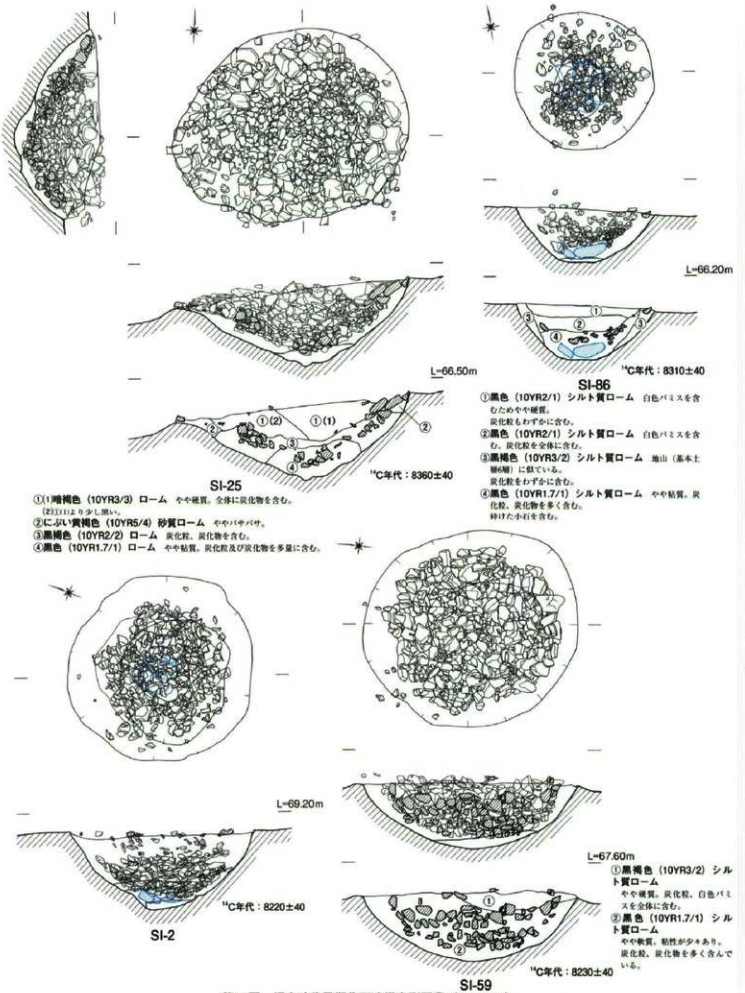
No.	番号	検出層	^{14}C年代（年BP）	使用礫				掘込み					底石の有無	炭化物の有無	備考
				礫分布範囲<長軸×短軸>（m）	総礫数（個）	総重量（kg）	礫1個あたりの重量（kg）	有無	断面形状	直径（m）	深さ（m）				
1	SI-37	6層	9790±40	0.85 × 0.6+α	−	−	−	有	皿状	0.85	0.25		有	有	SI-32と切り合っている 2/3のみ検存
2	SI-16	6層	9700±40	1.60 × 1.20	3489	334.8	0.10	有	皿状	1.8～1.45	0.40		有	有	2層の集石遺構の可能性あり
3	SI-31	6層	9600±40	1.20 × 1.15	1061	204.0	0.19	有	ボウル状	1.15	0.45		有	有	
4	SI-23	6層	9540±40	1.50 × 1.25	1686	295.0	0.17	有	ボウル状	1.65～1.4	0.50		有	有	
5	SI-32	6層	9430±40	1.10 × 1.10	−	−	−	有	ボウル状	1.20	0.45		無	有	SI-37と切り合っている
6	SI-25	6層	8360±40	1.90 × 1.50	954	236.9	0.25	有	皿状	1.8～1.5	0.60		無	有	
7	SI-86	6層	8310±40	1.10 × 1.00	274	40.5	0.15	有	ボウル状	1.10	0.45		有	有	SC−48と切り合っている
8	SI-22	6層	8280±40	1.40 × 1.20	386	41.0	0.11	有	ボウル状	1.35	0.55		有	有	
9	SI-59	6層	8230±40	1.40 × 1.30	1145	484.5	0.42	有	ボウル状	1.70	0.55		無	有	
10	SI- 2	6層	8220±40	1.10 × 1.00	521	85.8	0.16	有	V字状	1.50	0.60		有	有	
11	SI- 4	5層下位	7650±40	1.60 × 1.50	519	53.0	0.10	有	（浅）皿状	1.60	0.15		無	有	
12	SI-18	6層		1.10 × 1.10	619	193.4	0.31	有	ボウル状	1.25	0.55		無	有	
13	SI-34	6層		1.45 × 1.25	509	146.7	0.29	有	皿状	1.70	0.40		無	有	
14	SI-61	6層	8320±40	1.90 × 1.40	823	138.5	0.17	有	皿状	1.45	0.30		有	炭化粒を含む	SI-74と切り合っている
15	SI-33	6層		1.30 × 1.00	427	119.5	0.28	有	ボウル状	1.20	0.35		無	有	
16	SI-66	6層		1.25 × 1.10	501	80.1	0.16	有	ボウル状	1.20	0.40		無	有	SC−60と切り合っている
17	SI-47	6層		1.80 × 1.50	716	74.0	0.10	有	ボウル状	1.7～1.55	0.35		無	有	
18	SI-24	6層		1.10 × 1.00	247	69.2	0.28	有	皿状	1.20	0.20		無	有	
19	SI-52	6層		2.40 × 1.60	524	66.5	0.13	有	皿状	1.9～1.5	0.30		無	炭化粒を含む	SI-51・44と切り合っている
20	SI-21	6層		1.15 × 1.10	284	56.4	0.20	有	ボウル状	1.00	0.30		有	炭化粒を含む	
21	SI-60	6層		1.00 × 0.90	181	46.5	0.26	有	皿状	1.2～1	0.20		無	有	
22	SI-26	6層		1.20 × 1.20	254	44.5	0.18	有	（浅）皿状	0.95	0.10		無	有	
23	SI-68	5層下位		1.20 × 1.10	280	43.5	0.16	有	皿状	1.25～1.1	0.20		無	有	
24	SI-58	6層		1.05 × 0.80	204	36.2	0.18	有	皿状	1.10	0.30		無	炭化粒を含む	炉穴と切り合っている
25	SI-42	6層		1.50 × 1.10	339	34.5	0.10	有	皿状	1.45～0.95	0.15		無	無	
26	SI-71	5層下位		1.45 × 1.05	180	30.8	0.17	有	皿状	1.00	0.15		無	有	

27	SI-87	5層下位		1.15 × 1.00	219	30.4	0.14	有	皿状	1.05	0.20	無	炭化粒を含む	
28	SI- 7	9層		0.85 × 0.45+α	95	28.5	0.30	有	ボウル状	0.95	0.30	無	有	壁の段差により半分以上が破壊されている
29	SI-15	6層		0.90 × 0.90	130	27.5	0.21	有	皿状	1.05	0.20	無	有	
30	SI-48	6層下位		0.95 × 0.95	251	27.0	0.11	有	(浅) 皿状	0.90	0.10	無	炭化粒を含む	
31	SI-30	6層下位		1.15 × 1.00	117	26.5	0.23	有	ボウル状	1.00	0.35	無	有	
32	SI-69	6層		1.55 × 1.40	114	23.6	0.21	有	皿状	1.00	0.20	無	有	
33	SI-51	8層		1.60 × 1.10	318	19.5	0.06	有	皿状?	1.30	0.35	無	炭化粒を含む	SI-50・52と切り合っている
34	SI-53	6層下位		0.85 × 0.80	74	19.5	0.26	有	皿状	1.05	0.20	無	有	
35	SI-62	5層下位		1.25 × 1.25	132	18.9	0.14	有	皿状	1.35 ～ 1.2	0.20	無	炭化粒を含む	
36	SI-84	6層		1.10 × 0.90	100	18.8	0.19	有	皿状	1.25	0.15	無	炭化粒を含む	
37	SI-43	8層		0.95 × 0.95	365	18.5	0.05	有	皿状	1.20	0.20	無	炭化粒を含む	SI-44と切り合っている
38	SI-75	6層下位		1.80 × 1.55	189	15.5	0.08	有	(浅) 皿状	1.10	0.10	無	無	
39	SI-54	6層		1.25 × 0.85	134	15.5	0.12	有	皿状	1.4 ～ 0.95	0.2 ～ 0.1	無	有	2基の自石遺構の可能性あり
40	SI-41	6層		1.10 × 0.95	183	15.1	0.08	有	ボウル状	1.30	0.35	無	炭化粒を含む	
41	SI-50	8層		1.10 × 1.05	229	15.0	0.07	有	皿状	1.10	0.25	無	炭化粒を含む	SI-51と切り合っている
42	SI-77	6層		0.85 × 0.70	73	14.5	0.20	有	(浅) 皿状	0.75	0.10	無	炭化粒を含む	
43	SI-76	6層下位		1.60 × 1.20	88	11.0	0.13	有	(浅) 皿状	0.60	0.05	無	無	
44	SI-78	6層		1.05 × 0.80	72	11.0	0.15	有	皿状	0.8 ～ 0.65	0.20	無	無	
45	SI-57	6層		1.05 × 0.80	62	11.0	0.18	有	(浅) 皿状	1.00	0.10	無	有	
46	SI-81	6層下位		0.85 × 0.80	36	8.0	0.22	有	皿状	0.95 ～ 0.8	0.15	無	炭化粒を含む	
47	SI-55	8層		0.45 × 0.40	29	7.8	0.27	有	皿状	0.90	0.15	無	有	
48	SI-83	6層		1.25 × 1.00	95	6.5	0.07	有	(浅) 皿状	1.15	0.10	無	有	
49	SI-40	6層		0.90 × 0.75+α	80	6.3	0.08	有	(浅) 皿状	1.50	0.15	無	炭化粒を含む	木穴崩壊により一部破損か
50	SI-44	8層		1.80 × 1.10	151	6.0	0.04	有	皿状	1.65	0.25	無	炭化粒を含む	SI-43・52と切り合っている
51	SI-63	5層下位		0.95 × 0.80	150	6.0	0.04	有	(浅) 皿状	0.95	0.10	無	—	
52	SI-89	6層		0.60 × 0.60	31	5.5	0.18	有	皿状	0.80	0.15	無	無	
53	SI-20	5層中位		1.50 × 1.10	107	5.1	0.05	有	(浅) 皿状	0.70	0.10	無	無	
54	SI-80	6層		1.20 × 1.20	80	5.1	0.06	有	皿状	1.00	0.15	無	有	

55	SI-79	6層		1.05 × 0.80	51	4.0	0.08	有	皿状	1.00	0.15	無	炭化粒を含む	
56	SI-92	6層下位		1.05 × 0.85	36	3.9	0.11	有	皿状	0.85	0.10	無	無	
57	SI-28	6層		0.70 × 0.70	43	3.5	0.08	有	皿状	0.95	0.20	無	炭化粒を含む	
58	SI-85	6層		0.90 × 0.80	34	3.2	0.09	有	皿状	0.80	0.15	無	有	
59	SI-74	6層		1.40 × 1.10	42	3.0	0.07	有	皿状	1.25	0.20	無	炭化粒を含む	SI-61と切り合っている
60	SI-14	6層		1.05 × 0.65	30	2.0	0.07	有	(浅) 皿状	1.1 ~ 0.9	0.10	無	炭化粒を含む	
61	SI-27	6層		0.90 × 0.85	34	1.5	0.04	有	ボウル状	1.00	0.25	無	炭化粒を含む	
62	SI-19	5層中位		0.70 × 0.70	85	1.2	0.01	有	(浅) 皿状	0.75	0.15	無	炭化粒を含む	
63	SI-11	9層		0.90 × 0.65	32	1.1	0.03	有	(浅) 皿状	1.5 ~ 1.1	0.15	無	炭化粒を含む	集石遺構の底部付近のみ残存か
64	SI- 8	9 ~ 12層		0.40 × 0.20	10	1.0	0.10	有	(浅) 皿状	0.85	0.15	無	炭化粒を含む	縁の段差により半分ちかくが破壊されている
65	SI- 6	9層		0.40 × 0.10	7	0.8	0.11	有	(浅) 皿状	0.60	0.10	無	無	
66	SI- 5	9層		0.30 × 0.20	31	0.7	0.02	有	(浅) 皿状	0.60	0.15	無	有	
67	SI-12	9層		0.30 × 0.30	9	0.6	0.07	有	(浅) 皿状	1.25 ~ 1.1	0.15	無	炭化粒を含む	集石遺構の底部付近のみ残存か
68	SI-10	9層		0.50 × 0.40	22	0.4	0.02	有	(浅) 皿状	1.3 ~ 1	0.15	無	炭化粒を含む	集石遺構の底部付近のみ残存か
69	SI-49	6層下位		0.70 × 0.55	9	0.2	0.02	有	皿状	1.05	0.20	無	炭化粒を含む	
70	SI-46	6層		1.50 × 1.40	—	—	—	有	皿状	1.60	0.35	無	有	SI-45（草創期）と切り合っている
71	SI- 1	6層		0.80 × 0.50	45	—	—	有	(浅) 皿状	1.05	0.15	無	有	
72	SI-38	6層		0.90 × 0.75	—	—	—	有	ボウル状	1.1 ~ 1	0.30	無	有	
73	SI- 9	9層		1.10 × 0.8+α	—	—	—	有	皿状	1.30	0.20	無	炭化粒を含む	縁の段差により半分ちかくが破壊されている
74	SI-56	6層		1.45 × 1.15	262	52.0	0.20	無	—	—	—	—	有	
75	SI-36	6層下位		1.85 × 1.60	78	50.5	0.65	無	—	—	—	—	無	
76	SI-72	5層下位		2.20 × 1.60	183	24.0	0.13	無	—	—	—	—	無	
77	SI-39	5層中位		1.20 × 1.05	113	19.1	0.17	無	—	—	—	—	無	
78	SI-91	6層		1.25 × 1.10	128	18.0	0.14	無	—	—	—	—	無	
79	SI-90	6層		1.20 × 0.50	58	9.5	0.16	無	—	—	—	—	無	
80	SI-88	6層		1.90 × 1.90	74	7.0	0.09	無	—	—	—	—	無	
81	SI-29	6層		0.95 × 0.75	44	6.8	0.15	無	—	—	—	—	無	
82	SI-35	6層		0.70 × 0.45	24	3.2	0.13	無	—	—	—	—	無	
83	SI-13	9層		0.20 × 0.10	2	0.2	0.10	無	—	—	—	—	無	集石遺構の底部のみ残存か

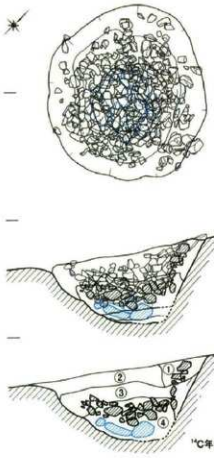


第14図　縄文時代早期集石遺構実測図①（S＝1/30）



第15図　縄文時代早期集石遺構実測図②（S=1/30）

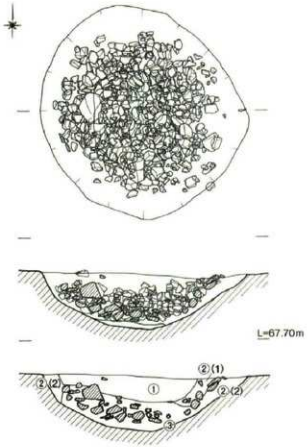
0　1m



SI-22

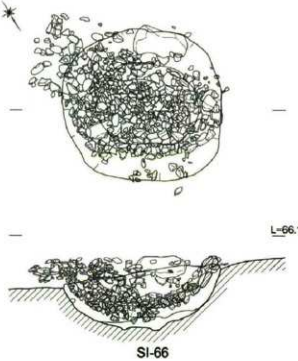
^{14}C年代：8280±40

①にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質ローム　ややパサパサ。炭化粒をわずかに含む。
②暗褐色（10YR3/3）ローム　やや硬質。炭化粒を全体に含む。
③黒褐色（10YR2/2）ローム　炭化物、炭化粒を全体に含む。
④黒色（10YR1.7/1）ローム　やや粘質。
炭化粒、炭化物を多量に含むのでややベタベタした感じがする。又、砕けた礫の細かな粒も含まれている。

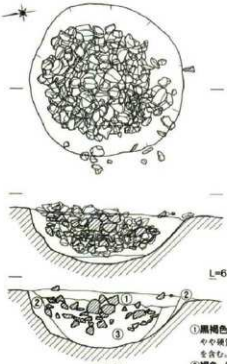


SI-34

①黒褐色（10YR3/2）シルト　やや硬質。全体に炭化粒及び白色パミスを含む。
②(1)灰黄褐色（10YR4/2）シルト　やや軟質　全体的に炭化粒を含む。
(2)褐色（10YR4/4）シルト　やや軟質。地山(基本土層6層)の2次的なもの？
③黒色（10YR2/1）シルト　やや硬質。多量の炭化物、炭化粒を含むためか②と比べるとやや粘質。
又、礫の砕けた1mm～3mmの欠片も混入している。



SI-66

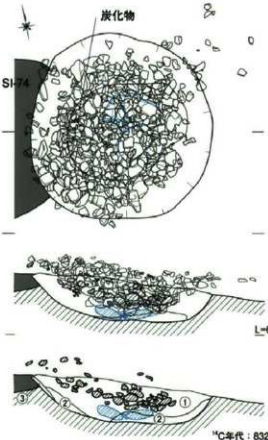


SI-33

①黒褐色（10YR3/2）シルト
やや硬質。全体に炭化粒及び白色パミスを含む。
②褐色（10YR4/4）シルト
やや軟質。地山(基本土層6層)の2次的なもの？
③黒色（10YR2/1）シルトやや硬質。多量の炭化物、炭化粒を含むためか②と比べるとやや粘質。又、礫の砕けた1mm～3mmの欠片も混入している。

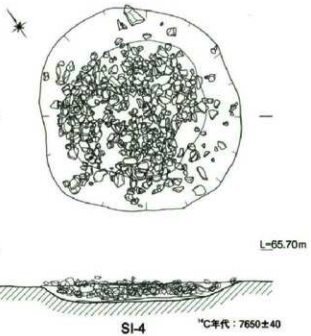
0　1m

第16図　縄文時代早期集石遺構実測図③（S=1/30）

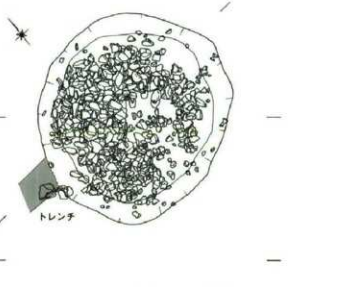


SI-61

①黒色（10YR2/1）砂質ローム　軟かめ、しまりは強め。礫、炭化物を多量に含む。白色パミスを含む。
②黒褐色（10YR2/2）ローム　硬く、しまりは強め。①の土と地山の土が混じる層。炭化物、炭化粒を含む。
③黒褐色　（10YR3/2）　ローム　硬め、しまりは強い。炭化物、炭化粒、黄褐色土粒を含む。

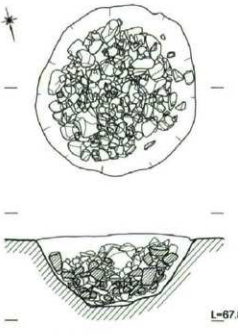


SI-4



SI-47

①暗褐色　（10YR3/4）　砂質ローム　硬め、しまりは強め。炭化物、炭化粒を少量含む。
②黒褐色　（7.5YR2/2）　ローム　硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を少量含む。
③黒色（10YR2/1）ローム　硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を多く含む。礫を多量に含む。
④黒色　（7.5YR2/1）　ローム　硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を含む。
⑤黒褐色土

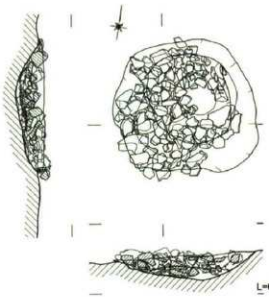


SI-18

①(1)暗褐色　（10YR3/3）　シルト質ローム　炭化粒を含む。
(2)(1)により多くの炭化粒を含む。
②黒褐色　（7.5YR2/2）　シルト　炭化物、炭化粒を含む。
③黒色（7.5YR1.7/1）シルト　多量の炭化物、炭化粒を含む。やや粘性あり。

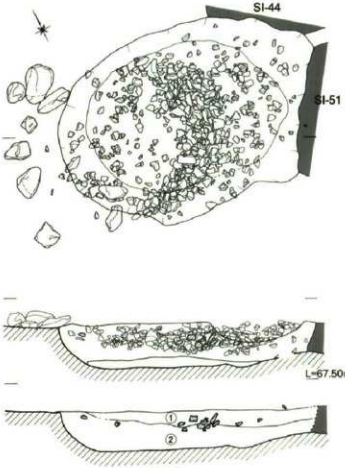
第17図　縄文時代早期集石遺構実測図④（S=1/30）

0　1m



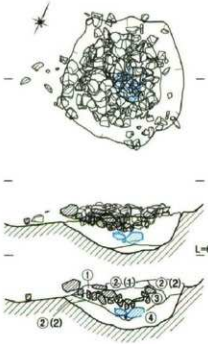
SI-24

①黒褐色（10YR2/3）ローム　やや粗質。全体に炭化粒を含む。
②暗褐色（10YR3/3）ローム　やや粗質。全体に炭化物を含む。



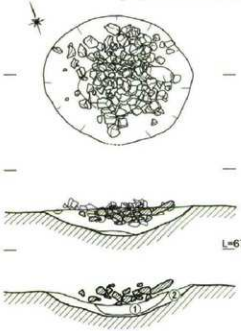
SI-52

①暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム　やや粗質。炭化粒をわずかに含む。
②黒色（10YR2/1）シルト質ローム　やや粗質。炭化粒を全体に含む。



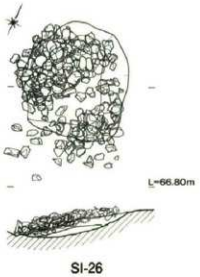
SI-21

①にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質ローム　ややパサパサ。
②(1)暗褐色（10YR3/3）ローム
(2)(2)→(1)よりわずかに明るい。
③黒褐色（10YR2/2）ローム　炭化粒を全体に含む。
④暗褐色（10YR3/4）ローム　炭化物、炭化粒をわずかに含む。



SI-60

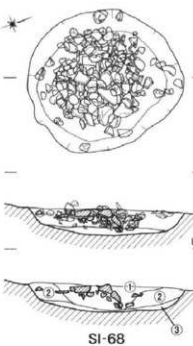
①黒色（10YR2/1）シルト質ローム　炭化粒、炭化物を多く含む。白色パミスを全体に含む。締けた層を含む。
②黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム
炭化粒、白色パミスを全体に含む(①よりは少ない)。締けた層を含む。



SI-26

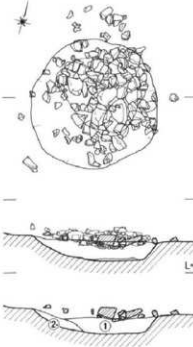
0　1m

第18図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤（S＝1/30）



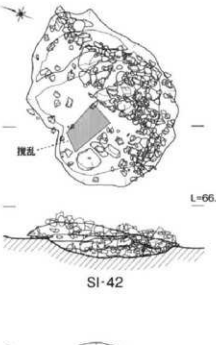
SI-68

①黒色（10YR2/1）ローム　締め、しまりは強い。
炭化物、炭化粒を少量、白色パミスを含む。礫を含む。
②黒褐色（10YR2/3）ローム　締め。しまりは強め。
炭化物、炭化粒を含む。白色パミスを少量含む。礫を含む。
③黒褐色(7.5YR3/2)ローム　締め。しまりは強め。
白色パミスを少量含む。

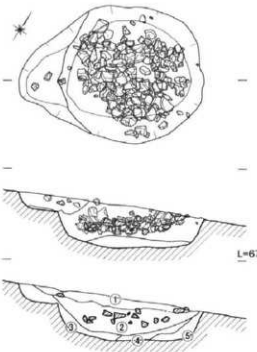


SI-71

①黒褐色（10YR2/2）ローム　締め、しまりは強め。
炭化物、炭化粒を少量含む。上部は礫が多量に含まれる。
②黒褐色（10YR3/1）ローム　締く、しまりは強め。
炭化物、炭化粒を少量含む。

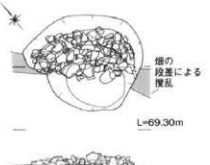


SI-42

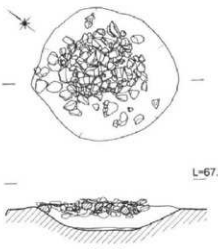


SI-58

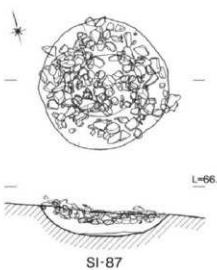
①黒褐色(10YR2/2)砂質ローム　締く、しまりは強い。白色パミスを多く含む。　炭化物、炭化粒、礫を少量含む。
②黒色（10YR2/1）ローム　締め、しまりは強め。白色パミスを少量含む。炭化物、炭化粒を含む。礫を多く含む。
③黒褐色（10YR2/3）ローム　締く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を少量含む。礫を少量含む。
④黒褐色（10YR2/2）ローム　締く、しまりは強め。炭化物、炭化粒、白色パミスを少量含む。
⑤暗褐色（10YR3/4）ローム　締く、しまりは強め。炭化物、炭化粒を少量含む。



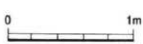
SI-7



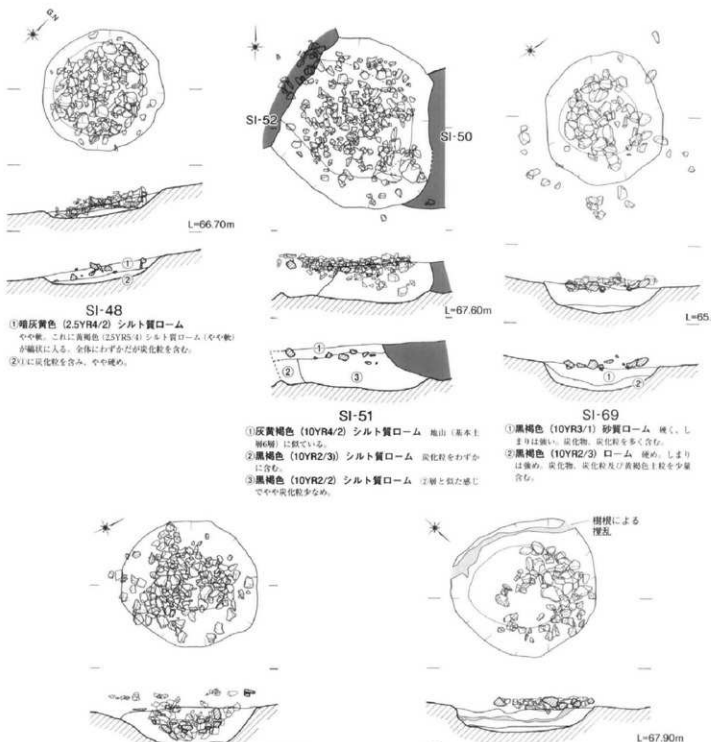
SI-15



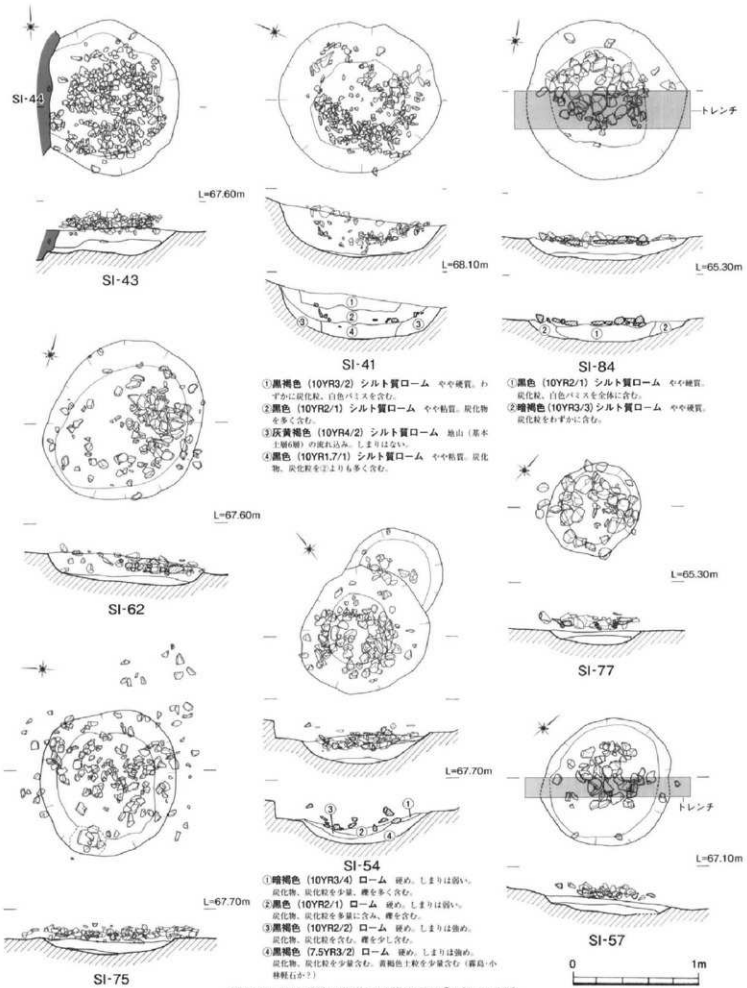
SI-87



第19図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥（S=1/30）

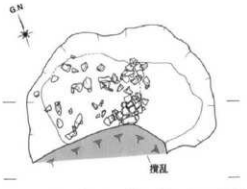


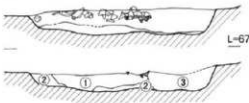
第20図 縄文時代早期集石遺構実測図⑦ (S=1/30)



第21図　縄文時代早期集石遺構実測図⑧（S＝1/30）

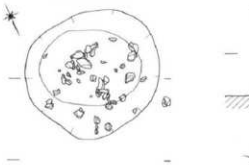
第22図　縄文時代早期集石遺構実測図⑨（S=1/30）





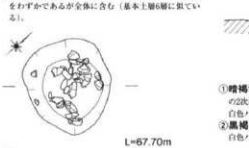
SI-40

①**黒色（10YR1.7/1）シルト質ローム**
炭化粒を多く含む。
又白色パミスを含むためやや硬め。
②**灰黄褐色（10YR4/2）シルト質ローム**
炭化粒をわずかに含む。
③①と同じだがSI-40の下に広がると推測される水次に向ってSI-40が落ち込んでいて、そのためこのような状況になった。

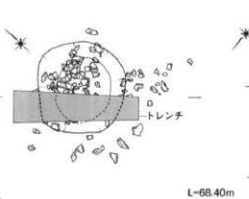


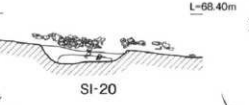
SI-79

①**黒褐色（10YR2/2）シルト質ローム** 白色パミス、炭化粒を多く含む。
②**黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム** 炭化粒をわずかであるが全体に含む（基本土層6層に似ている）。

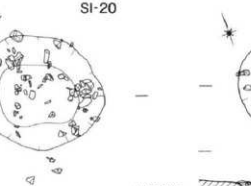


SI-89

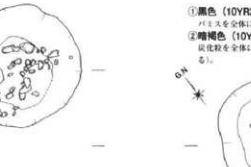




SI-20

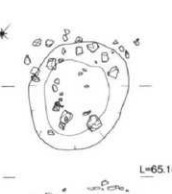


SI-80

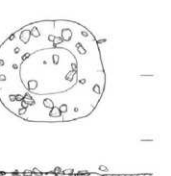


SI-28

①**暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム** 基本土層6層の2次的なもの。
白色パミスをわずかに含むためやや硬くしまっている。
②**黒褐色（10YR2/2）シルト質ローム** やや硬。
白色パミス、炭化粒を全体に含む。

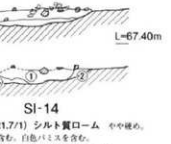


SI-92



SI-85

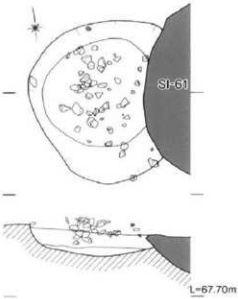
①**黒色（10YR2/1）シルト質ローム** 炭化粒、白色パミスを全体に含む。
②**暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム**
炭化粒を全体にわずかだが含む（基本土層6層に似ている）。



SI-14

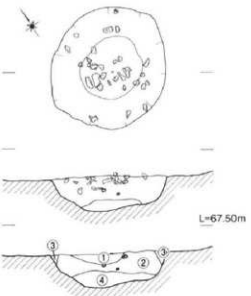
①**黒色（10YR1.7/1）シルト質ローム** やや硬め。
炭化粒を多く含む。白色パミスを含む。
②**灰黄褐色（10YR4/2）シルト質ローム**
基本土層6層によく似ている。炭化粒をわずかに含む。

第23図　縄文時代早期集石遺構実測図⑩（S＝1/30）



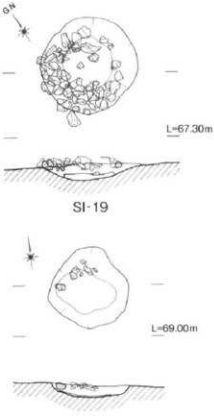
SI-74

①**黒褐色（10YR2/3）ローム** 硬め。しまりは強め。炭化物、炭化粒、赤褐色土粒、黄褐色土粒を含む。上部に礫を含む。
②**暗褐色（10YR3/3）ローム** 硬め。しまりは弱め。黄褐色土粒、炭化物、炭化粒を少量含む。



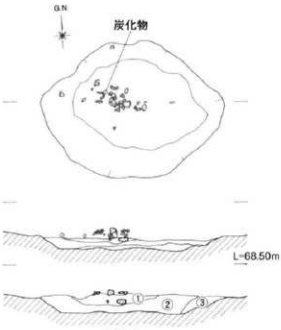
SI-27

①**暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質ローム** わずかに炭化粒を含む。
②**オリーブ黒色（5Y3/1）シルト質ローム** 炭化粒、白色パミス、橙色パミスを全体に含む。
③**オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト質ローム** やや軟質。基本土層6層の流れ込み。
④②に風化した霧島・小林軽石の小ブロック（3cm程）が20%入る。



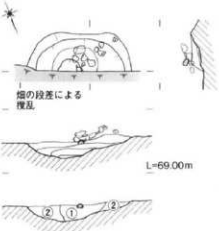
SI-19

SI-6



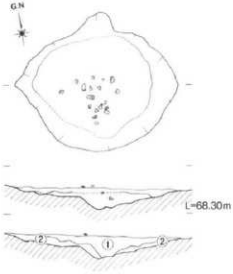
SI-11

①**黒色土シルト質ローム** やや硬質。白色パミスを全体に含む。炭化粒も全体に含む。
②①と似ているが白色パミスの量が減り、かわりに底面シラスがわずかにまじっている。
③**暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質ローム** 炭化粒、白色パミスをわずかに含む。



SI-8

①**黒色（10YR1.7/1）シルト質ローム**
白色パミスを少量含む。明黄褐色（2.5Y6/6）砂質ロームブロック（2～5mm）を3%程度含む。
②**黒褐色（10YR2/3）砂質ローム**
にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質ロームブロック（5～10mm）を10%程度含む。



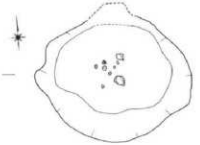
SI-10

①**黒色（5Y2/1）シルト質ローム**
白色、橙色パミスを全体に含む。炭化粒を多量に含んでいる。
②①に地山（霧島・小林軽石）の小ブロックを含む。

0　1m

第24図　縄文時代早期集石遺構実測図⑪（S＝1/30）

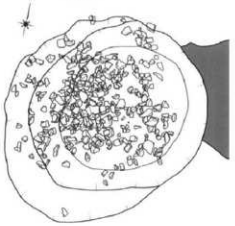
SI-5



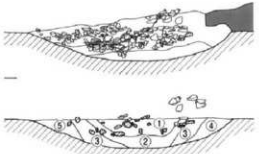
SI-12

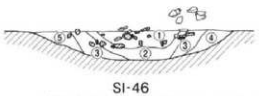
SI-49

①**黒色**（7.5YR2/1）**砂質ローム** 硬め。しまりは強め。
炭化物、炭化粒を多量に含む。礫を少量含む。
②**黒褐色**（10YR2/2）**ローム** 硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を含む。
露岩・小林軽石の粒を少量含む。
③**黒褐色**（10YR2/3）**ローム** 硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を少量含む。露岩・小林軽石の粒を少量含む。



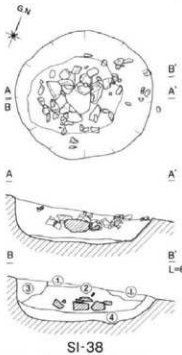
SI-45





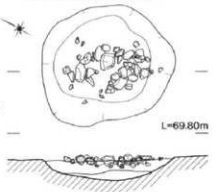
SI-46

①**黒色**（10YR1.7/1）**シルト質ローム** やや粘質。炭化粒を多量に含む。
②**黒色**（10YR1.7/1）**シルト質ローム** やや硬質。炭化粒を全体に含む。又、白色パミス、橙色パミスを全体に含む。
③②よりパミスが多い。
④③よりパミスが多く露岩・小林軽石の小ブロックもわずかに混じる。
⑤**オリーブ褐色**（2.5Y4/6）**シルト質ローム** 基本土層6層に似ていて、それに炭化粒を含んでいる。乾くとパサパサになる。



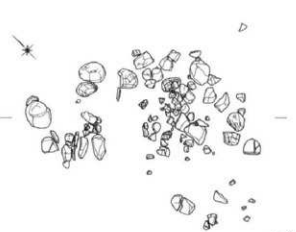
SI-38

①**暗オリーブ褐色**（2.5Y3/3）**シルト** やや硬質。炭化粒を含む。
②**黒褐色**（2.5Y3/1）**シルト** やや硬質。炭化粒を含む。
③**オリーブ褐色**（2.5Y4/6）**シルト** やや硬質。基本土層6層が少し黒ずんだ様な感じ（2次的）。
④土層に露岩・小林軽石の小ブロック（2cm ～ 3cm程）が30%入り込む。



SI-1

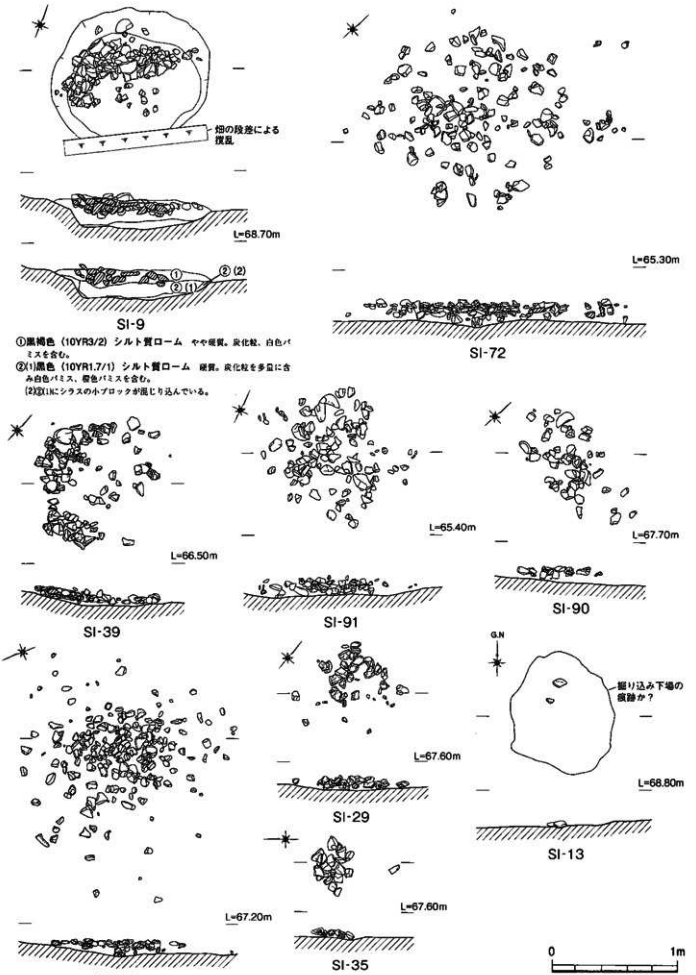
SI-56



SI-36

第25図　縄文時代早期集石遺構実測図⑫（S=1/30）

0　1m



第26図　縄文時代早期集石遺構実測図⑬（S＝1/30）

2．陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は計８基検出され、主な検出状況は次のとおりである。

①６層の掘り下げ作業を行ったところ、黒いシミが確認された。(SC－８のみ)

②６層の掘り下げ作業を行ったところ、６層中位あたりからボンヤリと黒いシミがみえはじめ、９層〔霧島・小林軽石層〕上位まで検出面を下げると、ようやくそのプランが明瞭になった。

③縄文時代草創期・早期の文化層が既に削平されている範囲において、長楕円形の黒いシミが確認された。

SC-８

本遺跡で検出された陥し穴状遺構のなかで、唯一６層中位で確認することが出来た。平面プランは長軸約1.65m・短軸約0.95mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約1.1mである。断面形状については、長軸・短軸いずれもほぼ垂直にちかい角度で底面から立ちあがっているが、霧島・小林軽石層のあたりで傾斜がやや緩くなっている（層の固さが要因であろう)。当台地上でよくみられるタイプの陥し穴状遺構と比較すると、やや浅いのが特徴である。また、底部では、８個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から0.1 ～ 0.25m掘り込まれているが、同時に全てを配置したのか、それともある程度の時間差があるのかは不明である。尚、埋土中の炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《9690±40年BP》という結果が得られている。

SC-39

９層〔霧島・小林軽石層〕で検出された。平面プランは長軸約1.9m・短軸約1.2mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約1mである。おそらく６層から掘り込まれているため、実際はさらに数10cm深い陥し穴状遺構であろう（他と比較するとやや深め)。断面形状については、長軸・短軸いずれもかなり傾斜がきつめで、長軸方向には一段のテラスを設けている。また、底部では、直線的に配置された３個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から0.15 ～ 0.4m掘り込まれている。

SC-13

炉穴（SC－14）と切り合った状態で９層〔霧島・小林軽石層〕上面において検出された。平面プランは長軸約2.1m・短軸約1.35mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約1.8mである。おそらく６層から掘り込まれているため、実際はさらに数10cm深い陥し穴状遺構であろう（SC－８・39と比較するとかなり深め)。断面形状については、長軸・短軸いずれもほぼ垂直にちかい角度で底面から立ちあがっているが、検出面（＝霧島・小林軽石層）近くの遺構最上位では傾斜がやや緩くなっている（層の固さが要因であろう)。また、底部では、直線的に配置された３個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から約0.45m掘り込まれている。

SC-19

９層〔霧島・小林軽石層〕上面で検出された。平面プランは長軸約 1.85 m・短軸約 1.95 mの楕円形を呈し、検出面からの深さは約 1.95 mである。おそらく６層から掘り込まれているため、実際はさらに数 10cm 深い陥し穴状遺構であろう（SC －８・39 と比較するとかなり深め)。遺構が構築された過程については、まず６層から緩やかな角度で掘り込んだ後、霧島・小林軽石層から再度ほぼ垂直に掘り込んだものと推測される。各層の硬度からみて、軟らかめの６層を広めに掘って９層までたどりつき、その後かなり硬めの９層からは獲物の確保を意識したプランでより深く掘り込むというながれは、作業効率からも至極当然のように思われる。また、底部では、直線的に配置された２個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から約 0.25 m掘り込まれている。

SC-24

９層〔霧島・小林軽石層〕上面で検出された。平面プランは長軸約1.85m・短軸約1.2mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約1.8mである。おそらく６層から掘り込まれているため、実際はさらに数10cm深い陥し穴状遺構であろう（SC－８・39と比較するとかなり深め)。断面形状については、長軸・短軸いずれもほぼ垂直にちかい角度で底面から立ちあがっているが、検出面（＝霧島・小林軽石層）近くの遺構最上位では傾斜がやや緩くなっている（層の固さが要因であろう)。また、底部では、直線的に配置された２個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から約0.4m掘り込まれている。

SC- 4

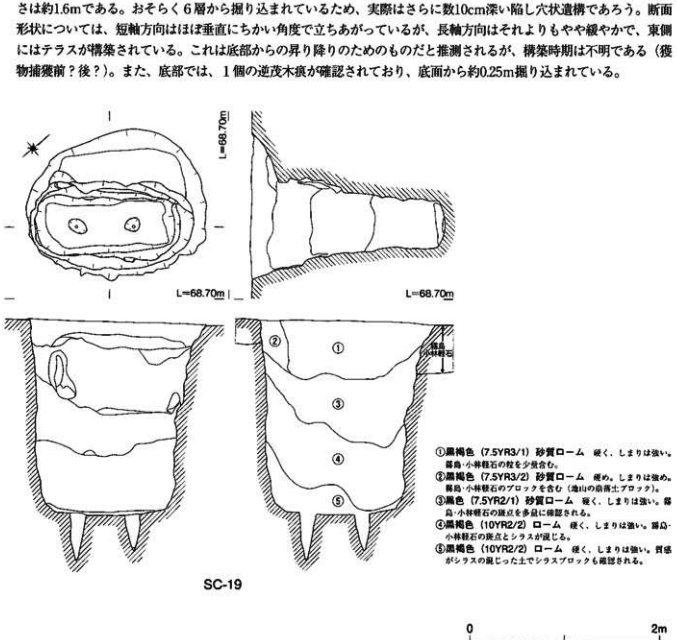
9層〔霧島・小林軽石層〕で検出された。平面プランは長軸約1.5m・短軸約0.85mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約1.6mである。おそらく6層から掘り込まれているため、実際はさらに数10cm深い陥し穴状遺構であろう（SC-8・39と比較するとかなり深め）。断面形状については、長軸・短軸いずれもほぼ垂直にちかい角度で底面から立ちあがっている。また、底部では、直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から約0.5m掘り込まれている。

SC-12

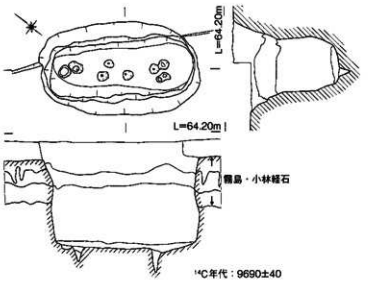
9層〔霧島・小林軽石層〕下位で検出された。平面プランは長軸約 1.6 m・短軸約 0.75 mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約 1.35 mである。おそらく6層から掘り込まれているため、実際はさらに数 10cm 深い陥し穴状遺構であろう。断面形状については、長軸・短軸いずれもほぼ垂直にちかい角度で底面から立ちあがっている。また、底部では、直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から約 0.35 m掘り込まれている。

SC-17

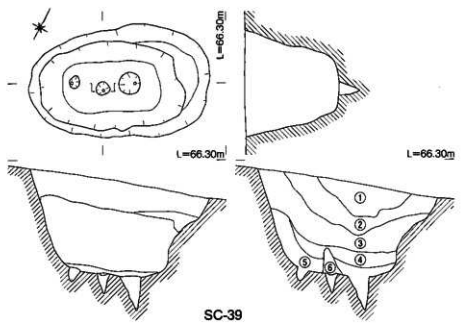
9層〔霧島・小林軽石層〕で検出された。平面プランは長軸約2.3m・短軸約1.2mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは約1.6mである。おそらく6層から掘り込まれているため、実際はさらに数10cm深い陥し穴状遺構であろう。断面形状については、短軸方向はほぼ垂直にちかい角度で立ちあがっているが、長軸方向はそれよりもやや緩やかで、東側にはテラスが構築されている。これは底部からの昇り降りのためのものだと推測されるが、構築時期は不明である（獲物捕獲前？後？）。また、底部では、1個の逆茂木痕が確認されており、底面から約0.25m掘り込まれている。



第27図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図①（S＝1/40）

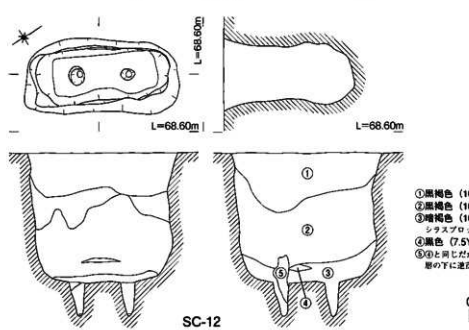


SC-8



SC-39

①黒褐色（10YR2/2）ローム　硬め。しまりは弱め。炭化物、炭化粒を含むが木の根の攪乱を受けているため、その影響も考えられる。
②黒褐色（10YR2/3）ローム　硬め。しまりは強め。褐色土ブロックを多く含む。木の根の攪乱をうける。
③黒褐色（10YR2/2）砂質ローム　硬く、しまりは強い。
褐色土ブロックを含む。
④黒褐色（10YR3/2）砂質ローム　硬く、しまりは強い。
質感にシラスの影響が出てくる。
⑤黒褐色（10YR2/2）砂質ローム　硬め。しまりは弱め。
シラスブロックを含む。
⑥黒褐色（10YR3/1）砂質ローム　硬く、しまりは強め。
褐色土ブロックを含む。

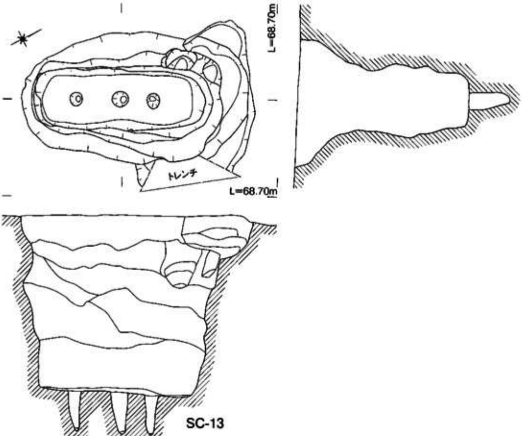


SC-12

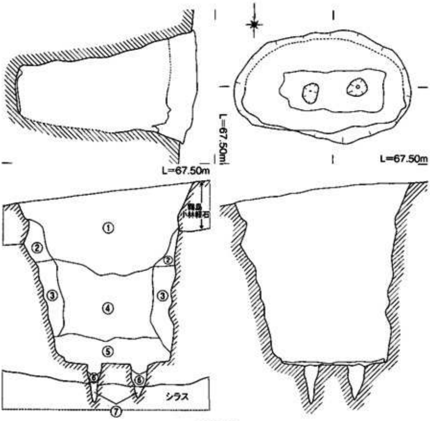
①黒褐色（10YR2/3）ローム　硬く、しまりは強め。
②黒褐色（10YR2/2）砂質ローム　軟らかめ。しまりは弱め。
③暗褐色（10YR3/3）砂質ローム　硬め。しまりは弱め。
シラスブロックが侵入。
④黒色（7.5YR2/1）ロームブロック　硬く、しまりは強い。
⑤①と同じだがこの層のみうちに褐色土（7.5YR5/8）が混じる。この層の下に逆茂木が検出された。

0　2m

第28図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図②（S=1/40）



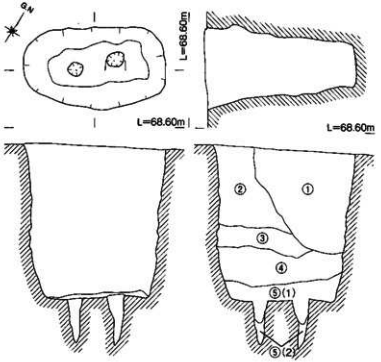
SC-13



SC-24

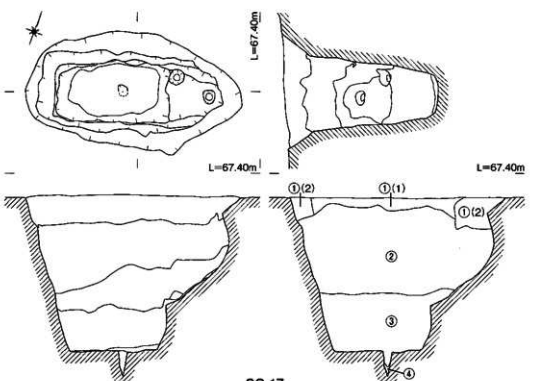
①黒褐色（2.5Y3/1）ローム　かなり硬い（小林軽石の2次的なものが中心のためではないか）。これに、3cm～10cmの水泡状の灰オリーブ色（5Y4/2）ローム土が20%程脈状に入り込む。
②①の層に、地山（砂質ローム）が作用していて、①よりやや青っぽい　土質は似ている。
③④層に地山が作用していて、④層よりやや黄橙っぽい。土質は④と似ている。
④AとBがしま状をなしているが、Bが50%程になるため、全体としてはやや明るくなる。
⑤①層とほぼ同質（A－70%、B－30%）。
⑥⑤層に地山が作用し、⑤層よりやや褐色。
⑦⑥層に地山が作用し、⑥層よりやや褐色。

第29図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図③（S＝1/40）



SC-4

①黒褐色（2.5Y3/2）砂質ローム　硬質。白色パミス、橙色パミスを全体に含む。篠島・小林軽石の風化層の2次的なものではないか。
②暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質ローム　硬質。篠島・小林軽石の風化層の2次的なものではないか。
③黒褐色（2.5Y3/2）砂質ローム　硬質。篠島・小林軽石の風化層の2次的なものではないか。
④暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質ローム　硬質。白色パミス、橙色パミスを全体に含む。
⑤(1)オリーブ黒色（5Y3/1）砂質ローム　硬質。白色パミス、橙色パミスをわずかに含み、全体に炭化粒も含む。
(2)⑤(1)にシラスが混ざり込んでいる。湧水の底に近づく程、色が薄くなっている。



SC-17

①(1)黒褐色（10YR3/2)シルト質ローム　やや硬質。20%程の割合で黄褐色（2.5Y5/3）シルト質ローム が水泡状で混ざり込む。
(2)水泡状に混ざり込む割合が50%程なため、オリーブ色の強い色調になる。
②黒褐色（10YR2/2）シルト　非常に硬質。篠島・小林軽石風化層の2次的なものを含んでいるためかかなり硬い。
③④に炭化粒を含んでいる。
④③にシラスがしみこんで下にいく程厚くなる。

第30図　縄文時代早期陥し穴状遺構実測図④（S=1/40）

第6表　縄文時代早期陥し穴状遺構観察表

	遺構No	検出面	^{14}C年代（年BP）	サイズ（長軸）×（短軸）×（深さ）(m)	数（本）	逆茂木（直径）×（深さ）(m)	備考
1	SC－8	6層中位	9690±40	1.65 × 0.95 × 1.1	8	0.15～0.1 × 0.25～0.1	
2	SC－39	9層		1.9 × 1.2 × 1	3	0.25～0.1 × 0.4～0.15	
3	SC－13	9層		2.1 × 1.35 × 1.8	3	0.15 × 0.45	SC-14と切り合っている
4	SC－19	9層		1.85 × 1.5 × 1.95	2	0.15 × 0.25	
5	SC－24	8層		1.85 × 1.2 × 1.8	2	0.2 × 0.4	
6	SC－4	9層		1.5 × 0.85 × 1.6	2	0.2 × 0.5	
7	SC－12	9層下位		1.6 × 0.75 × 1.35	2	0.2～0.15 × 0.35	
8	SC－17	9層		2.3 × 1.2 × 1.6	1	0.1 × 0.25	

3．炉　穴

6層の掘り下げ作業を実施していたところ、楕円形や不整形の茶黒色のプランが確認された。5層下位から検出され6層でも多数検出された集石遺構とはやや異なる検出状況であったため、これらについては検出面を8層ないし9層まで下げ、慎重な検出作業を行った。結果、単独で検出された炉穴が12基、グループで検出された炉穴が7群（燃焼部23ヶ所）であった。

単独で検出された炉穴

SC-48

集石遺構（SI-86）と切り合った状態で9層において検出された。両遺構の新旧関係については、現場での確認作業の結果SC-48が先に構築されていると推測される。

本遺構は、今回の調査で検出された炉穴のなかで唯一ブリッジが残存するものであり、煙道部の平面プランは円形で燃焼部から足場にかけての平面プランは長楕円形である。煙道部の半径と燃焼部から足場にかけての短軸を比較すると、煙道部の方がやや広い。断面形状については、遺構の長軸側はやや緩やかに傾斜し、短軸はほぼ垂直に立ちあがっている。また、燃焼部はブリッジ下で確認されており、焼土に厚みはほとんど無く、地山の赤変範囲が確認されている。尚、埋土中の炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8240±40年BP》という結果が得られている。

SC-37

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。ブリッジはいずれも残存していないが、その痕跡であるくびれ部は確認された。平面プランは煙道部の方が次第に狭くなる舟形を呈しており、これは煙道部の半径が足場から燃焼部にかけての短軸よりも狭かったためである（SC-48とは逆）。長軸方向の断面形状については、足場から燃焼部へと緩やかに下っており（燃焼部付近でやや傾斜角度が変化している）、燃焼部から煙道についてはそれよりもやや急な角度で立ち上がっている。また、短軸方向の断面形状については、いずれもほぼ垂直に立ち上がっている。尚、燃焼部において、その短軸方向側面で焼土が確認されている。

SC-34

9層〔霧島・小林軽石層〕で検出された。ブリッジは残存していないが、その痕跡であるくびれ部は確認された。平面プランはSC-37同様の舟形を呈している。また、断面形状もSC-37とよく似ている。　尚、燃焼部において、地山の赤化範囲が確認されている。

SC-15

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。ブリッジや焼土、地山の赤化範囲はいずれも確認できないが、その痕跡であるくびれ部が残存しているため炉穴と判断した。平面プランはSC-37・34同様煙道部の方が次第に狭くなる舟形を呈しているが、本遺構は煙道部付近が尖った形状となっている。尚、断面形状は長軸・短軸方向いずれもSC-37・34とほぼ同様である。

SC-14

隔し穴状遺構（SC-13）と切り合った状態で9層において検出された。両遺構の新旧関係については、現場での確認作業の結果SC-14が先に構築されていると推測される。

平面プランは長楕円形を呈し、断面形状は皿状である。また、遺構の最深部やや上位で確認された燃焼部においては、焼土にほとんど厚みはなく、地山の赤変範囲が確認されている。

SC-21

土坑（SC-25・30）と切り合った状態で、9層の緩斜面において検出された。3遺構の新旧関係については不明である。平面プランは長楕円形を呈し、長軸の壁面はほぼ垂直に、短軸の壁面はそれよりやや緩やかに立ちあがっている。

SC-33

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。ブリッジは残存しておらず、その痕跡であるくびれ部も確認できていない。平面プランは楕円形で、卵形ともいえるものである。断面形状はSC-37・34・15とほぼ同様で、燃焼部において焼土及び地山の赤変範囲が確認されている。全体的な様相はSC-37・34・15とよく似ているが、燃焼部から足場にかけての規模が小さいことが特徴として挙げられる。これは、検出面が他よりもやや低いことに影響があるのではないかと推測される。

SC-47・51

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。ブリッジは残存しておらず、その痕跡であるくびれ部も確認できていない。平面プランは楕円形で、断面形状はSC-37・34・15の燃焼部付近とほぼ同様である。また、燃焼部において、地山の赤変範囲が確認されている。尚、他の炉穴と比較して規模が小型なのは、SC-33と同様の理由が考えられる。

SC-38

SC-43と切り合った状態で、8層〔霧島・小林軽石風化層〕において検出された。ブリッジは残存していないが、その痕跡であるくびれ部は確認された。平・断面の形状はSC-37・34・15と似ているが、底面が広いのが特徴の一つとしてあげられる。また、燃焼部は遺構の最深部で確認されているが、ほとんど厚みはなく地山が赤変している状況であった。

SC-36

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。ブリッジ、燃焼部いずれも確認できていないが、その形状や埋土からみて炉穴であった可能性が高い。尚、平・断面プランについては、SC-21とよく似ている。

SC-32

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。ブリッジ、燃焼部いずれも確認できていないが、SC-36同様その形状や埋土からみて炉穴であった可能性が高い。尚、平・断面プランについてはSC-37・34・15とよく似ている。

群で検出された炉穴

SC-22

9層で検出された。ブリッジ、燃焼部いずれも確認できていないが、その形状や埋土からみて炉穴であった可能性が高い。3ヶ所の燃焼部があったと推測されるが、拡張の順序については不明である。

SC-29

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。T字の形状を呈するこの遺構は、燃焼部は確認できていないが、ブリッジの痕跡であるくびれ部がみられることや埋土からみて炉穴であった可能性が高い。また、その形状からみて2度の拡張があったことが推測され、その順序については、まずくびれ部が確認された炉穴が構築され、ブリッジ崩落後、その足場を利用して北東に向けて拡張されたものであると推測される。

SC-60

集石遺構（SI-66）と切り合った状態で8層〔霧島・小林軽石風化層〕において検出された。平面プランがV字を呈するこの遺構では、2ヶ所の燃焼部が確認されている。本遺構では、まず片方の燃焼部をもつ炉穴が構築され、そのブリッジ崩落後、もう片方の燃焼部を同じ足場から拡張したものと推測される。断面形状については、2つの燃焼部ともに足場からもう一段掘り込んでおり、その最深部付近で地山の赤変が確認されている。

SC-41

8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。不整形な本遺構では、3ヶ所の燃焼部が確認されている。単独の炉穴が複数切り合った状態である可能性も否めないが、おそらく2度の拡張が行われた炉穴であろう。拡張の順序については、まず最も高位にある燃焼部を持つ炉穴が構築され、そのブリッジ崩壊後、同じ足場から北側にむけて新たな燃焼部が構築されたのではないだろうか。その後、そのブリッジも崩落したため、2つ目の燃焼部を足場に利用しながら北側にもう一段掘り込みを設け、そこを燃焼部として使用したものと考えられる。

SC-43

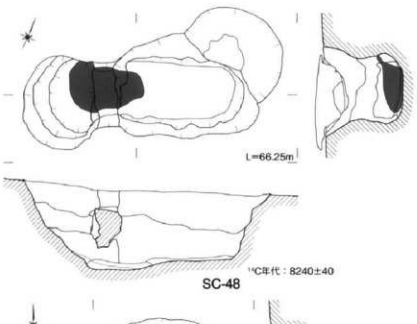
SC-38とSI-58と切り合った状態で8層〔霧島・小林軽石風化層〕において検出された。ブリッジも燃焼部も確認されていないが、その形状からみて炉穴であると判断した。3つの炉穴が切り合ったものか、拡張が行われた炉穴かは不明である。

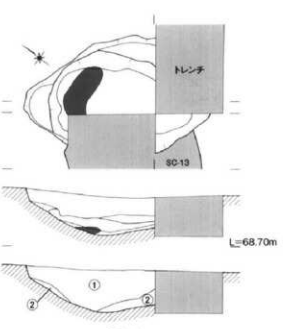
SC-16

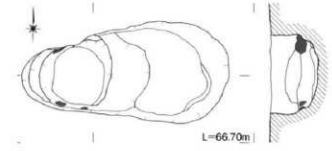
南向き緩斜面の8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。不整形な本遺構では、4ヶ所の燃焼部が確認されている。単独の炉穴が複数切り合った状態である可能性も否めないが、おそらく3度の拡張が行われた炉穴であろう。拡張の順序については、構築された地形からみて南から北へのながれが想像される。まず、傾斜上位に燃焼部を設ける形で炉穴を構築し、ブリッジ崩落後、同じ足場を利用して西側に新たな燃焼部を構築、そのブリッジも崩落した後は、斜面上位となる北にむけてあらたな燃焼部及び煙道を構築している。地形を生かしたこの拡張は、この台地特有の西風を意識したものであろう。尚、本遺構においては、燃焼部の赤変範囲の断面確認作業を行った。結果、赤変している厚みについては、最大5cm程度であることが明らかになった。

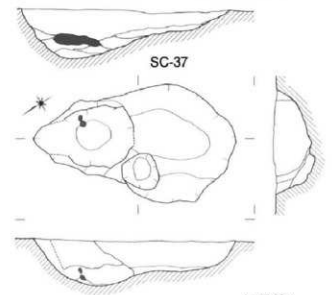
SC-18

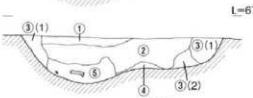
南向き緩斜面の8層〔霧島・小林軽石風化層〕で検出された。不整形な本遺構では、5ヶ所の燃焼部が確認されている。単独の炉穴が複数切り合った状態である可能性も否めないが、おそらく4度の拡張が行われた炉穴であろう。拡張の順序については不明であるが、SC-16同様に構築された地形からみて南西から北への拡張が想像される。ただし、その複雑な構造や、土層断面による確認作業も不十分あったため、SC-16ほどには拡張のながれが把握しにくかった。尚、埋土中の炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、《8220±40年BP》という結果が得られている。

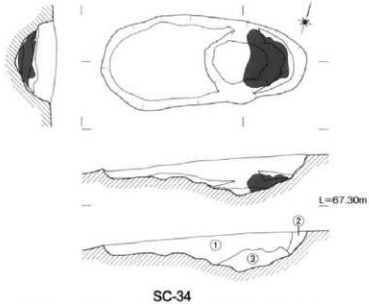








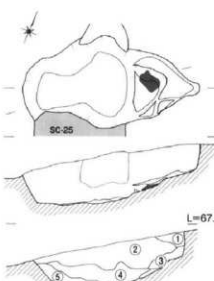




＊●は全て焼土及び赤変部

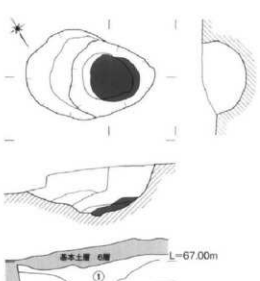
0　2m

第31図　縄文時代早期炉穴実測図①（S=1/40）



SC-21

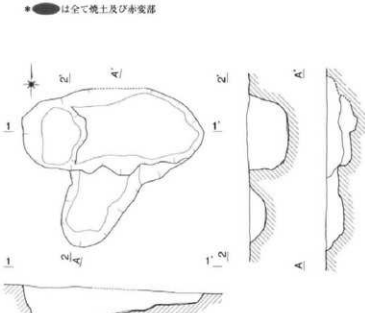
①**暗褐色（10YR3/4）砂質ローム** 締め。しまりは弱め。炭化物、炭化粒を少量含む。地山（基本土層6層）の崩落か？
②**黒色（10YR2/1）ローム** 締め。しまりは弱め。炭化物、炭化粒を含む。露島・小林軽石の粒（パミス）を少量含む。
③**黒褐色（10YR2/3）砂質ローム** 硬く、しまりは弱め。炭化物、炭化粒を少量含む。露島・小林軽石を多く含む。
④**黒褐色（7.5YR3/2）砂質ローム** 硬く、しまりは弱め。炭化物、炭化粒を含む。露島・小林軽石の塊点を少量含む。一部焼土粒を含む。
⑤**にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質ローム** しまりは強め。炭化物、炭化粒を少量含む。露島・小林軽石を少量含む。



SC-47

①**黒褐色（5YR3/1）シルト質ローム** 締め。しまりは強め。炭化物、炭化粒、焼土粒を少量含む。褐色土ブロックを含む。
②**黒褐色（7.5YR2/2）ローム** 締め。しまりは弱め。炭化物、炭化粒、焼土粒を少量含む。礫を含む。
③**黒褐色（5YR2/1）シルト質ローム** 硬く、しまりは弱め。炭化物、炭化粒、焼土粒を多く含む。礫を含む。
④**極暗褐色（7.5YR2/3）ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒を少量含む。
⑤**黒褐色（5YR2/2）シルト質ローム** 軟らかめ。しまりは弱め。炭化物、炭化粒、焼土粒を多く含む。礫を含む。
⑥**黒褐色（5YR3/1）ローム** 軟らかめ。しまりは弱め。炭化物、炭化粒、焼土粒を多く含む。
⑦**暗赤褐色（5YR3/4）砂質ローム** 硬く、しまりは弱い。焼土ブロック（プリッジの崩落か？）や炭化物、礫を含む。

＊●は全て焼土及び赤変部



SC-32

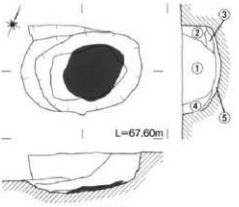
①**褐灰色（10YR4/1）シルト質ローム** 被覆。炭化粒、白色パミス、橙色パミスを全体に含む。露島・小林軽石の2次的な土。
②**黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム** 被覆。炭化粒、白色パミス、橙色パミスを全体に含む。露島・小林軽石の2次的な土。
③地山（露島・小林軽石）が崩落してたまっている。
④**灰黄褐色（10YR4/2）シルト質ローム** 被覆。白色パミス、橙色パミスを含み、わずかに炭化粒を含む。
⑤**黒色（10YR2/1）シルト質ローム** 被覆。炭化粒を全体に含む（②、③層より多量）。

SC-33

①**灰黄褐色（10YR4/2）シルト質ローム** 白色パミス、炭化粒を含む。
②(1)**暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム** 白色パミス、炭化粒を全体に含み、焼土もわずかにみられる。
(2)(2)(1)とほぼ同質だが炭化粒、炭化物の量が多い。
③**にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質ローム** 白色パミス、炭化粒をわずかに含む。

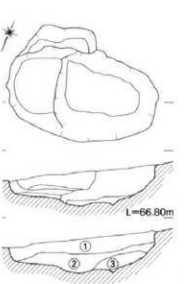
0 2m

第32図 縄文時代早期炉穴実測図②（S=1/40）



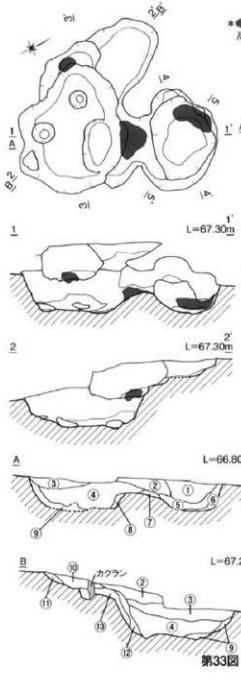
SC-51

①**黒色** (5YR1.7/1) **ローム** 硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒、焼土粒、礫を含む。
②**黒褐色** (10YR2/3) **ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒を含む。
③**黒褐色** (10YR3/1) **ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒、焼土粒を含む。
④**黒褐色** (7.5YR3/1) **ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒、焼土粒、礫を含む。
⑤**黒色** (7.5YR2/1) **ローム** 硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒、焼土塊を多く含む。



SC-36

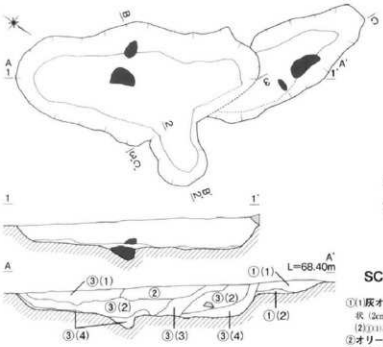
①**黒褐色** (10YR3/1) **シルト質ローム** 硬質（白色パミスを含むため）。炭化粒を全体にわずかが含む。
②**黒褐色** (10YR3/1) **シルト質ローム** やや硬質（白色パミスをごくわずかに含む）。炭化粒を全体に含む。
③**黒褐色** (10YR3/2) **シルト質ローム** やや軟質。②層とは同質だがやや明るめの色調。



SC-41 ①②③

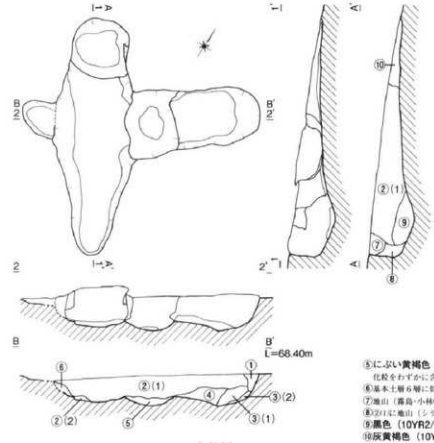
①**黒色** (5YR1.7/1) **砂質ローム** 軟らかめ。しまりは弱め。炭化物塊、礫を含む。焼土粒を少量含む。
②**黒褐色** (5YR3/1) **ローム** 軟らかめ。しまりは強め。炭化物、炭化粒、礫、焼土粒を少量含む。
③**黒色** (7.5YR2/1) **ローム** 硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒、焼土粒を含む。
④**黒褐色** (7.5YR3/1) **ローム** 硬め。しまりは強め。炭化物、炭化粒、礫を含む。
⑤**黒褐色** (7.5YR2/2) **ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒、焼土粒を含む。
⑥**黒褐色** (5YR2/2) **ローム** 硬め。しまりは強め。炭化物、炭化粒を少量含む。地山の影響を受け質感はラスっぽい。
⑦**褐色** (10YR4/6) **砂質ローム** 硬く、しまりは弱い。焼土塊がみられる。地山（シラスの上のロームの上にのるシラスっぽい土層）の上にわずかに汚層の土が混じる感じ。
⑧**黒褐色** (10YR3/1) **ローム** 硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を少量含む。黄褐色土を少量含む。
⑨**黒褐色** (10YR3/1) **ローム** 硬く、しまりは弱め。炭化物、炭化粒、黄褐色土を少量含む。
⑩**黒褐色** (7.5YR2/2) **砂質ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒を少量含む。礫を少量含む。
⑪**黒褐色** (10YR2/3) **砂質ローム** 硬め。しまりは強め。礫を少量含む。
⑫**黒褐色** (10YR3/1) **砂質ローム** 硬く、しまりは弱い。炭化物、炭化粒、焼土粒、黄褐色土粒を少量含む。
⑬**褐色** (10Y R4/6) **砂質ローム** 硬く、しまりは強い。焼土塊がみられる。地山の上に汚層の土が混じる。

第33図　縄文時代早期炉穴実測図③（S=1/40）



SC-22

①(1)**灰オリーブ色（5Y4/2）砂質ローム** オリーブ黄色（5Y6/4）砂質ローム水滴状（2cm～3cm）が40%程混じる。
(2)①(1)とほぼ同質だが ややオリーブ黄色（5Y6/4）砂質ローム の水滴の割合が多い。
②**オリーブ黒色（5Y3/1）ローム** 礫質、炭化粒、橙色パミスを全体に含む。
③(1)**オリーブ黒色（5Y3/2）砂質ローム** 灰オリーブ色（5Y5/3）砂質ローム が水滴状（2cm～3cm）に10%混じる。
(2)③(1)と同質。ただし全体に炭化粒を含む。
(3)③(1)と同質。ただし灰オリーブ色（5Y5/3）砂質ローム が30%。
(4)③(1)と同質。ただし灰オリーブ色（5Y5/3）砂質ローム が40%。

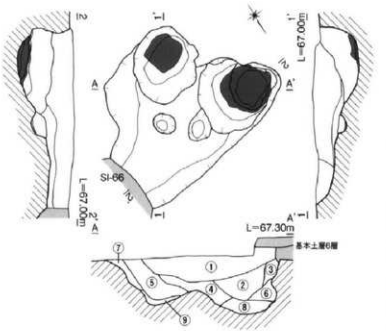


SC-29

①**にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト質ローム** 地山（基本土層6層）の流れ込み。
②(1)**褐灰色（10YR4/1）シルト質ローム** 礫質、白色パミス、橙色パミス、炭化粒をわずかだが全体に含む。
(2)②(1)に地土がわずかに混じる。
③(1)**黒褐色（10YR2/2）シルト質ローム** 礫質、炭化粒を多く含む。
(2)③(1)に地山（シラス）が混ざり込む。
④**黒褐色（10YR2/3）シルト質ローム** 礫質、炭化粒を多く含む。②～⑪よりは少なめ。
⑤**にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト質ローム** ややベターとした質感。炭化粒をわずかに含む。
⑥基本土層6層に似ている。
⑦地山（霧島小林軽石）ブロック塊落。
⑧②(1)に地山（シラス）が混ざり込んでいる。
⑨**黒色（10YR2/1）シルト質ローム** やや粘質。多量の炭化粒を含む。
⑩**灰黄褐色（10YR4/2）シルト質ローム** わずかに炭化粒を含む。

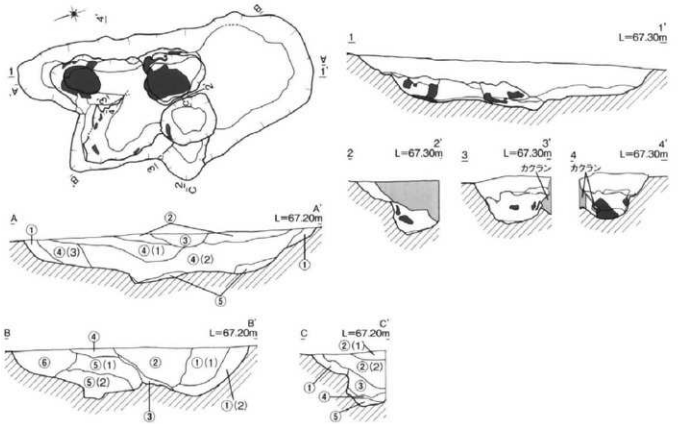
0 2m

第34図 縄文時代早期炉穴実測図④（S＝1/40）



＊●は全て焼土及び赤変部

①**黒色（7.5YR2/1）ローム** 硬め。しまりは強め。礫、炭化物、炭化粒を含む。
②**黒色（7.5YR1.7/1）ローム** 硬く。しまりは弱め。礫、炭化物、炭化粒を含む。
③**黒褐色（5YR2/1）ローム** 硬め。しまりは弱め。炭化物、炭化粒を含む。黒鳥・小林軽石の影響を受ける。
④**黒褐色（7.5YR2/2）ローム** 硬く、しまりは強い。礫を多量、炭化物を含む。
⑤**黒褐色（10YR2/2）ローム** 軟らかめ。しまりは弱め。礫、炭化物を含む。
⑥**黒色（10YR2/1）ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒を含む。黒鳥・小林軽石の影響を受ける。
⑦**黒褐色（7.5YR3/ 1）砂質ローム** しまりは弱い。炭化物、炭化粒を少量含む。黒鳥・小林軽石の影響を受ける。
⑧**黒色（7.5YR2/1）砂質ローム** 硬く、しまりは強い。炭化物、炭化粒を含む。シラスの影響を受ける。
⑨**黒褐色（7.5YR2/2）砂質ローム** 硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒を含む。黒鳥・小林軽石、シラスの影響を受ける。



〈土層断面A〉
①**黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム** やや硬質。地山（基本土層6層下位と8層の境目くらいによく似ている）
②**黒褐色（10YR3/1）シルト質ローム** 硬質。全体に炭化粒及び白色パミスを含む。地山（基本土層6層）に似た黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム土が水泡状（3cm ～ 5cm程）に入り込む。
③**黒色（10YR2/1）シルト質ローム** 硬質。全体に炭化粒及び白色パミスを含む。②層よりやや黒い。黄灰色（2.5Y4/1）シルト質ローム土が水泡状（3cm ～ 5cm程）に入り込む。
④**(1)暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム** 硬質。全体に炭化粒を含み。部分的に1cm ～ 2cm程の炭化物を含む。地山（基本土層6層）に似た黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム土が水泡状（3cm ～ 5cm程）に入り込む。
(2)(1)とほぼ同質。(4)(1)よりやや黒い。
(3)(1)とほぼ同質。(4)(2)よりやや黒い。
⑤**にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト質ローム** やや硬質。被熱したためやや赤茶けた状態。炭化粒を全体に含む。

0 2m

第35図　縄文時代早期炉穴実測図⑤（S＝1/40）

（土層断面B）

①**①黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム**　硬質。全体に炭化粒及び白色パミスを含み、地山（基本土層6層）に似た黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ロームが水泡状に入り込む。

②①①とほぼ同質だがやや黒い。

②**黒色（10YR2/1）シルト質ローム**　硬質。全体に白色パミス、炭化粒を含む。①層同様に水泡状（斑に）に入り込むが、黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ロームの割合が少ない。

③**黒褐色（10YR2/2）**　①①とほぼ同質。

④**黒褐色（10YR3/1）シルト質ローム**　硬質。全体に白色パミス、炭化粒を含み、地山（基本土層6層）に似た黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム土が水泡状に入り込む。

⑤①**暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム**　硬質。全体に白色パミス、炭化粒を含み、地山（基本土層6層）に似た黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム土が水泡状に入り込む。④と比べると炭化粒の量が多く、わずかに炭化物（1cm粒）を含む。

②⑤①とほぼ同質だがやや黒い。

⑥①①と土質はよく似ているが、水泡状に入り込む黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム土の割合が全体的に茶色っぽい色調に見える。

（土層断面C）

①**にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質ローム**　地山（基本土層6層）によく似ている。

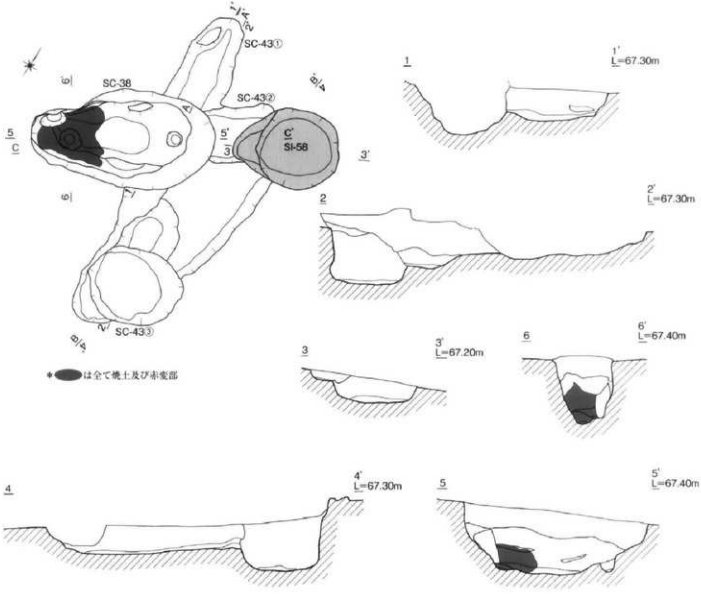
②①**黒褐色（10YR3/ 1）シルト質ローム**　硬質。全体に炭化粒及び白色パミスを含む。地山（基本土層6層）に似た黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム土が水泡状に入り込む。

②**暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム**　硬質。全体に炭化粒及び白色パミスを含む。地山（基本土層6層）に似た黄褐色（2.5Y5/4）シルト質ローム土が水泡状に入り込む。

③**黒褐色（10YR2/2）シルト質ローム**　硬質。全体に炭化粒、白色パミス、橙色パミスを含む。　又②①、②にみられる様な水泡状の入り込みはみられない。

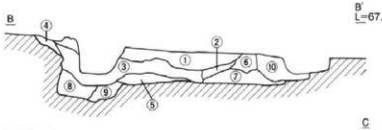
④③と⑤の断移層

⑤**黒色（10YR1.7/1）ローム**　全体に炭化物、炭化粒、白色パミス、橙色パミスを含む。他と比べて炭化物、炭化粒の量が多いので、粘り気がある。



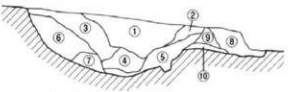
SC-38・SC-43①②③

第36図　縄文時代早期炉穴実測図⑥（S＝1/40）

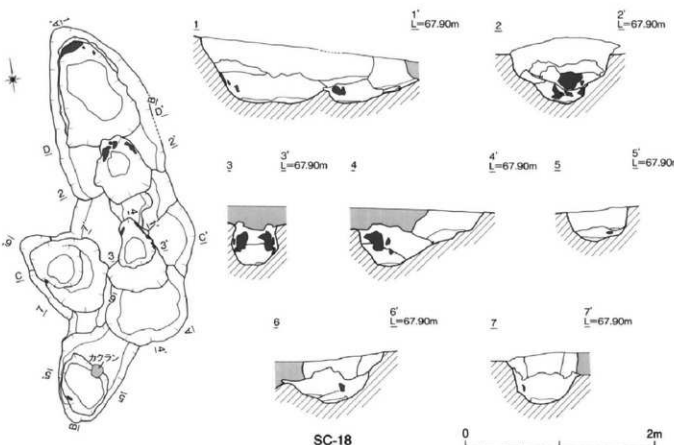


(土層断面A)
①黒褐色 (10YR2/3) ローム層　硬く、しまりは弱め。褐色土ブロック、白色パミスを含む。
②黒褐色 (7.5YR3/1) ローム層　硬め。しまりは弱い。炭化粒、褐色土ブロックを少量含む。
③黒褐色 (10YR3/2) 砂質ローム　硬く、しまりは強め。褐色土ブロックを含む。炭化粒を少量含む。
④暗褐色 (10YR3/4) 砂質ローム　硬く、しまりは強め。褐色土ブロックを含む。

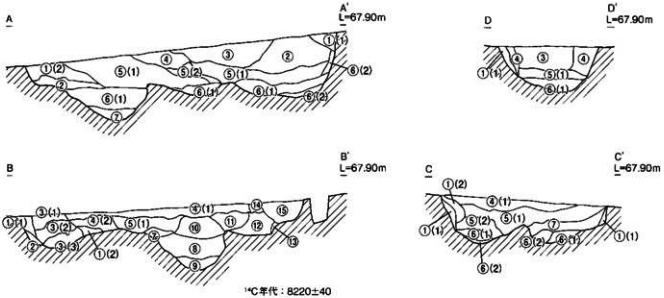
(土層断面B)
①黒色 (10YR2/1) ローム　硬く、しまりは弱め。炭化物粒、褐色土ブロックを多く含む。
②暗褐色 (10YR3/3) ローム　硬く、しまりは強め。炭化物粒、黄褐色土粒を含む。
③黒色 (7.5YR2/1) ローム層　硬く、しまりは弱め。炭化物粒を多く含む。礫、褐色土ブロックを含む。
④暗褐色 (10YR3/3) ローム　硬く、しまりは強い。炭化物粒、褐色土ブロックを含む。
⑤黒色 (7.5YR1.7/1) シルト質ローム　硬く、しまりは強め。炭化物粒、焼土粒を多く含む。礫、土器片等を含む。
⑥暗褐色 (10YR3/4) 砂質ローム　硬く、しまりは弱め。炭化物粒、黄褐色土粒を少量含む。褐色土ブロックを多く含む。
⑦黒褐色 (10YR3/2) ローム　硬く、しまりは強い。炭化物粒、黄褐色土粒を少量含む。
⑧黒褐色 (7.5YR2/2) ローム　硬く、しまりは強め。炭化物粒、黄褐色土粒を含む。
⑨黒褐色 (10YR2/2) ローム　硬く、しまりは強め。炭化物粒、焼土粒、礫、黄褐色土粒を含む。
⑩黒色 (10YR2/1) ローム　硬く、しまりは強め。炭化物粒を多く含む。白色パミスを含む。黄褐色土粒を少量含む。焼土粒、礫、黄褐色土粒を含む。



(土層断面C)
①黒褐色 (10YR3/1) ローム　硬く、しまりは弱め。炭化物を多く含む。礫を少量含む。
②黒褐色 (7.5YR2/2) ローム　軟らかめ。しまりは弱め。炭化物、炭化粒を含む。
③極暗褐色 (7.5YR2/3) ローム　硬め。しまりは弱め。炭化物、炭化粒を含む。黄褐色土粒を少量含む (霧島小林軽石?)。ブリッジの崩落土。
④黒褐色 (10YR2/2) 砂質ローム　硬め。しまりは弱め。炭化物を多く含む。黄褐色土粒を少量含む (霧島小林軽石?)。質感がシラスに若干近い。
⑤黒褐色 (7.5YR2/2) ローム　軟らかめ。しまりは弱い。炭化物を多く含む。焼土を含む。黄褐色土粒、礫を少量含む。質感がシラスに若干近い。
⑥黒褐色 (10YR3/2) 砂質ローム　硬め。しまりは弱め。炭化物、炭化粒、黄褐色土粒を少量含む。質感がシラスに若干近い。
⑦黒褐色 (5YR2/2) ローム　硬め。しまりは強め。焼土塊多く含む。炭化物を含む。ブリッジ上面にいた焼土の層。
⑧黒色 (10YR2/1) ローム　硬め。しまりは強め。炭化物、炭化粒を多く含む。白色パミスを含む。黄褐色土粒を少量含む。
⑨黒褐色 (10YR3/1) ローム　硬め。しまりは弱い。炭化物、炭化粒を含む。
⑩黒褐色 (7.5YR3/2) ローム　硬く、しまりは強め。炭化物、炭化粒、黄褐色土粒を少量含む。



第37図　縄文時代早期炉穴実測図⑦ (S=1/40)



（土層断面A・D）

①(1)暗褐色（10YR3/4）シルト質ローム　オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト質ローム が20%程の割合で水泡状に入り込む。地山（基本土層6層）の2次的なものか？

(2)①(1)に壁面付近の焼土の小ブロック（1cm程）が混ざり込んでいる。地山（基本土層6層）の2次的なものか？

②黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム　硬質。Aが10%程水泡状に入り込む。炭化粒を全体に含む。

③①とほぼ同質。炭化粒がより多く含まれるためか少し②より黒っぽい色調。

④暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム　Aが10%程水泡状に入り、炭化粒及び白色パミスを全体に含む。

⑤(1)③とほぼ同質だが、炭化粒もより多く含み、なおかつ1cm程の炭化物も多く含む。

(2)⑤(1)にわずかだが焼土ブロック（1cm程）が含まれている。

⑥(1)黒色（10YR2/1）シルト質ローム　硬質。①～⑤層でみられる様なAの水泡状の入り込みはない。炭化粒、炭化物（1cm程）を全体に含み　やや粘性もある。

(2)⑤(1)に底面の暮島・小林軽石の小ブロックが入り込む。

⑦黒色土。炭化物・粒を多量に含む。粘性有り。

（土層断面B・C）

①(1)暗褐色（10YR3/4）シルト質ローム　オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト質ローム（＝A）が20%程の割合で水泡状に入り込む。

(2)①(1)と同質だがAの割合は10%程度。

②暗褐色（10YR3/4）シルト質ローム　壁面の暮島・小林軽石の小ブロックが混じる。

③(1)黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム　硬質。Aが10%程水泡状に入り込む。炭化粒を全体に含む。

(2)①(1)とほぼ同質だが、炭化粒がより多く含まれるためか少し③(1)より黒っぽい。

(3)黒色（10YR2/1）シルト質ローム　硬質。炭化粒を含む。

④(1)暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム　Aが10%程水泡状に入り、炭化粒及び白色パミスを全体に含む。

(2)③(1)より炭化粒がわずかに多い。

⑤(1)黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム　硬質。Aが10%程水泡状に入り込む。炭化粒を全体に含む。

(2)③(1)とほぼ同質。

⑥(1)黒色（10YR2/1）シルト質ローム　硬質。①～⑤層でみられる様なAの水泡状の入り込みはない。炭化物、炭化粒（1cm程）を全体に含み　やや粘性もある。

(2)⑤(1)に底面の暮島・小林軽石の小ブロックが入り込む。

⑦黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム　硬質。Aが10%程水泡状に入り込む。炭化粒を全体に含む。わずかだが焼土ブロック（1cm程）が含まれている。

⑧(1)黒色（10YR2/1）シルト質ローム　硬質。①～⑤層でみられる様なAの水泡状の入り込みはない。炭化物、炭化粒（1cm程）を全体に含み、やや粘性もある。底面の暮島・小林軽石の小ブロックが入り込む。

(2)黒色（10YR2/1）シルト質ローム　硬質。①～⑤層でみられる様なAの水泡状の入り込みはない。炭化物、炭化粒（1cm程）を全体に含み、やや粘性もある。

⑨黒色土。炭化物・粒を多量に含む。粘性有り。

⑩黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム　硬質。Aが10%程水泡状に入り込む。炭化粒を全体に含む。炭化粒もより多く含み、なおかつ1cm程の炭化物も多く含む。

⑪黒褐色（10YR3/2）シルト質ローム　硬質。Aが10%程水泡状に入り込む。炭化粒を全体に含む。炭化粒がより多く含まれるためか、⑩より黒っぽい色調。

⑫⑪とほぼ同質。やや黒色が薄め。

⑬掘りすぎか？地山（基本土層6層）と似ている。

⑭①(1)とほぼ同質。

⑮暗褐色（10YR3/3）シルト質ローム　Aが10%程水泡状に入り込む。炭化粒及び白色パミスを全体に含む。

SC-18

0　2m

第38図　縄文時代早期炉穴実測図⑧（S＝1/40）

第7表　縄文時代早期炉穴観察表

検出状況	No	遺構No		検出面	サイズ（m）					平面形状	焼土の有無	備考
					（長軸）	×	（短軸）	×	（深さ）			
単独で検出された炉穴	1	SC-48		9層	2.5	×	1.1	×	0.8	長楕円形	○	ブリッジが残存している 自然科学分析結果　8240±40年BP
	2	SC-37		8層	2.2	×	1.05	×	0.55	舟形	○	
	3	SC-34		9層	2.15	×	0.95	×	0.4	舟形	○	
	4	SC-15		8層	2.15	×	1.2	×	0.5	舟形	○	
	5	SC-14		9層	1.95	×	1.25	×	0.4	長楕円形	○	SC-13（隣し穴状遺構）と切り合っている
	6	SC-21		9層	1.85	×	0.95	×	0.45	長楕円形	○	SC-25・30と切り合っている
	7	SC-33		8層	1.65	×	0.95	×	0.45	楕円形	○	
	8	SC-47		8層	1.35	×	0.95	×	0.5	楕円形	○	
	9	SC-51		8層	1.25	×	0.85	×	0.4	楕円形	○	
	10	SC-38		8層	2.55	×	1.35	×	0.9	長楕円形	○	SC-43と切り合っている
	11	SC-36		8層	1.6	×	0.95	×	0.35	楕円形	×	焼土はみられないが、形状からみて炉穴の可能性が高い
	12	SC-32		8層	1.9	×	0.9	×	0.4	楕円形	×	焼土はみられないが、形状からみて炉穴の可能性が高い
複数が切り合って検出された炉穴	13	SC-22	①	9層	2.55	×	1.25	×	0.3	長楕円形	×	
	14		②		0.7＋α	×	0.5	×	0.35	長楕円形？	×	
	15		③		1.25＋α	×	0.75	×	0.15	長楕円形	×	
	16	SC-29	①	8層	3.2	×	1.1＋α	×	0.55	長楕円形	×	ブリッジの痕跡あり
	17		②		0.7＋α	×	0.9	×	0.45	楕円形？	×	
	18		③		1.2＋α	×	0.8	×	0.5	長楕円形	×	
	19	SC-60	①	8層	2.45＋α	×	1.1＋α	×	0.6	長楕円形	○	
	20		②		1.55＋α	×	1＋α	×	0.75	楕円形？	○	
	21	SC-41	①	8層	0.35＋α	×	0.25＋α	×	0.4	楕円形？	○	
	22		②		1.8＋α	×	1.75	×	0.5	長楕円形？	○	
	23		③		1.4	×	1.05	×	0.4	楕円形	○	
	24	SC-43	①	8層	1.4＋α	×	0.75	×	0.4	長楕円形？	×	
	25		②		1.1＋α	×	0.75	×	0.3	長楕円形？	×	SI-58と切り合っている
	26		③		2.85＋α	×	1.6＋α	×	0.35～0.2	長楕円形？	×	
	27	SC-16	①	8層	2.35＋α	×	1.7	×	0.6	長楕円形	○	焼土の厚みは約5cm
	28		②		1.15＋α	×	0.75＋α	×	0.7	楕円形？	○	
	29		③		1.5＋α	×	1.05＋α	×	0.6	舟形？	○	
	30		④		1.8＋α	×	0.95＋α	×	0.55	長楕円形	○	焼土の厚みは約5cm
	31	SC-18	①	8層	2.35＋α	×	1.4	×	0.8	舟形	○	
	32		②		1.3＋α	×	1.5	×	0.65	舟形？	○	
	33		③		1.75	×	1.15	×	0.8	舟形？	○	自然科学分析結果　8220±40年BP
	34		④		1.5＋α	×	1.05	×	0.6	舟形？	○	
	35		⑤		1.4＋α	×	1	×	0.4	長楕円形	○	

4. 土 坑

SC-10：8層〔霧島·小林軽石風化層〕で検出された。平面プランはL字を呈しているが、2基の土坑の切り合いであるとは断定できない（土層確認の結果）。長軸が南北方向をむいた部分は、長軸約1.5m・短軸約1mで、掘り込みの端部に深さ約1.1mの深いピットを有する。また、それと直行する長軸が東西方向を向いた部分は、長軸が約1.05mで、掘り込みの端部に深さ約0.8mのピットを有する。埋土は黒褐色砂質ローム土で、霧島·小林軽石層の粒を含んでいる。当台地上では、同様の形態の土坑がアカホヤ火山灰層上面（谷地形）で検出されるケースが多いが、本遺構との関係は不明である。

SC-11：8層〔霧島·小林軽石風化層〕で検出された。検出面からの深さが0.15m程度の掘り込み（平面プランは長楕円形）に、直径約0.7m・深さ約0.8mの竪穴と深さ約0.45mのピットを掘り込んだタイプの土坑である。SC-10と同様の目的で構築されたものと推測されるが詳細は不明である。

SC-7：9層〔霧島·小林軽石層〕で検出された。平面プランは直径約2mの楕円形で、断面形状は検出面からの深さ約約0.15m（最深部）の浅皿状である。埋土は暗灰黄色のシルト質ローム土で、基本土層の6層とよく似ている。検出当初は竪穴式住居跡の可能性もあるのではないかと推測したが、ピット等他の裏づけが確認出来なかったため今回は土坑として記録した。

SC-23：6層で検出された。平面プランは長軸約1.3m・短軸約1.1mの楕円形である。埋土は褐色のシルト質ローム土で、基本土層の6層とよく似ている。炉穴（SC-15）と陥し穴状遺構（SC-17）の間で検出されたが、両遺構との関係は不明で、構築目的など詳細は不明である。

SC-46：8層〔霧島·小林軽石風化層〕で検出された。平面プランは長軸約1m・短軸約0.8mの楕円形で、壁面については底面からほぼ垂直にちかい角度で立ち上がっている（SC-23のほうが緩やか）。埋土は黒褐色のローム土である。尚、構築目的など詳細は不明である。

SC-40：6層で検出された。平面プランは長軸約1.1m・短軸約0.85mの楕円形で、断面形状は検出面からの深さ約0.15m（最深部）の浅皿状である。埋土は黒褐色のローム土である。尚、構築目的など詳細は不明である。

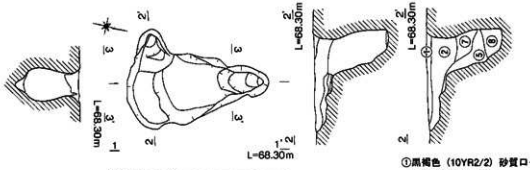
SC-2：9層〔霧島·小林軽石層〕で検出された。平面プランは長軸約1.1m・短軸約0.55mの長楕円形で、壁面については底面からほぼ垂直にちかい角度で立ち上がっている。既に8層以上が削平されていた範囲で検出されているため、遺構の大部分は破壊されているものと推測される。尚、構築目的など詳細は不明である。

SC-3：8層〔霧島·小林軽石風化層〕で検出された。平面プランは直径約0.8mの円形である。底面の1／2ほどは人為的とは思えない段差がみられる（樹根のためか）。尚、構築目的など詳細は不明である。

SC-35：6層で検出された。平面プランは瓢箪のような形をしている。埋土は褐色ローム土で、構築目的など詳細は不明である。

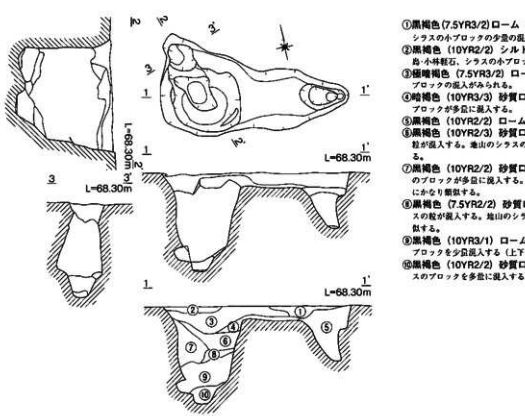
SC-25・30：炉穴（SC-21）と切り合った状態で6層において検出された。検出当初は拡張された炉穴の一部ではないかと推測したが、埋土等からみて炉穴とは関係のない土坑であると判断した。尚、構築目的など詳細は不明である。

SC-31：6層で検出された。平面プランは長軸約2.1m・短軸約1mの長楕円形で、壁面については底面からほぼ垂直にちかい角度で立ち上がっている。尚、構築目的など詳細は不明である。



①黒褐色（10YR2/2）砂質ローム　硬め。しまりは弱い。鹿島・小林軽石の粒を少量含む。
②暗褐色（10YR3/3）砂質ローム　硬め。しまりは弱い。鹿島・小林軽石の粒を少量含む。
③黒褐色（7.5YR2/2）ローム　硬め。しまりは弱め。鹿島・小林軽石の粒を少量含む。
④極暗褐色（7.5YR2/3）砂質ローム　軟らかめ。しまりは弱め。鹿島・小林軽石の粒を少量含む。
⑤黒褐色（10YR2/3）砂質ローム　硬く、しまりは弱い。鹿島・小林軽石の粒を少量、シラスを多く含む。
⑥黒褐色（7.5YR2/2）ローム　硬め。しまりは弱め。シラスのブロックを少量含む。
⑦黒褐色（7.5YR3/1）ローム　硬め。しまりは弱め。
⑧黒褐色（10YR3/2）砂質ローム　硬め。しまりは弱め。シラスブロックの混入をうける。

SC-10

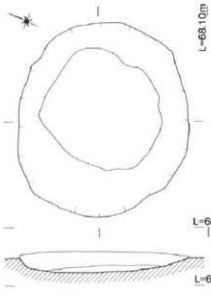


①黒褐色（7.5YR3/2）ローム　硬めで、しまりは強め。鹿島・小林軽石、シラスのブロックの少量の混入がみられる。
②黒褐色（10YR2/2）シルト質ローム　硬く、しまりは強い。鹿島・小林軽石、シラスの小ブロックの少量の混入がみられる。
③極暗褐色（7.5YR3/2）ローム　硬く、しまりは強め。シラスの小ブロックの混入がみられる。
④暗褐色（10YR3/3）砂質ローム　硬く、しまりは強い。シラスのブロックが多量に混入する。
⑤黒褐色（10YR2/2）ローム　軟らかめ。しまりは弱い。
⑥黒褐色（10YR2/3）砂質ローム　硬く、しまりは弱め。シラスの粒が混入する。地山のシラスの影響か？土質がシラスにかなり類似する。
⑦黒褐色（10YR2/2）砂質ローム　硬めで、しまりは弱め。シラスのブロックが多量に混入する。地山のシラスの影響か？土質がシラスにかなり類似する。
⑧黒褐色（7.5YR2/2）砂質ローム　硬めで、しまりは弱め。シラスの粒が混入する。地山のシラスの影響か？土質がシラスにかなり類似する。
⑨黒褐色（10YR3/1）ローム　硬めで、しまりは強め。シラスの小ブロックを少量混入する（上下の方とは少し異質な感を受ける）。
⑩黒褐色（10YR2/2）砂質ローム　軟らかめ。しまりは弱め。シラスのブロックを多量に混入する。

SC-11

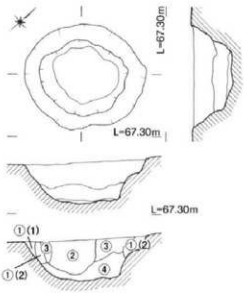
0　2m

第39図　縄文時代早期土坑実測図①（S=1/40）



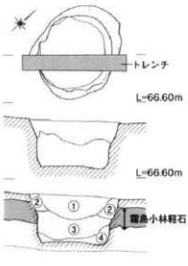
SC-7

①暗灰黄（2.5Y4/2）シルト質ローム　白色パミス，橙色パミスを含み，わずかに炭化粒を含む。基本土層6層の2次的なもの。
②オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト質ローム　①とほぼ同じだがやや明るめ。



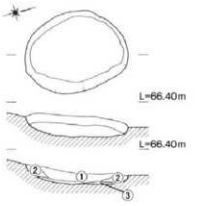
SC-23

①(1)地山（基本土層6層）が崩落したもの。
(2)は(1)に炭化粒が含まれている。
②③とほぼ同質だが，パミスの量が多くそのため③よりも硬い。
③黒褐色（10YR2/2）シルト質ローム　オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質ローム　全体に炭化粒及び白色パミスを含む。
④に霧島小林軽石のブロック（1cm～5cm程）を20%ほど含む。



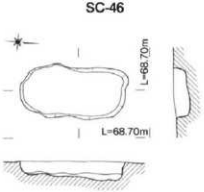
SC-46

①黒色（7.5YR2/1）ローム　硬く，しまりは強い。霧島小林軽石の粒を少量含む。
②黒褐色（10YR2/2）ローム　硬く，しまりは強め。霧島小林軽石の粒を多く含む。
③黒色（10YR2/1）シルト質ローム　硬め。しまりは強め。①層よりも霧島小林軽石の粒を含む。
④黒褐色（10YR2/3）ローム　硬く，しまりは弱め。霧島小林軽石の粒を多く含む。

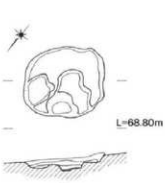


SC-40

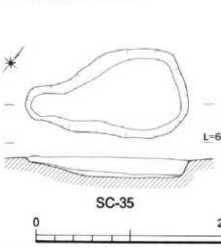
①黒色（10YR2/1）ローム　硬く，しまりは強め。黄褐色土粒，白色パミス（霧島小林軽石）の影響を含む。木の根の侵食を受ける。
②黒褐色（10YR2/3）ローム　硬く，しまりは弱め。黄褐色土粒，白色パミス（霧島小林軽石）の影響を含む。木の根の侵食を受ける。
③暗褐色（10YR3/3）ローム　硬く，しまりは弱め。黄褐色土粒，白色パミス（霧島小林軽石）の影響を含む。



SC-2

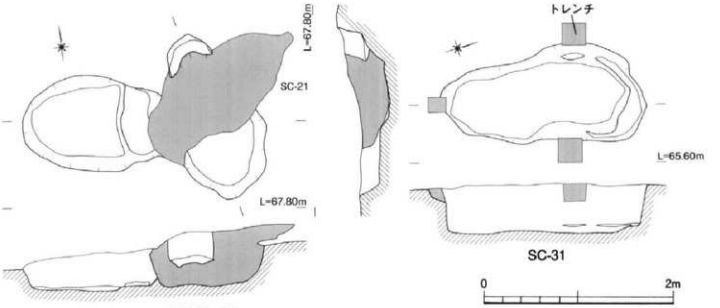


SC-3



SC-35

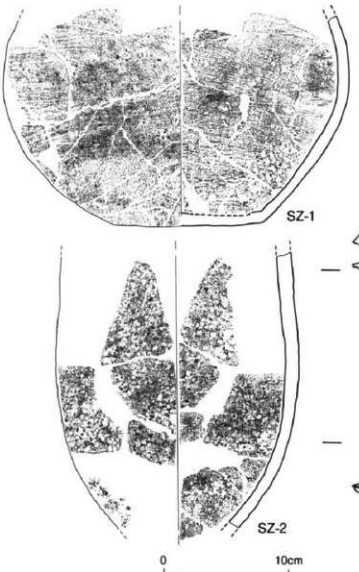
第40図　縄文時代早期土坑実測図②（S=1/40）



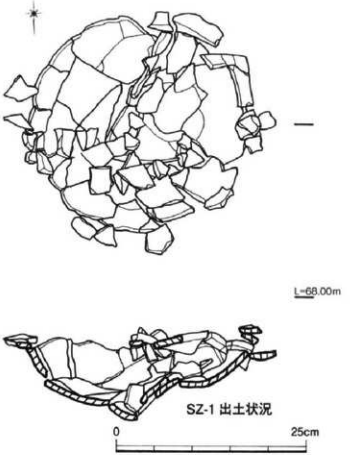
第41図　縄文時代早期土坑実測図③（S＝1/40）

5．埋設土器

6層下位において、埋設土器が2基検出された。本遺跡調査時は埋設土器についての認識が薄く、充分な調査が実施できていないのが実情である。（SZ-1については掘り込み等の調査を行ったが、SZ-2についてはほとんど行えていない）。



第42図　縄文時代早期埋設土器実測図（S＝1/3）



第43図　縄文時代早期埋設土器実測図〈出土状況〉（S＝1/5）

6．遺構内出土遺物

1・2はアカホヤ火山灰層上面の調査で検出された溝状遺構から出土しているが、両者ともにもともとは縄文時代早期の遺物包含層中にあったものと考えられる。1は頁岩製の打製石鏃で石鏃3類に該当する。2はホルンフェルス製の打製石斧である。風化が著しいため、研磨痕は観察できない。

3・4～6・7・14は集石遺構から出土している。3は基部を丸く作り出し、鈍い線頭部を持つところから尖頭状石器と分類した。流紋岩製である。4は頁岩製の石鏃未製品である。3・4については石錐の可能性も考えられる。5は砂岩の円礫を使用した磨石である。6は棒状の砂岩礫を使用した敲石である。7は砂岩の円礫を使用した敲石である。表面・裏面・側面と敲打の痕跡が確認される。14は頁岩製のスクレイパーである。自然面を有する剥片の側縁部に粗い刃部調整を施している。

19・20・33・35・36は炉穴から出土している。19・20・33は砂岩の円礫を使用した磨石である。35・36はSC－60から出土している打製石鏃である。35は頁岩製で石鏃10類、36は桑ノ木津留産黒曜石製で8類に該当する。

37は陥し穴状遺構から出土している桑ノ木津留産黒曜石製の打製石鏃である。石鏃1類に該当する。

39は土坑から出土している打製石鏃チャート製のである。石鏃1類に該当する。

土　器

8～13は集石遺構から出土している。8は塞ノ神式土器の胴部で、横位の沈線文と縦位の撚糸文を施している。9は楕円押型文の口縁部で、上位がやや外反している。文様は外面に楕円（菱形に近い）を、口縁部上位内面に縦位の沈線文を施している。また、外側に斜行するように仕上げられた口唇部には、棒状工具による刻みを施している。10は塞ノ神式土器で、円筒状の胴部にラッパ状に開く口縁部がついている。文様については胴部に横位の沈線文と縦位の撚糸文を施し、口唇部には刻みを施している。11は山形押型文だが、小破片のため詳細は不明である。12は貝殻円筒形土器の胴部および底部（おそらく平底）である。外面には横位や斜位の貝殻条痕文を施し内面はナデ調整を施しているが、内面についてはやや磨耗している。13は外面に貝殻条痕文を施した口縁部である。口唇部はやや丸めに仕上げられているが、小破片のため器形などは不明である（別府原式か）。15～18・21～32・34は炉穴から出土している。15は塞ノ神式土器の胴部から底部で、円筒形を呈しおそらく平底である。外面には横位の沈線文と縦位の撚糸文を施している。16～18は山形押型文土器である。16はほぼ直に立ち上がる円筒形で、口唇部は平らに仕上げられている。文様は外面に横位の山形押型文を施し、内面は丁寧なナデ調整を施している。21～23・26・28～30は山形押型文土器で、21・29・30が口縁部で22・23・26・28が胴部である。21はやや外反しており、文様は外面に斜位の山形押型文を、内面上位には横位の山形押型文を施している。また、外側に斜行するように仕上げられた口唇部にも山形押型文が施されている。29は外面に斜位の山形押型文を、そして内側に斜行するように仕上げられた口唇部にも山形押型文を施している。30は口縁部上位が外反しており、外面に縦位の山形押型文を施している。また、内側に斜行するように仕上げられた口唇部には棒状工具による刺突文を施し、口縁部上位には穿孔も施されている。24・25・27・28・31は楕円押型文の胴部である。いずれも小破片のため器形など詳細については不明である。32は外面に貝殻条痕文を施した口縁部から胴部である。おそらく円筒形を呈し、口唇部はやや外側に斜行するように仕上げられている。34は外面に沈線文を施している。部位については断定しづらいが底部付近の胴部か口縁部あたりで、文様からすると塞ノ神式土器である可能性が高いと思われる。38は土坑から出土している。楕円押型文の口縁部で、外面に加えて内面に斜行するように仕上げられた口唇部内面にも楕円押型文を施している。また、口縁部上位には穿孔も施している。

全体の傾向としては押型文土器の出土が目立ち、なかでも炉穴からの出土土器はほとんどが押型文土器である。この炉穴と押型文土器のセット関係については近隣の坂元第1遺跡（『清武町埋蔵文化財調査報告書第15集　坂元遺跡』参照）でも確認されているが、燻製料理施設ではないかと推測する炉穴と押型文土器がなんらかの関係をもつのか、それとも単なる流れ込みの一傾向なのか、現在のところは不明である。

第8表　縄文時代早期遺構内出土遺物一覧

遺構の種類	遺構No	出土遺物 ※（ ）内は出土点数	遺物No	備考
溝	SE- 8	頁岩石鏃(1)	1	
	SE-10	流紋岩剥片(1)・桑ノ木津留ob砕片(1)・ホルンフェルス石斧(1)	2	
	SE-20	近世陶磁杯　底部～胴部(1)		
集石遺構	SI-18	頁岩剥片(1)・流紋岩尖頭状石器(1)	3	
	SI-21	砂岩剥片(1)・頁岩剥片(1)・桑ノ木津留ob石核(1)		
	SI-31	緑色堆積岩剥片(1)		
	SI-39	頁岩石鏃未製品(1)	4	
	SI-40	チャート剥片(1)		
	SI-42	桑ノ木津留ob石核(1)		
	SI-44	砂岩磨石(1)	5	
	SI-50	砂岩剥片(1)		
	SI-52	砂岩敲石(1)	6	
	SI-56	砂岩剥片(1)		
	SI-57	砂岩敲石(1)	7	
	SI-58	塞ノ神式土器(1)	8	
	SI-61	2次加工有る剥片(1)・砂岩剥片(2)・玉髄剥片(1)		
	SI-62	押型文土器(1)	9	
		尾鈴山酸性岩磨石(1)		
	SI-63	塞ノ神式土器(1)	10	
	SI-66	凝灰岩石皿(1)		
	SI-74	押型文土器(1)	11	
	SI-78	砂岩剥片(1)		
	SI-86	貝殻円筒系土器(1)	12	
	SI-87	緑色堆積岩剥片(1)		
	SI-88	貝殻円筒系土器(1)	13	
		桑ノ木津留ob砕片(6)剥片(3)石核(2)・チャート剥片(2)・西北九州ob剥片(2)砕片(1)・頁岩剥片(1)・流紋岩剥片(2)・砂岩剥片(1)・尾鈴山酸性岩砕片(1)・チャート原礫(1)・砂岩スクレイパー(1)	14	
炉穴	SC-16	塞ノ神式土器(1)・押型文土器(3)	15～18	
		玉髄剥片(1)・西北九州ob剥片(1)・サヌカイト剥片(1)・砂岩磨石(2)	19・20	
	SC-18	押型文土器(4)	21～24	
	SC-36	押型文土器(1)	25	
	SC-37	押型文土器(3)	26～28	
	SC-38	押型文土器(3)	29～31	
		チャート剥片(1)		
	SC-41	桑ノ木津留ob石核(1)		
	SC-48	貝殻円筒系土器(1)	32	
	SC-51	チャート剥片(1)・砂岩磨石(1)	33	
	SC-60	塞ノ神式土器(1)	34	
		頁岩剥片(2)・砂岩剥片(1)・桑ノ木津留ob石鏃(1)・頁岩石鏃(1)	35・36	
陥し穴状遺構	SC-17	桑ノ木津留ob石鏃(1)	37	
土坑	SC-25	押型文土器(1)	38	
	SC-35	チャート石鏃(1)	39	

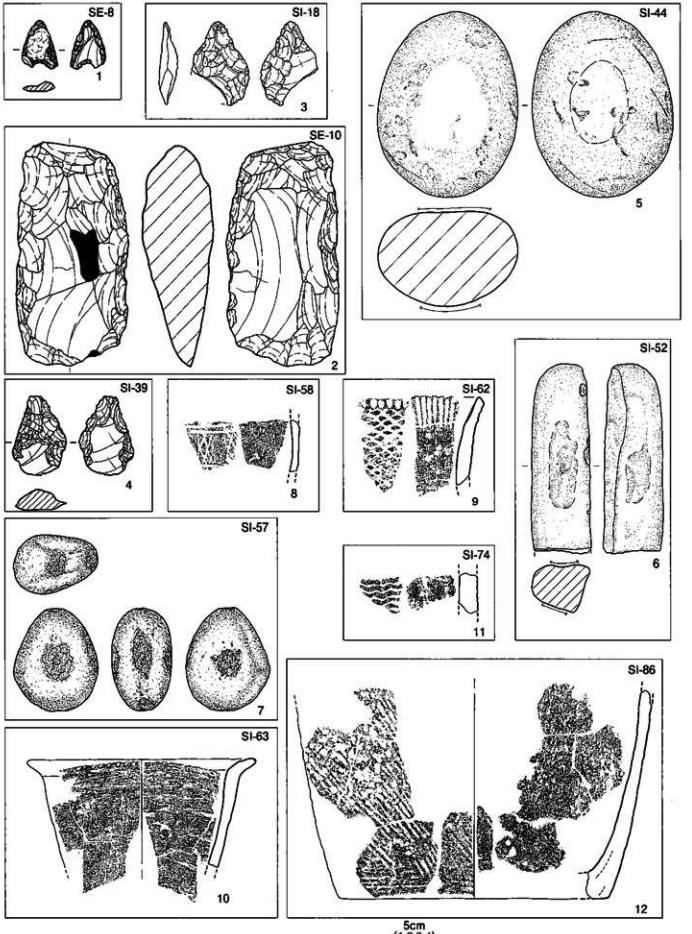
第9表　縄文時代早期遺構内出土土器観察表

遺構の種類	遺構No	遺物No	器形	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 長石石英	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 角閃石輝石	胎土 砂粒	備考
集石遺構	SI-58	8	深鉢	胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/1 (褐灰)	7.5YR4/1 (褐灰)	○				○2mm以下	
	SI-62	9	深鉢	口縁	楕円押型文	沈線文 ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR4/1 (褐灰)	○				○2mm以下	口唇部に刻み
	SI-63	10	深鉢	口縁～胴部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	○				○7mm以下	口唇部に刻み　口縁強17.6cm
	SI-74	11	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 (にぶい褐)	5YR4/1 (褐灰)		○			○2mm以下	
	SI-86	12	深鉢	胴部～底部	貝殻条痕文 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 (にぶい褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○			○	○3mm以下	底部強20.8cm
	SI-88	13	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR6/3 (にぶい黄橙)	10YR6/3 (にぶい黄橙)	○				○2mm以下	
炉穴	SC-16	15	深鉢	胴部～底部	撚糸文 沈線文	ナデ	7.5YR6/4 (にぶい橙)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	○			○	○2mm以下	
		16	深鉢	口縁	山形押型文	ナデ	10YR4/2 (灰黄褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	○				○7mm以下	口縁強23cm
		17	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR5/4 (にぶい赤褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	○			○	○5mm以下	
		18	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR5/4 (にぶい赤褐)	10YR5/2 (灰黄褐)	○				○2mm以下	
	SC-18	21	深鉢	口縁	山形押型文	山形押型文 ナデ	10YR4/2 (灰黄褐)	10YR5/2 (灰黄褐)	○				○6mm以下	口唇部に山形押型文
		22	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 (にぶい黄橙)	7.5YR4/2 (灰褐)	○				○5mm以下	
		23	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 (にぶい黄褐)	7.5YR4/2 (灰褐)	○				○7mm以下	
		24	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	7.5YR4/2 (灰褐)		○			○5mm以下	
	SC-36	25	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR4/1 (褐灰)		○			○2mm以下	
	SC-37	26	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/2 (灰褐)	10YR4/1 (褐灰)	○	○			○2mm以下	
		27	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR4/3 (褐)	2.5YR4/2 (灰赤)	○				○4mm以下	
		28	深鉢	胴部	山形押型文	ミガキ	7.5YR5/3 (にぶい褐)	7.5YR3/1 (黒褐)		○			○3mm以下	
	SC-38	29	深鉢	口縁	山形押型文	山形押型文 ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR4/2 (灰褐)		○			○3mm以下	口唇部に山形押型文
		30	深鉢	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR4/1 (褐灰)		○			○2mm以下	穿孔有り　口唇部に刺突文
		31	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR4/2 (灰黄褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)		○			○5mm以下	
	SC-48	32	鉢	口縁～胴部	条痕文	ミガキ	10YR6/3 (にぶい黄橙)	10YR4/1 (褐灰)	○				○2mm以下	
	SC-60	34	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 (にぶい褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○				○3mm以下	
土坑	SC-25	38	深鉢	口縁	楕円押型文	楕円押型文 ナデ	5YR5/4 (にぶい赤褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○				○3mm以下	穿孔有り

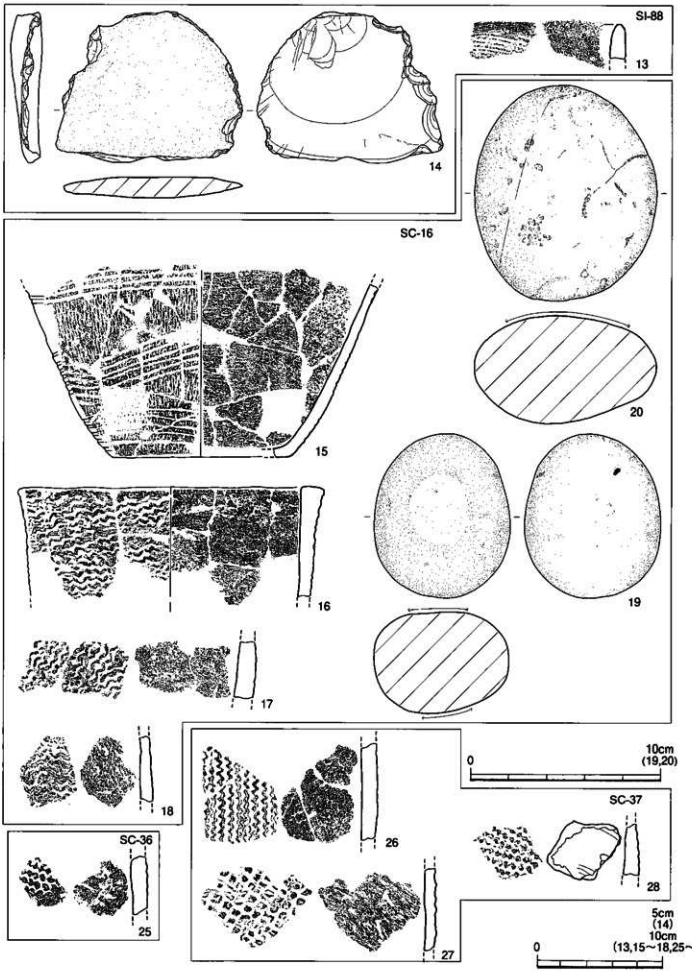
第10表　縄文時代早期遺構内出土石器計測分類表

遺構の種類	遺構No.	遺物No.	整理No.	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
溝	SE- 8	1	50	打製石鏃	頁岩	1.9	1.4	0.4	0.7	
溝	SE-10	2	743	打製石斧	ホルンフェルス	8.8	4.5	2.8	136.0	
集石遺構	SI-18	3	170	尖頭状石器	流紋岩	(3.2)	(2.3)	0.75	(3.7)	左側縁基部欠損
	SI-39	4	745	打製石鏃未製品	頁岩	3.1	2.2	0.9	4.4	
	SI-44	5	225	扁石	砂岩	9.7	7.4	4.9	454.0	
	SI-52	6	210	敲石	砂岩	(10.0)	(3.2)	2.5	(126.9)	下部欠損
	SI-57	7	746	敲石	砂岩	5.4	4.4	3.1	93.4	
	SI-88	14	209	スクレイパー	頁岩	5.9	7.4	12.5	57.4	
炉穴	SC-16	19	226	扁石	砂岩	8.6	7.2	5.3	432.0	
	SC-16	20	227	扁石	砂岩	11.1	9.6	5.6	742.0	
	SC-51	33	224	扁石	砂岩	9.1	7.9	5.6	459.0	
	SC-60	35	742	打製石鏃	頁岩	2.0	1.4	0.5	1.0	
	SC-60	36	741	打製石鏃	桑ノ木津留産黒曜石	2.1	1.8	0.35	0.8	
陥し穴	SC-17	37	744	打製石鏃	桑ノ木津留産黒曜石	(1.1)	(1.3)	0.3	0.3	脚部を欠損
土坑	SC-35	39	168	打製石鏃	チャート	(1.3)	(1.3)	0.3	(0.4)	先端・基部欠損

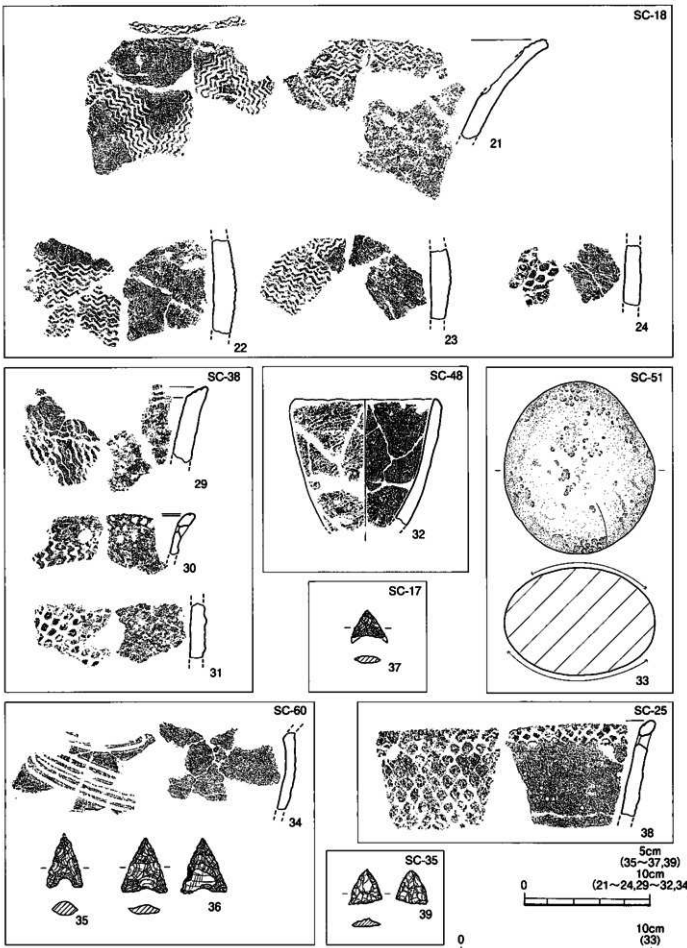
（　）の値は残存値を示す



第44図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図①（土器：S=1/3・石器：S=1/2・2/3）



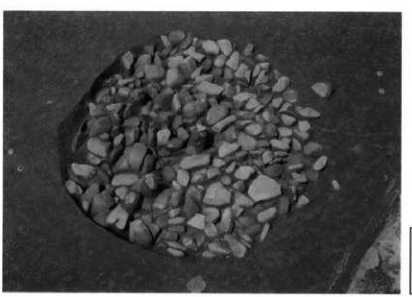
第45図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図②（土器：S=1/3・石器：S=1/2・2/3）



第46図　縄文時代早期遺構内出土遺物実測図③（土器：S=1/3・石器：S=1/2・2/3）

SI-32・37
〈SI-37：9896±40年BP
SI-32：9430±40年BP〉
北東より

SI-16
〈9700±40〉
南より



SI-31①
〈9600±40年BP〉
南東より

写真図版11　縄文時代早期遺構①

SI-31② 南より

SI-23②
〈9600±40年BP〉
西より

SI-23② 西より

写真図版12 縄文時代早期遺構②

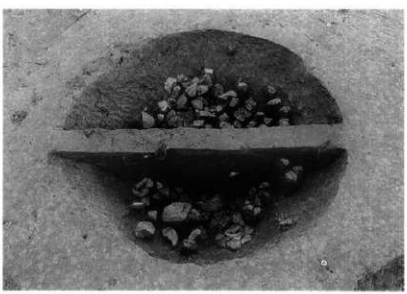
SI-25
〈8360±40年BP〉
南より

SI-86
〈8310±40年BP〉
南より

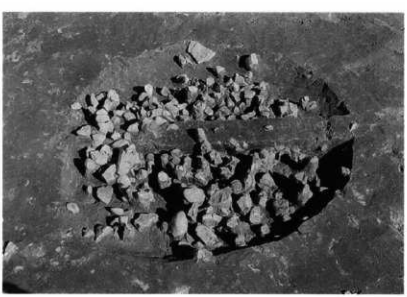
SI-22
〈8280±40年BP〉
西より

写真図版13　縄文時代早期遺構③

SI-59
〈8230±40年BP〉
南より



SI-86
〈8220±40年BP〉
北より



SI-22
〈7650±40年BP〉
西より

写真図版14　縄文時代早期遺構④

SI-18　北より

SI-34　西より

SI-33　西より

写真図版15　縄文時代早期遺構⑤

SI-43・44・50・51・52　南より

SI-36　南より

SI-39　東より

写真図版16　縄文時代早期遺構⑥

SC-48
〈8240±40年BP〉
東より

SC-15　南より

SC-37　東より

写真図版17　縄文時代早期遺構(7)

SC-29　南より

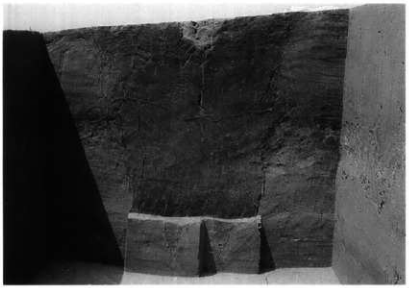
SC-41　南東より

SC-16　南より

写真図版18　縄文時代早期遺構⑧

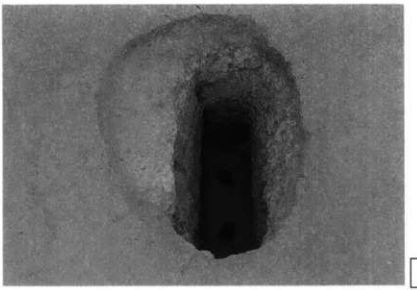
SC-18　南より

SC-8
〈9690±40年BP〉
南より



SC-24（埋土堆積状況）
南西より

写真図版19　縄文時代早期遺構⑨



SC-19① 西より

SC-19② 南より

SC-10 西より

写真図版20 縄文時代早期遺構⑩

SZ-1

SZ-2

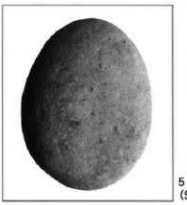
写真図版21　縄文時代早期遺構内出土遺物①

1
(SE-8)

2
(SE-10)

3
(SI-18)

4
(SI-39)


5
(SI-44)

9
(SI-62)

11
(SI-74)

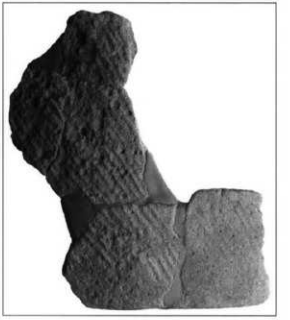
13
(SI-88)

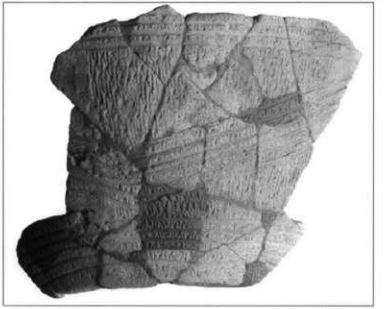
8
(SI-58)

6
(SI-52)

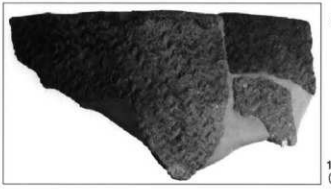
14
(SI-88)

7
(SI-57)


12
(SI-86)


15
(SC-16)

10
(SI-63)


16
(SC-16)

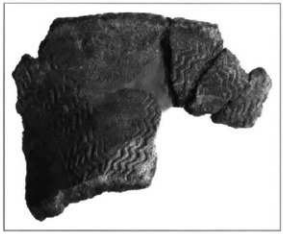
17
(SC-16)

写真図版22　縄文時代早期遺構内出土遺物②

19
(SC-16)

18
(SC-16)

20
(SC-16)


21
(SC-18)

22
(SC-18)

26
(SC-37)

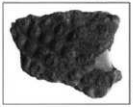
23
(SC-18)

29
(SC-38)

24
(SC-18)

27
(SC-37)

33
(SC-51)


31
(SC-38)

25
(SC-36)

32
(SC-48)

34
(SC-60)

28
(SC-37)

38
(SC-25)

30
(SC-38)

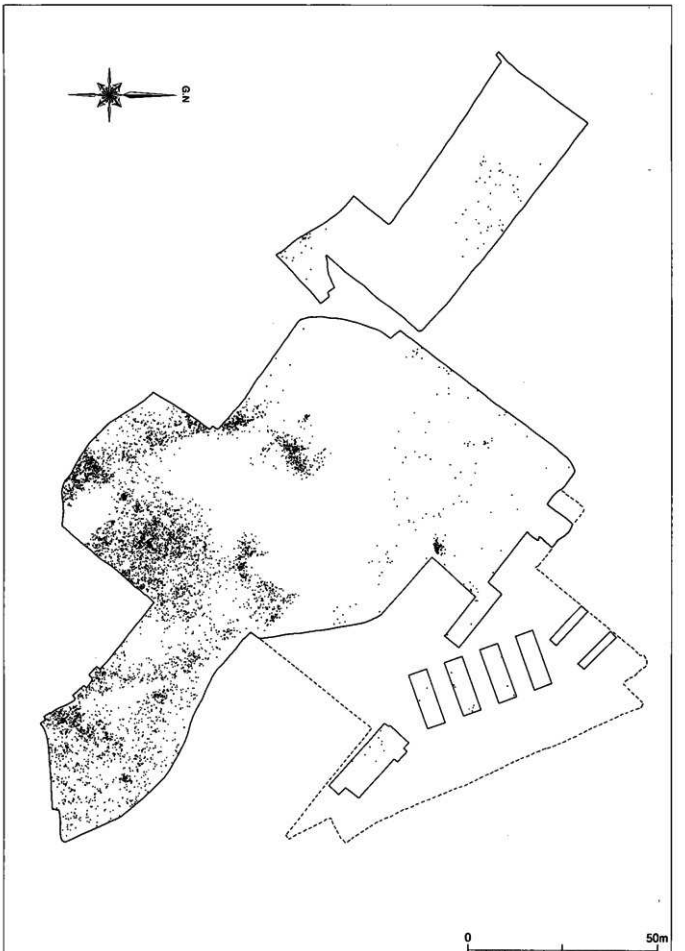
35
(SC-60)

36
(SC-60)

37
(SC-17)

39
(SC-35)

写真図版23　縄文時代早期遺構内出土遺物③



第47図　縄文時代早期遺物分布図（S＝1/1000）

第2節　遺　物

本遺跡では、縄文時代早期の遺物包含層である５・６層おいて、約13,000点の土器や石器が出土した。

1．土　器

貝殻文系土器

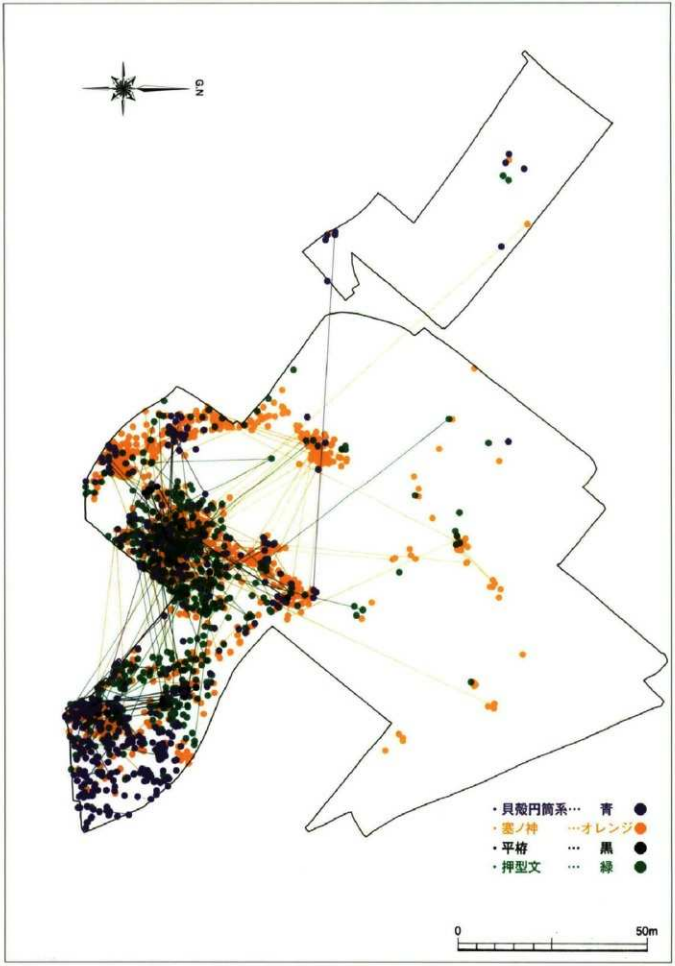
貝殻円筒形の土器は計343点出土し、そのうち59点を今回資料化している。

1は水迫式土器である。円筒形を呈しており、底部付近は見つかっていない。やや肥厚させた口縁部の外面には貝殻復縁刺突文を施し、また、口唇部には棒状工具による刺突文を施している。胴部については内外面ともに貝殻条痕文を施した後にナデ調整を施している。2・3は岩本式土器の口縁部片である。やや肥厚させた口縁部外面には貝殻復縁刺突文を施している。また、口唇部については、1とは異なり内側に斜行した形状で仕上げられ、その外面には棒状工具による刻みを施している。尚、内外面ともに貝殻条痕文を施しているが、3はその後ナデ調整を行っている。4～9は外面に貝殻条痕文を施した胴部片である。内面についてはナデ調整を施しているが、かなり磨耗も激しく詳細は把握しにくい状態である。10はわずかに肥厚させた外面に貝殻条痕文を施した口縁部片である。口唇部については平らに仕上げられ、その外面には棒状工具による刻みを施している。また、内面はナデを施しており、器形については不明である。11～14は貝殻刺突文の上に楔形突起文を貼り付けた一群である。11・12は口縁部片で、その外面には横位の貝殻刺突文を、そしてその下位には縦位の貝殻刺突文を施した後楔形突起文を貼り付けている。また、口唇部については平らに仕上げられており、内面についてはいずれもナデ調整を施している。15～36は外面に貝殻条痕文を施し、口唇部から口縁部内面にかけてミガキ調整を施した口縁部片である。口縁部がやや外反するもの（15・16・19など）やほとんど外反しないもの（21・22など）いずれもみられ、外面の施文についても横位のもの斜位のものどちらも確認できる。また、口唇部の形状についてもやや丸めに仕上げているものや平らに仕上げているものなど様々である。尚、25には穿孔が施され、28には指押さえの痕跡も確認できる。37～39・41・43・45・47・49～51は外面に貝殻条痕文を施した胴部片である。内面はいずれもナデ調整を施しており、器形については不明である。40・42・44・48は外面に貝殻条痕文を施し、内面はナデ調整を施している胴部片である。胎土からみて、15～36の口縁部と同様の土器群である可能性が高いと推測される。46は外面に貝殻条痕文を施した口縁部片である。口縁部上位には貝殻押引文を施し、口唇部はやや丸めに仕上げてある。また、内面についてはナデ調整を施し、器形については不明である。52・53は口縁部上位外面に押引文状の貝殻刺突文を施した口縁部片である。施文範囲は口唇部から2.5cm幅で、それより下位においてはいずれもナデ調整を施している。また、内面についてはいずれもナデ調整を施している。54は口縁部外面に沈線文を施した口縁部片である。口唇部は外側に斜行する形状で仕上げられ、そこに刻みを施している。55・56は平底の底部である。いずれも外面については剥離が著しく、内面についてはナデ調整を施している。どのような土器群の底部であるか判断に迷ったが、胎土からみて貝殻文系の底部である可能性が高いと考え、今回ここで紹介している。57～59は外面に貝殻刺突文を施した胴部片である。内面についてはいずれもナデ調整を施しており、また、器形については不明である。

押型文土器

押型文土器は計641点出土しており、そのうち102点を今回資料化している。

60～75は山形押型文を施した口縁部である。60は円筒形を呈し、横位の山形押型文を施している。また、口唇部は平らに仕上げられ、その上面は丁寧なナデ調整を行っている。63・66は60とほぼ同じ特徴をもつ口縁部片であるが、器形については小破片のため不明である。61・62・67・68・72は口縁部内面を内側に斜行する形状で仕上げ、そこに横位の山形押型文を施している。内面の施文範囲がやや外反しているのは、施文時に力が加わったためであろう。71・75については、口縁部上位内面に同様の施文を施したと思われるが、磨耗が激しくやや分かりにくい。また、64・65・69についても、同様の特徴を持つが、加えて口唇部上面に棒状工具による刺突文を施している。70は外面に縦斜位の山形押型文を施し、内面はやや磨耗しているもののナデ調整を行っている。口唇部については、やや丸めに仕上げ、その内面に棒状工具による刺突文を施している。74・75については、内外面ともにやや磨耗しており、文様が見えにくい状態になっている。また、口唇部についてはやや丸めに仕上げられている。76～101は外面に山形押型文を施した胴部片である。器形などの詳細は不明だが、表面の色調や胎土から幾つかのグループ分けが出来そうである。まず、外面が赤褐色系のものは76・77・83・85・89・90で、褐色系のものが78～82・84・86～88・91・96、また、黄色系のものが92・97～99で、橙色系のものが93である。なお、94・95・100・101については炭面が灰褐色で、101には穿孔が施されている。102～104は外面に山形押型文を施した底部である。いずれも小破片のため詳細は把握しにくいがおそらく平底であろう。また、外面の施



第48図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図〔形式別〕(S=1/1000)

文については102・103が縦位で104が横位、内面はいずれもナデ調整を施している。**105～127**は外面に楕円押型文を施した口縁部である。105～107・115・122～124・126は口縁部上位内面に楕円押型文を施した一群で、105～107・126は口縁部上位でやや外反している。122はやや丸めに仕上げた口唇部に、先が尖った棒状工具を使って刺突文を施している。また、105については、口縁部に穿孔が施されている。108～113は口縁部上位内面に横位の山形押型文を施した一群で、108はその施文範囲で外反している。116～120・125・127は口縁部上位内面に棒状工具による縦位の沈線文を施した土器群である。やや外反気味なものもみられるが、いずれも小破片のため器形は不明である。114・121については、内外面ともに剥離がみられ文様などが見えにくいが、114については口縁部上位が内側に斜行する形状に仕上げられていることから、その斜部になんらかの文様が施されていたものと推測される。**128～161**は外面に楕円押型文を施した胴部である。なかでも128・142・144・145・159については、内面に横位の山形押型文や棒状工具による縦位の沈線文が施してあることから、口縁部付近の部位ではないかと思われる。また、131については、その厚みからみて底部にちかい部位であることが想像できる。

残りの土器片については器形など詳細が不明だが、130・138・139など外面が赤褐色系のものや147・148など外面が黄橙色系のもの、また、楕円がかなり菱形にちかい149・154など幾つかのグループ分けが可能である。

平柿式土器

平柿式土器は１０点全てを資料化している。

162・163・166・167は口縁部である。162・163については、口縁部外面に断面三角形の肥厚帯をめぐらし、その部分をやや内湾させ、よりいっそう肥厚帯を際立たせる形状に仕上げている。その肥厚帯には棒状工具を使った沈線文を施し、そしてその沈線文の脇や肥厚帯頂点の稜線などには棒状工具を使って刺突した連点文を加えている。また、口縁部から胴部にかけてはいずれも棒状工具を使った沈線文が施されているが、口縁部上位の肥厚帯のものと比べるとやや太めの工具によって施文が行われている。166・167についても162・163とほぼ同様の特徴を持っているが、肥厚帯の施文が連点文のみで構成されている。**164・165**は胴部である。いずれもやや張り気味の形状を呈しており、外面には燃糸文や沈線文、そして連点文を巧みに組み合わせた幾何学的な文様を施している。**168～172**は胴部の小破片である。164・165同様の文様を外面に施しているが、器形など詳細は不明である。

塞ノ神式土器

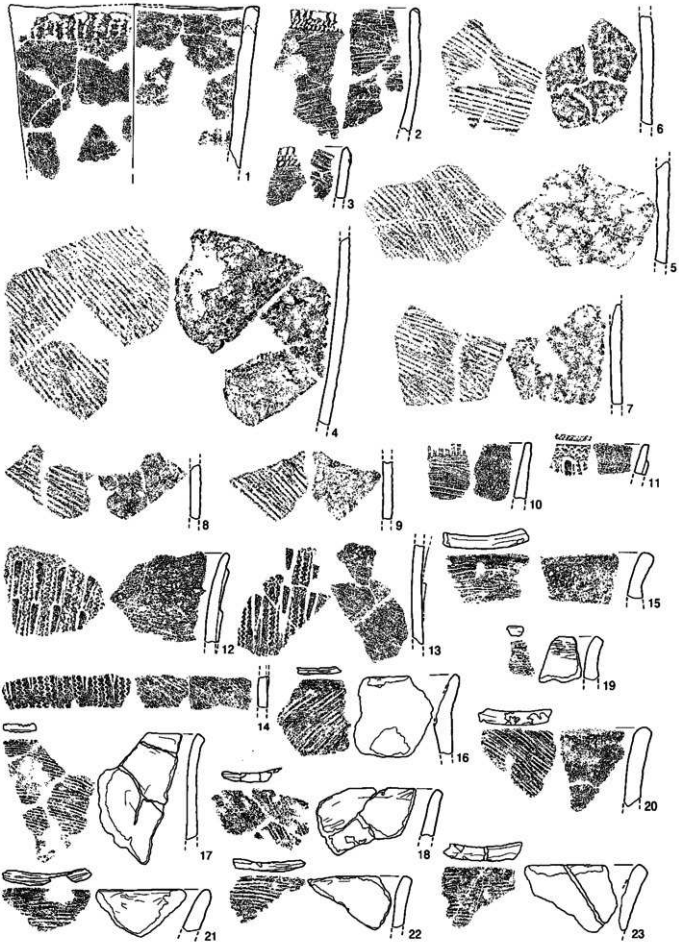
塞ノ神式土器は計１，２６１点出土しており、そのうち２３９点を今回資料化している。

173～202は燃糸文系塞ノ神式土器の口縁部である。なかでも173～175は胴部まで残存しており、器形は円筒状の胴部にラッパ状に開いた口縁部がつくものである。176～202についても、残存部分は小さいもののおそらく同様の器形であろう。口縁部については、平口縁のほかに波状口縁のものもあり（174～176・180・184）、その口唇部には細い棒状工具を使った刻みを施している。189・190については、口唇部に刻みに加え沈線文を施しており、185については口唇部が磨耗しているため詳細は不明である（おそらく刻みは施してあったのでは）。

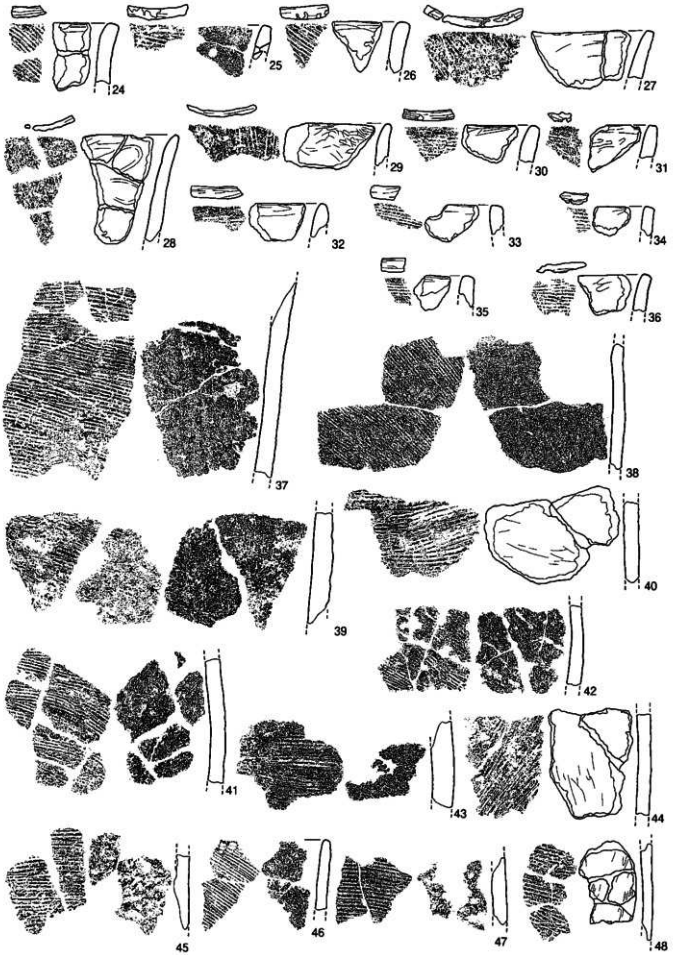
また、文様については、ラッパ状に開いた口縁部には沈線文を施すものと施していないものいずれもあるものの、ほとんどの土器片の頸部には２～３条の沈線文が施されており、まるでその下位に施されている燃糸文と口縁部との境界を示すような施文となっている。**203～219**は燃糸文系塞ノ神式土器の頸部である。円筒状の胴部とラッパ状に開く口縁部との接合点でもあり、内面には明瞭な稜線が確認できる。また、文様については、外面は先述のとおり横位の沈線文を施しており（その下には燃糸文が）、内面についてはいずれもナデ調整を施している。**220～292**は燃糸文系塞ノ神式土器の胴部である。器形は284・285からも分かるようにいずれも円筒形を呈するものと思われる（小破片のためやや断定しにくいもののあるが）。文様については外面に燃糸文を縦位に施した後、数条の横位の沈線文を施している。226・235・237・243・244・247・257・267・273・287については、いずれも燃糸文のみ施文であるが、これは小破片のため沈線文が施された範囲が残存していないためであろう。283については今回頸部付近の胴部として記録したが、内面に明瞭な稜線がみられないことや文様の特徴からみて壷の一部である可能性も否めない。また、276については一部頸部も残存している。**293・294**は燃糸文を施すタイプのものであるが、当台地上で多く出土する173～292と比較すると少しつくりが異なる。器形や文様などはほぼ同じだが、頸部にまるで溝のような段を沈線文に加えて作り出している。これはラッパ状に開く口縁部と円筒形の胴部をより明瞭に分けるためなのかもしれないが詳細については不明である。尚、**295・296**については293・294と同タイプの口縁部と頸部である。**297～306**は燃糸文系塞ノ神式土器の底部である。いずれも残存状態は良好でないがおそらく平底であろう。文様については、胴部下位外面すなわち底部にかかるところまで縦位の燃糸文と横位の沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている。**307・308**については、燃糸文系塞ノ神式土器の口縁部と頸部であ

る。胴部の器形については不明だが（おそらく円筒形）、頸部から口縁部にかけてはラッパ状に開いている。文様については、173～202・293・294とほぼ同様であると推測されるが、口縁部に施した沈線文が他と比較すると幾何学的であるという点が特徴として挙げられる。また、いずれの口唇部ももやや丸めに仕上げられ、そこに棒状工具による刻みを施している。**309～315**は、沈線文で作られた区画のなかに撚糸文を施した一群である。309は器形がやや張り気味の円筒形で、そこにラッパ状に開く口縁部がついている。口縁部は上位でやや内湾しており、丸めに仕上げられた口唇部には斜位の刻みを施している。310～315は胴部で、外面には同様の文様を施し、内面はいずれもナデ調整を施している。また、314には穿孔を施している。

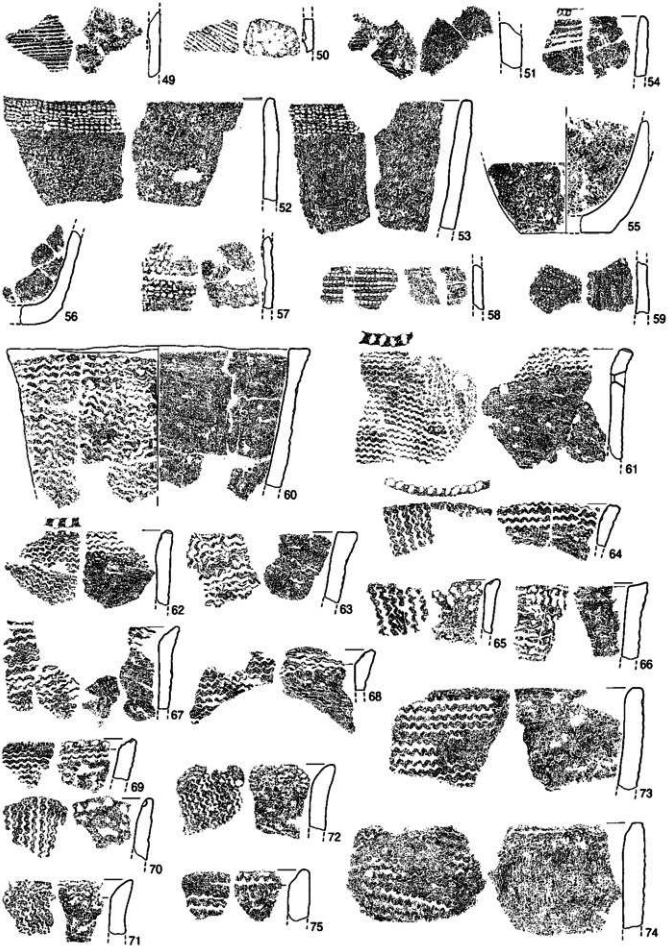
316・317・319・321・325～328・330～334・336～339・341は、頸部内面に明瞭な稜線がみられる口縁部である。330～334・336については頸部外面に沈線文を施しており、その形状や文様からみて胴部にはおそらく沈線文と撚糸文が施されていたものと思われる。337～339・341は口縁部外面に沈線文を施しており、316・317・319・321・325～328は口縁部外面および頸部外面は無文である。また、316・319・321・325・326・328・330～333・338・339・341については、口唇部に刻みを施している。**318・320・322～324・329・335・340・342～362**は、頸部内面には明瞭な稜線はみられないものの、その形状からみて円筒形の胴部にラッパ状につく口縁部である。329・335は口縁部下位（頸部付近か）外面に沈線文を施している。これらについては頸部内面に明瞭な稜線は確認できないものの、330～334・336同様に胴部には撚糸文を施していたものと思われる。318・320・322～324は口縁部内外面ともに無文である。また、340・342～362については、口縁部外面に沈線文を施している。特に355・357・358・360などには、直線的な沈線文に加え弧状や波状の沈線文を施しており、装飾的な色合いの強い施文となっている。なお、これら全ての土器片の口唇部には刻みを施している（320・344はやや不明瞭）。**363～371**は頸部および胴部である。いずれも頸部内面に明瞭な稜線がみられ、また、その外面には沈線文を施している。なかでも369については、頸部外面に横位の沈線文を施し、その下位には弧状の沈線文を施している。その文様はまるで波をイメージされるかのようなもので、線刻画ともいえそうである（破片のため断定はできないが）。なお、内外面には赤色顔料を塗っていた痕跡もみられるため、祭祀にかかわる特別な土器だったのかもしれない。**372～377**は沈線文を施した胴部である（372と374は口縁部の可能性もあり）。いずれも小破片のため器形は不明だが、373は円筒形を呈すると思われる。**378～382**は頸部および胴部に沈線文を施した一群である。378は円筒形の胴部とそこからラッパ状に開く頸部で、胴部はややはり気味である。文様については、頸部に横位の沈線文を施し、胴部に斜位(山形を形成)と横位の沈線文を施している。379～381はその器形や文様からみて378とほぼ同様の特徴をもつ土器片であろう（同一個体の可能性もあり）。382については文様の形成がやや異なるが、やはり胴部および頸部に沈線文を施している。383は丸みをおびてやや張った胴部にラッパ状の口縁部がついた小型の鉢である。胴部には横位の沈線文に加え円状（弧状）の沈線文を施しており、かなり磨耗した口唇部には刻みを施している。**385**は円筒形の胴部から口縁部が外反し、底部は平底の小型の鉢である。内外面ともに無文（ナデ調整のみ）だが、指押さえの痕跡がみられる。383・385についてはいずれも通常の土器と比較すると小型であるためミニチュア土器といえなくもないが、モデルとなる土器が不明瞭なことや法量の点からみて断定はしづらい感がある。**384**は外面に沈線文を施した胴部で、底部付近まで残存している。器形や文様からみておそらく378～382と似た特徴を持つものであろう。**386～411**は壺の一部である。391・392・394～397は無文の口縁部で、口唇部付近でやや外反するように仕上げられている。396・397については今回壺の口縁部と判断したが、赤色顔料が確認されていることやその形状からみて、輪状耳栓である可能性も考えられる。386～390・398～400は沈線文を施した一群で、386～390は口縁部で398～400は胴部（口縁部付近であろう）である。口縁部については口唇部付近でやや外反するように仕上げられ、そこに横位の沈線文を施している。393は外面がやや磨耗しているものの、外面に微隆帯を巡らした口縁部である。口唇部付近でやや外反するように仕上げられているが、小破片のため器形は不明である。401～411は外面に微隆帯を巡らした胴部（口縁部付近）である。すべての土器片の微隆帯には刻みが施してあるが、403・404などは磨耗してやや把握しにくい状態である。**412**は不明の土製品である。内外面ともに赤色顔料が塗られ、なんらかの祭祀的な道具の一部なのかもしれない。いずれにせよ小破片のため用途や器形については断定できない。



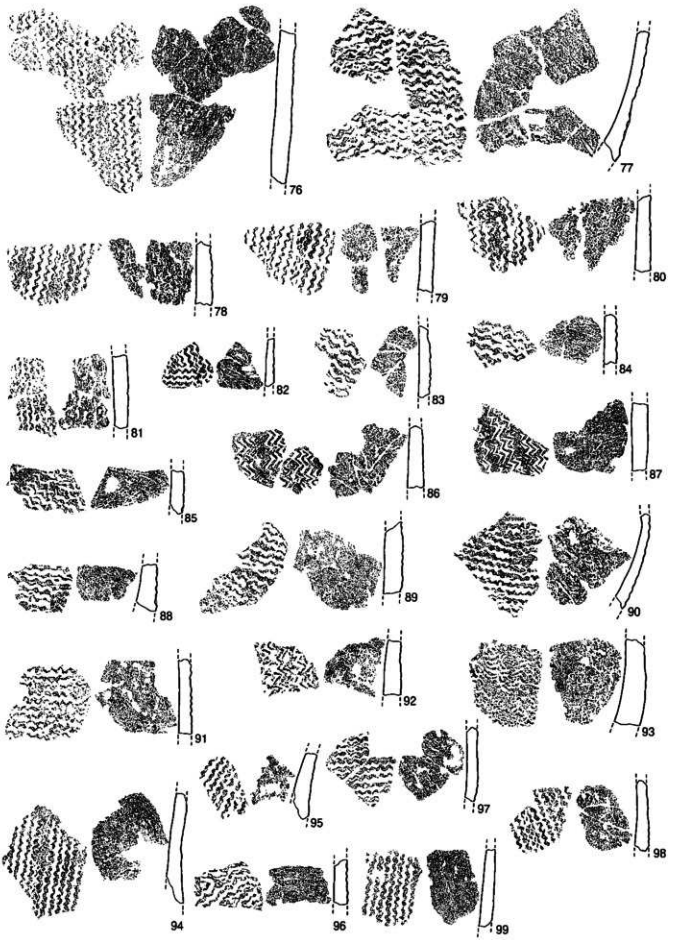
第49図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S＝1/3）



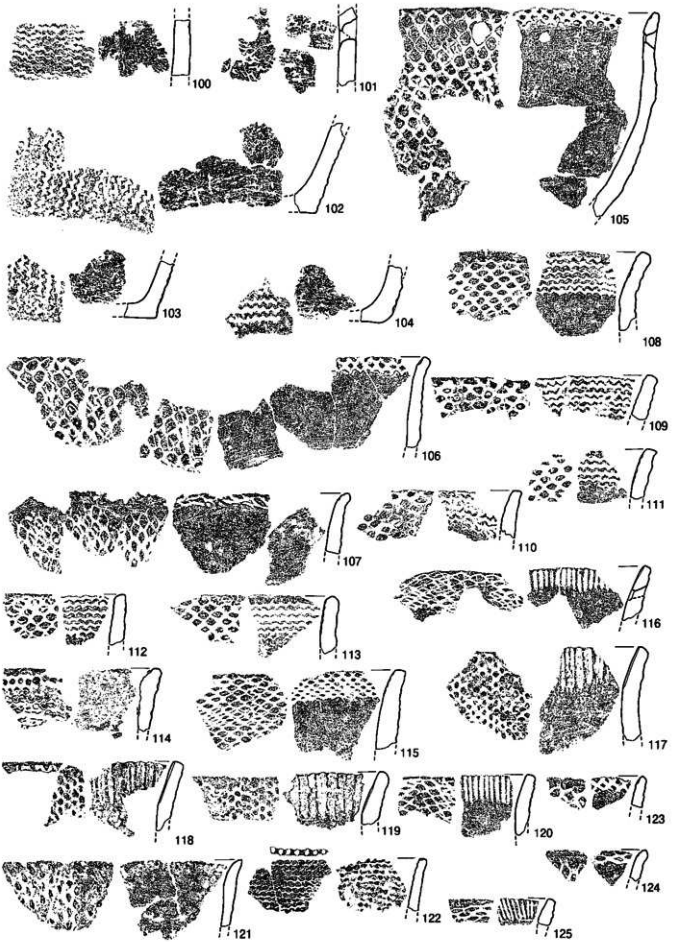
第50図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S=1/3）



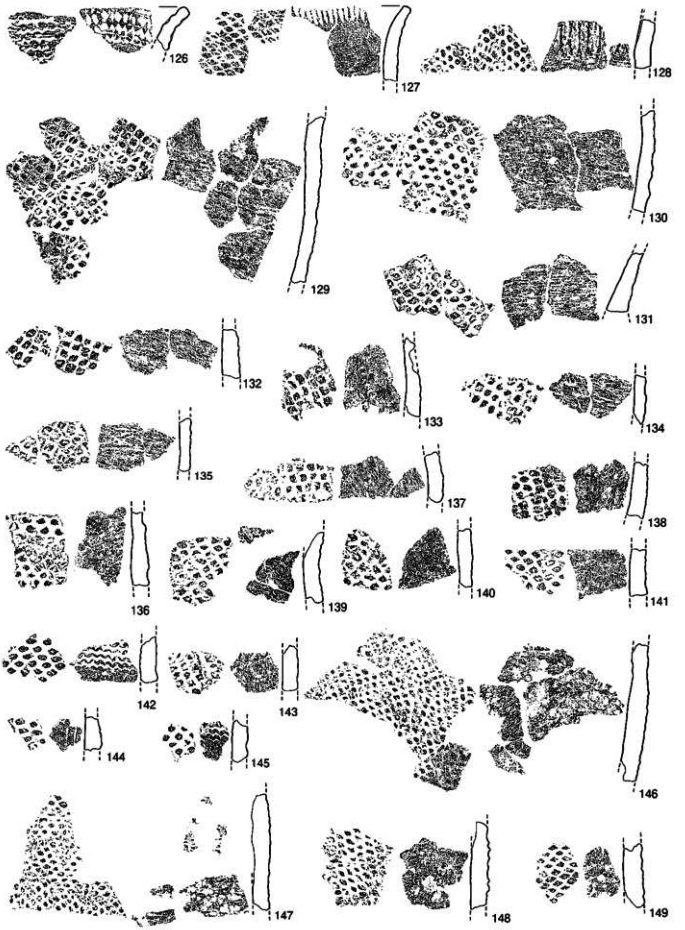
第51図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S=1/3）



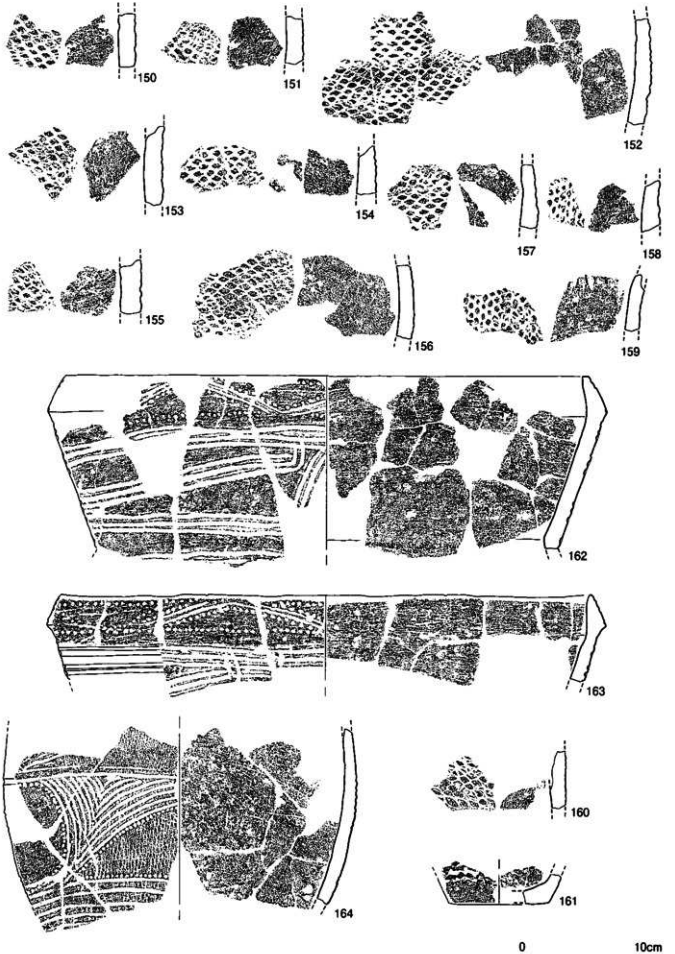
第52図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S＝1/3）



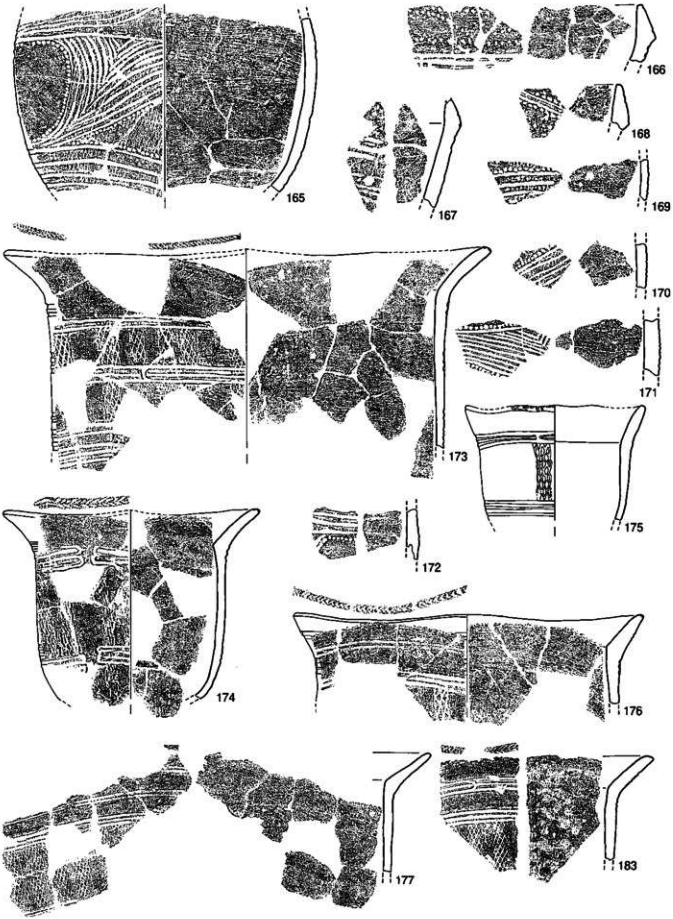
第53図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤（S=1/3）



第54図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S＝1/3）

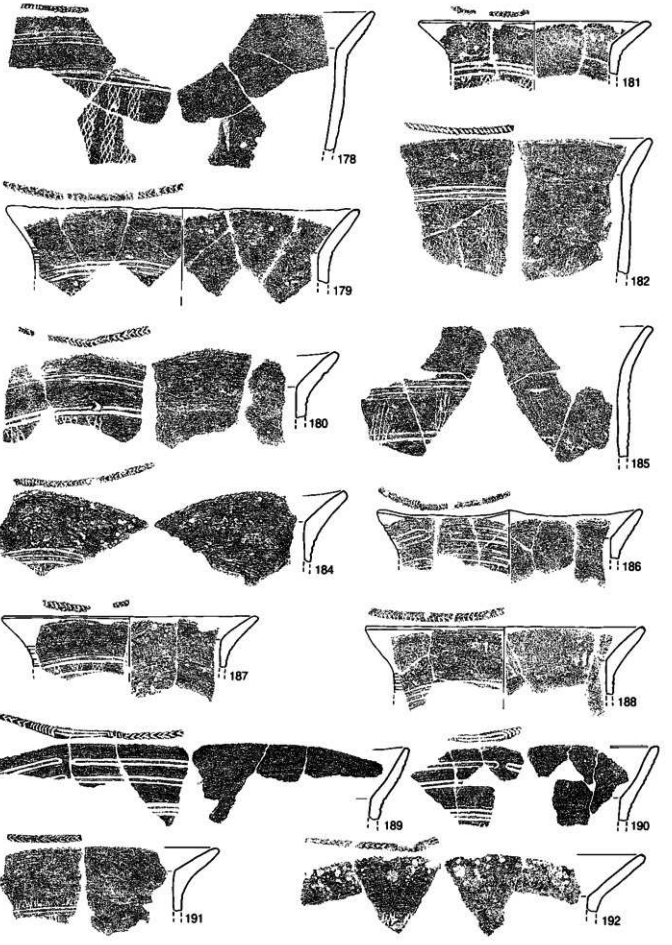


第55図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦（S＝1/3）

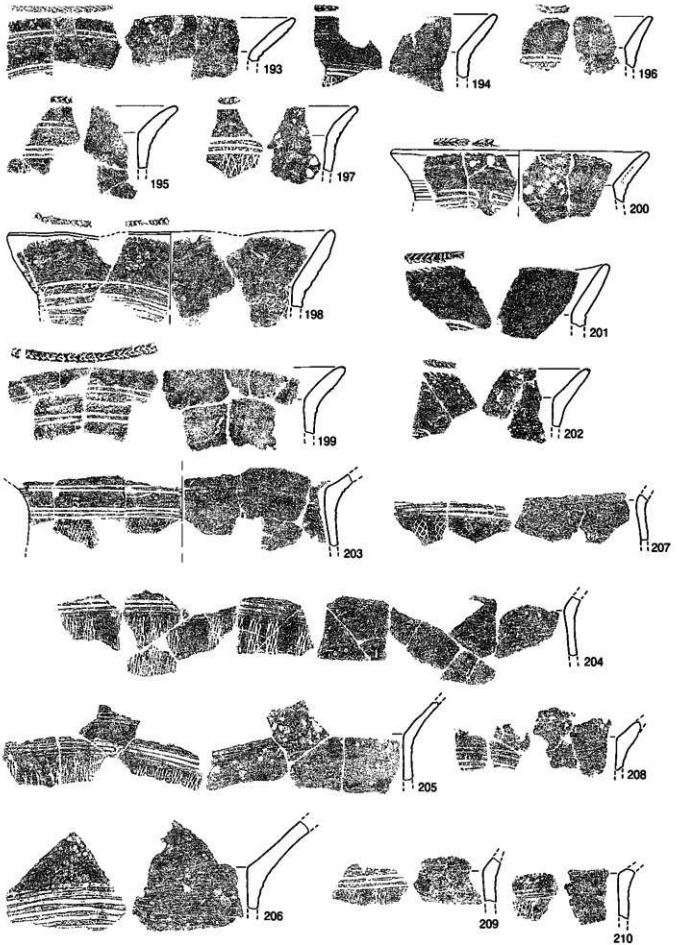


第56図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧（S＝1/3）

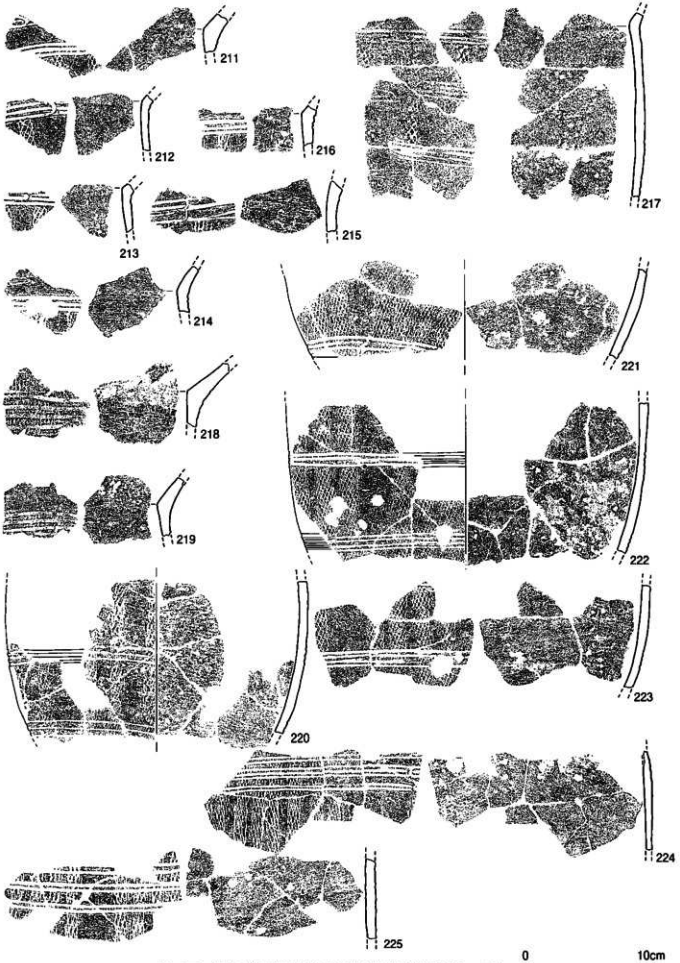
0　10cm



第57図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑨（S＝1/3）

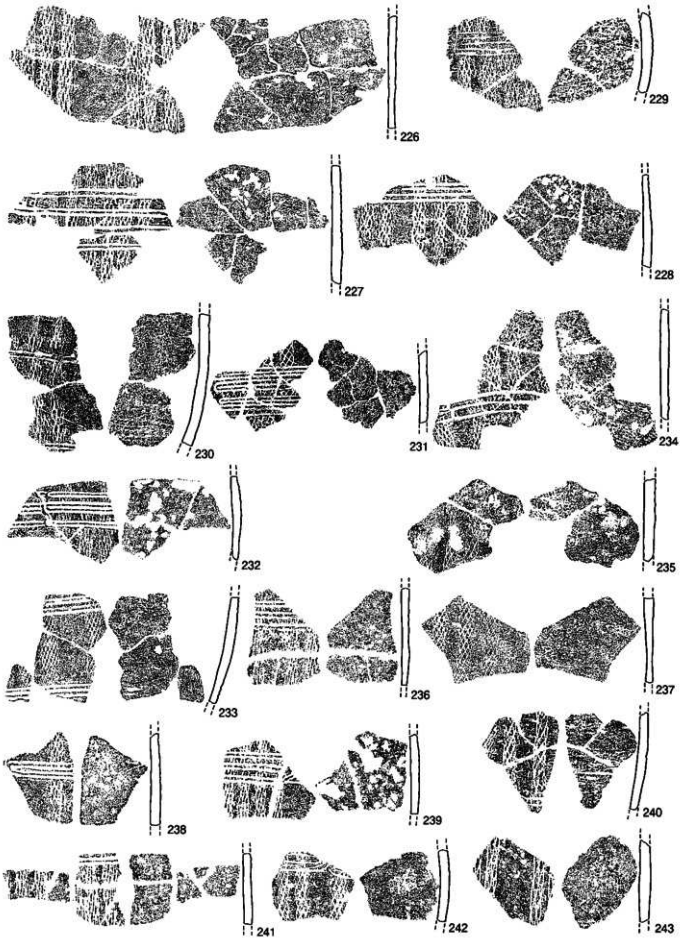


第58図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩（S＝1/3）

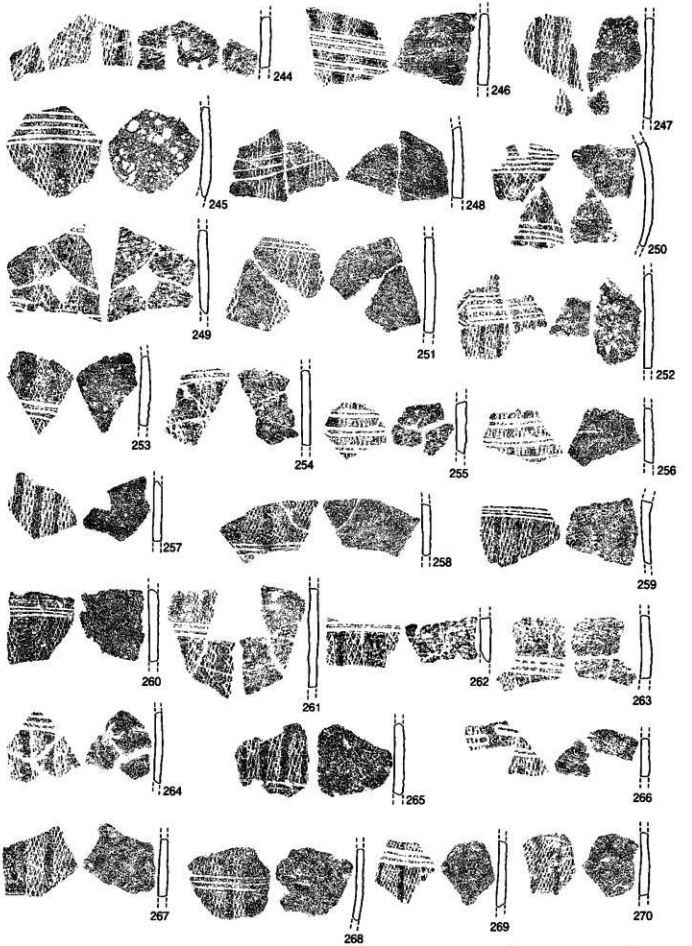


0 10cm

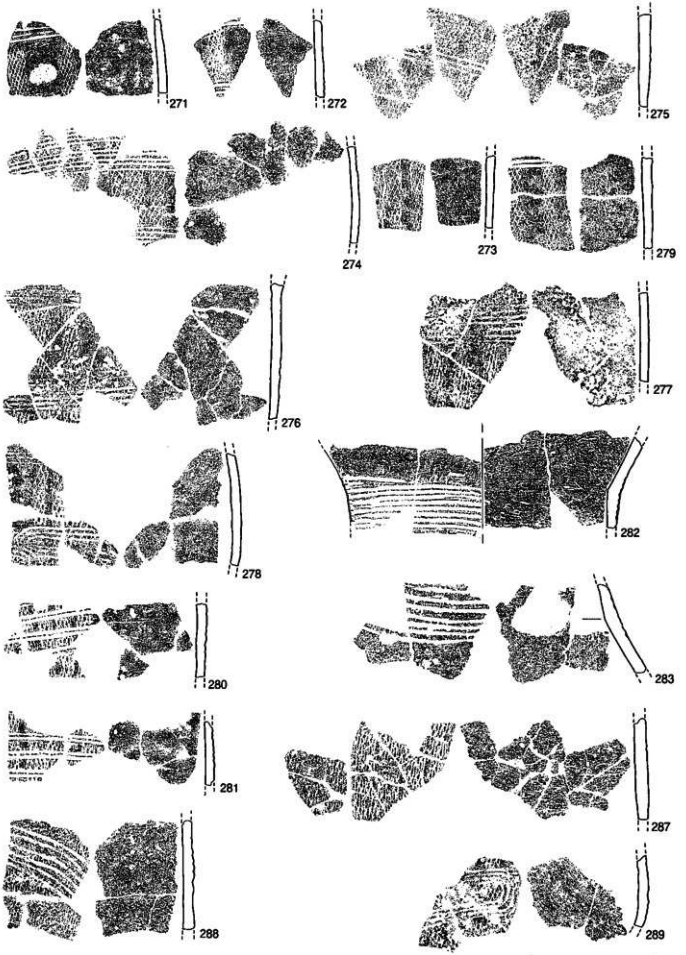
第59図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図(1)（S=1/3）



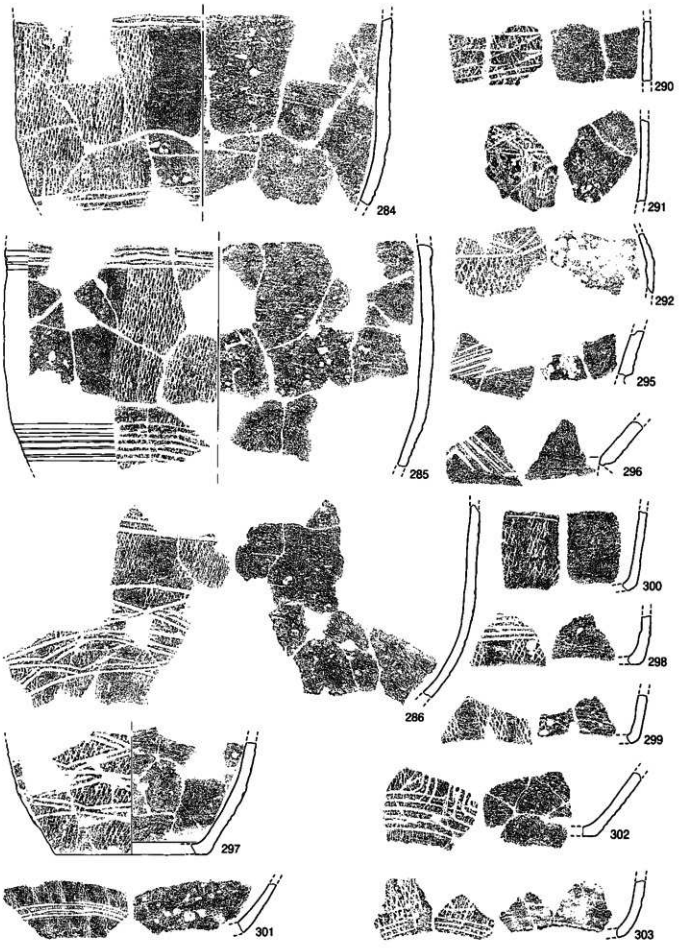
第60図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫（S＝1/3）



第61図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬（S=1/3）

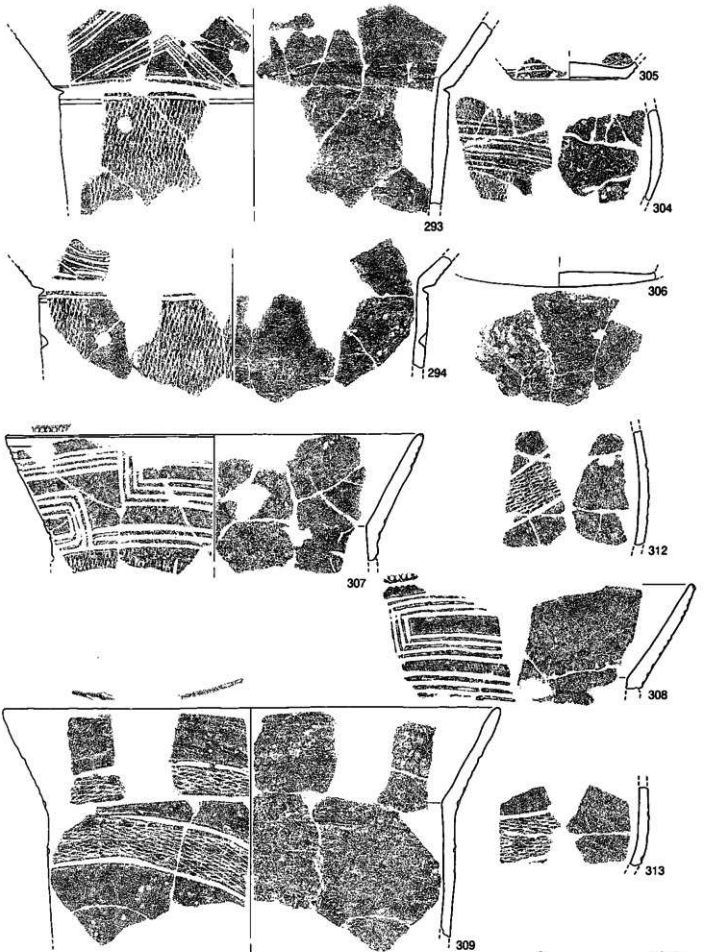


第62図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑭（S＝1/3）

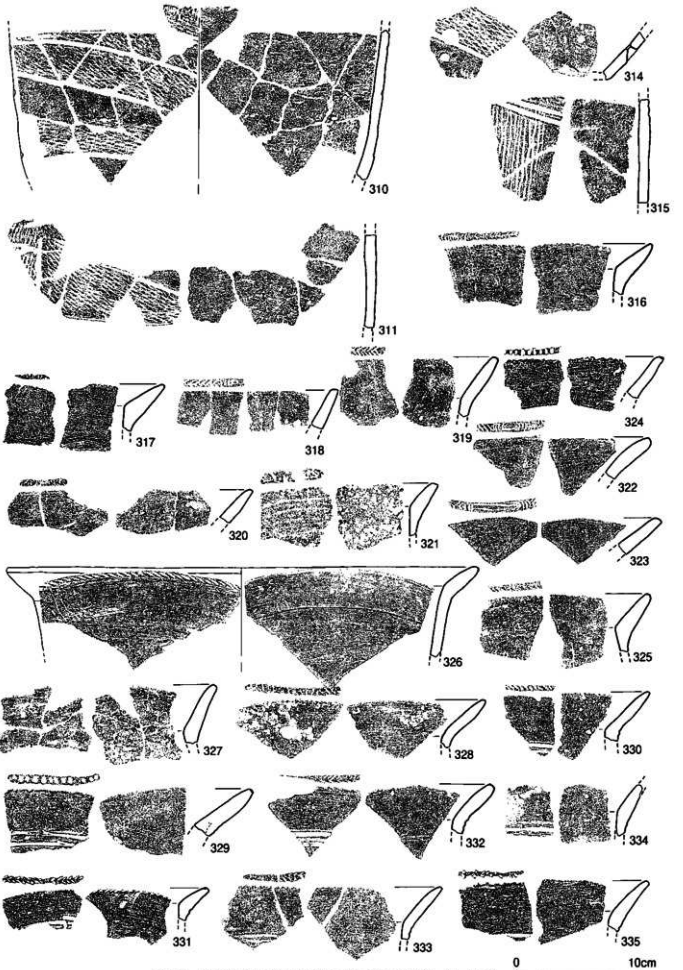


第63図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑮（S＝1/3）

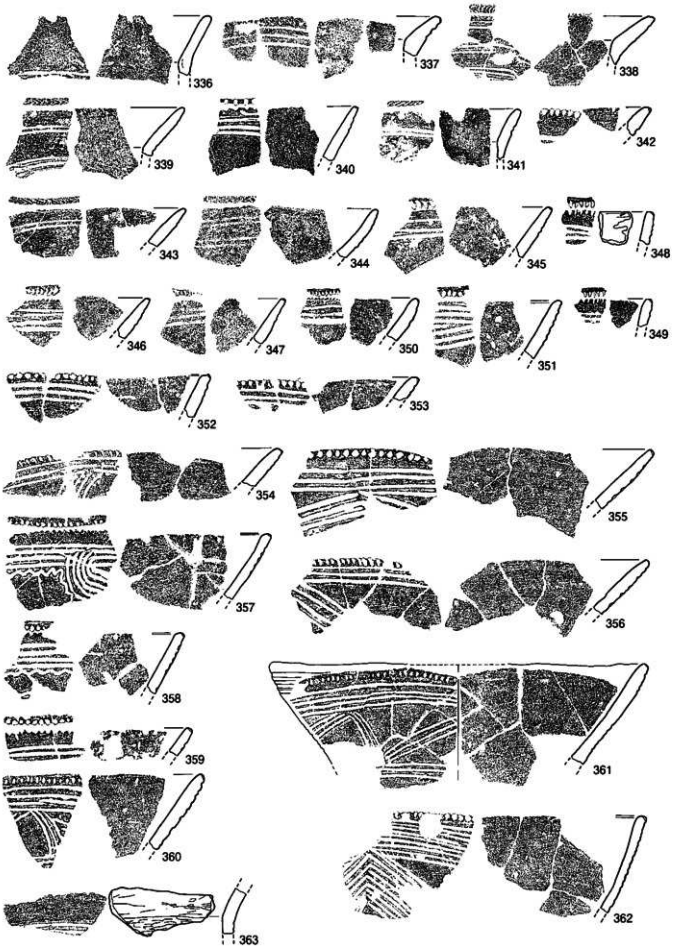
0　10cm



第64図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑯（S＝1/3）

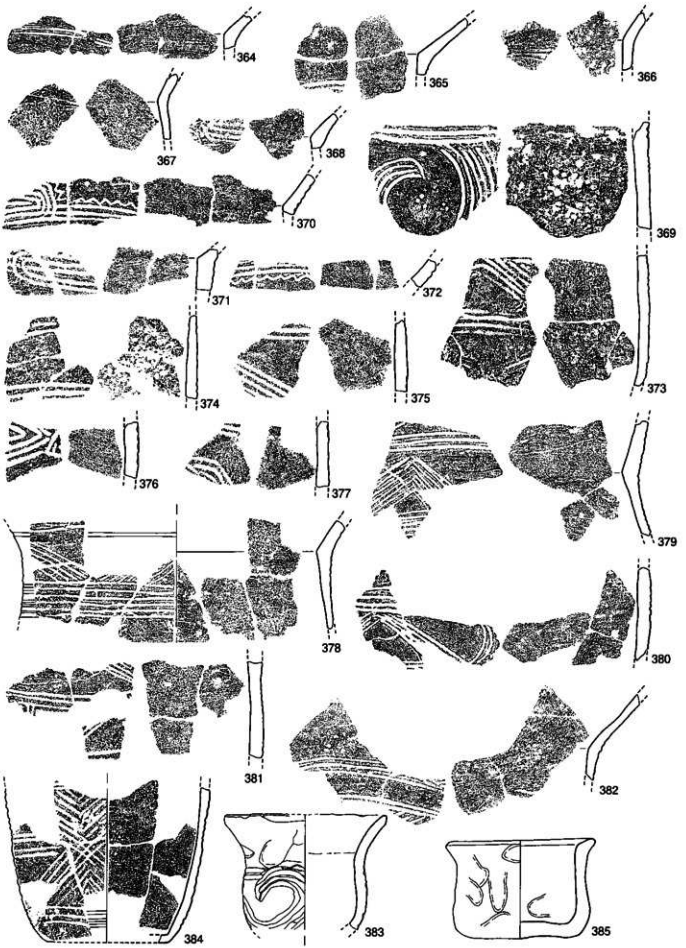


第65図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑰（S＝1/3）

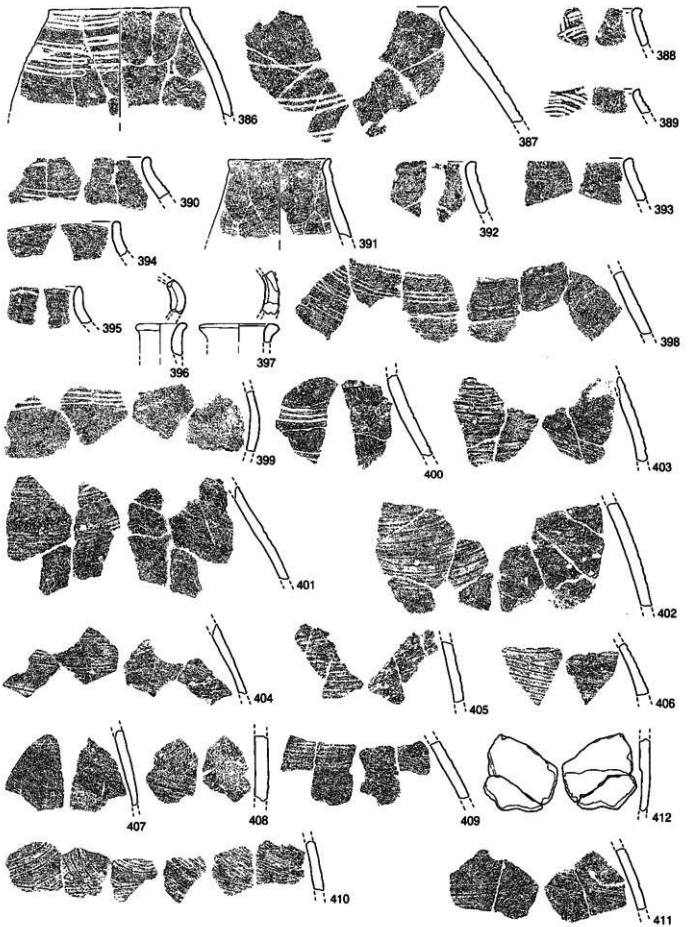


第66図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S＝1/3）

0　10cm



第67図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑲（S=1/3）



第68図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉔（S＝1/3）

第11表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表

報告図No	出土層位	器形	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 キンウンモ	胎土 クロウンモ	胎土 角閃石輝石	胎土 砂粒	備考
1	⑤	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ 刺突文　キザミ目	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/1（褐灰）	○	○			○5mm以下	口縁径19.8cm
2	⑥	深鉢	口縁～胴部	ナデ　刺突文・ 貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/4（にぶい黄褐）	7.5YR7/1（明褐灰）	○				○1mm以下	口唇部に刻み （棒状工具）
3	⑥	鉢	口縁	貝殻条痕文→ナデ刺 突文・キザミ目	貝殻条痕文→ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○				○4mm以下	
4	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○				○2.5mm以下	内面剥離が激しい
5	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○1.5mm以下	内面剥離が激しい
6	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○				○1mm以下	
7	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○1mm以下	
8	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	
9	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	2.5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○				○1mm以下	
10	⑤	深鉢	口縁	条痕文　沈線文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○			○	○1mm以下	
11	⑤	深鉢	口縁	貝殻条痕文→ナデ 刺突文・楔形突起文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○				○1mm以下	口唇部に刻み
12	⑥	深鉢	口縁～胴部	刺突文・楔形突起文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	2.5YR5/4（にぶい赤褐）	○			○	○2mm以下	口唇部に刻み
13	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文→ナデ 刺突文・楔形突起文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○			○	○4mm以下	
14	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文→ナデ 刺突文・楔形突起文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○			○	○2mm以下	
15	⑤	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
16	⑤	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ミガキ　ナデ？	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
17	⑤	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR6/3（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○			○	○3mm以下	口唇部にミガキ
18		深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
19	③	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR4/1（褐灰）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
20	④	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ？	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○			○	○2mm以下	口唇部にミガキ
21	④	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	2.5Y4/1（黄灰）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
22	④	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y4/1（黄灰）	○				○3mm以下	口唇部にミガキ
23	④	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
24	④	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR4/1（褐灰）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
25	⑥	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ナデ？	2.5Y5/2（暗灰黄）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○				○2mm以下	穿孔あり
26	⑥	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	5YR7/1（明褐灰）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○			○	○2mm以下	口唇部にミガキ
27		深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
28	④	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ミガキ （指押さえ）	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○				○3mm以下	口唇部にミガキ
29	⑤	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○			○	○2mm以下	口唇部にミガキ
30	⑥	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	2.5Y4/1（黄灰）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
31	④	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	2.5Y6/2（灰黄）	2.5Y4/1（黄灰）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
32	④	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR7/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
33	⑥	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/4（にぶい黄褐）	○				○4mm以下	口唇部にミガキ
34	⑥	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/1（褐灰）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
35	④	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
36	⑤	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ミガキ	2.5YR6/3（にぶい橙）	10YR7/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	口唇部にミガキ
37	⑥	深鉢	口縁部～胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/2（灰黄褐）	○				○3mm以下	
38	④	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○				○3mm以下	
39	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○			○	○3mm以下	
40	④	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR6/2（灰黄褐）	○				○3mm以下	
41	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○			○	○4mm以下	
42	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ？	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○			○	○5mm以下	
43	④	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	2.5Y4/1（黄灰）	○				○3mm以下	
44		深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○			○	○2mm以下	口唇部にミガキ
45	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR8/2（灰白）	10YR5/2（灰黄褐）	○				○2mm以下	内面剥離が激しい
46	⑤	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文 押引文（貝殻腹縁）	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○				○1mm以下	
47	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○				○3mm以下	
48	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y5/1（黄灰）	○				○2mm以下	
49	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○			○	○1mm以下	
50	⑤	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/1（褐灰）	10YR3/1（黒褐）	○				○2mm以下	
51	⑥	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○2mm以下	
52	⑤	深鉢	口縁～胴部	刺突文（押引状）	ナデ	10YR5/4（にぶい黄褐）	10YR7/1（灰白）	○			○	○2mm以下	
53	⑥	深鉢	口縁～胴部	刺突文（押引状）	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○				○3mm以下	
54	⑤	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○				○1mm以下	口唇部に刻み
55		鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○				○2mm以下	底部径7cm・内面の剥離が激しい
56	④	深鉢	胴部～底部	無文	ナデ	10YR7/3（にぶい黄橙）	2.5Y6/1（黄灰）	○			○	○3mm以下	
57	⑤	鉢	胴部	刺突文 （貝殻腹縁）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	2.5Y4/1（黄灰）	○	○			○3mm以下	内面剥離が激しい
58	⑤	鉢	胴部	刺突文 （貝殻腹縁）	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○			○3mm以下	
59	⑤	鉢	胴部	刺突文 （貝殻腹縁）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○			○	○2mm以下	
60	⑥	深鉢	口縁～胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○				○5mm以下	口縁径23.8cm
61	⑥	深鉢	口縁	山形押型文	ナデ 山形押型文	7.5YR4/2（灰褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○			○2mm以下	口唇部に刻みあり 穿孔あり
62	⑤・⑥	深鉢	口縁	山形押型文	ナデ 山形押型文	7.5YR4/2（灰褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○				○1mm以下	口唇部に刻み
63	⑥	深鉢	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○				○2mm以下	